

2021 年 4 月 19 日改訂版

2020 年度 化粧品産業動向調査報告書

2021 年 3 月

独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)

< 調査概要 >

I. 化粧品産業動向調査

1. 調査目的

独立行政法人製品評価技術基盤機構（以下「NITE」という。）バイオテクノロジーセンター（以下「バイオセンター」という。）では、「バイオ戦略 2019（2020）」の目標とする我が国のバイオエコノミー社会実現に向け、将来を見据えた事業戦略の検討を進めている。NITE バイオセンターから役務を受けた株式会社富士経済により、微生物を活用した原材料の活用の増加が期待されている化粧品業界の市場規模等について、現状を把握し今後の動向について分析し把握するため、本調査を実施した。

2. 調査内容

- 2.1 家計における化粧品の支出額
- 2.2 インバウンド消費額
- 2.3 大企業・中小企業、小規模企業の割合・各事業所数
- 2.4 生産額の推移
- 2.5 売上高の推移
- 2.6 諸外国における輸出入額の状況
- 2.7 専業・兼業の割合
- 2.8 化粧品業界の動向

3. 調査方法

富士経済保有データの活用および専門調査員によるデスクサーベイ、TEL/メールによる間接取材を実施した。

4. 調査期間

2020 年 12 月～2021 年 3 月

5. 調査実施機関

株式会社富士経済 東京オフィス

II. 付属資料 世界の化粧品市場規模

I. 化粧品産業動向調査を補足する情報として、NITE バイオセンターがユーロモニターインターナショナルのデータを用いて、世界及び上位 15 カ国（小売価格ベース）における市場規模の集計を行った。

< 目 次 >

1	家計における化粧品への支出額.....	1
2	インバウンド消費額	5
3	大企業・中小企業、小規模企業の割合・各事業所数.....	6
4	生産額の推移	12
5	売上高の推移	13
6	諸外国における輸出入額の状況	14
7	専業・兼業の割合	46
8	化粧品業界の動向	49
附属資料 世界の化粧品市場規模		138

1 家計における化粧品の支出額

本調査では、日本及び諸外国（米国、中国、フランス、香港、韓国、台湾、ロシア）における家計の全消費支出中に占める化粧品の金額について直近を含め過去 10 年分の情報収集を試みた。その結果、日本においては条件を満たす情報を入手することができたが、諸外国については化粧品の消費支出自体をとりまとめていないため条件を満たすデータを得ることはできなかった。

なお、調査にあたっては諸外国の関係機関へアプローチし、化粧品の消費支出に関する統計の有無と関連情報について確認を行った。以下はその結果を整理したものである。

国名	関係機関	統計の有無	関連情報	備考
日本	総務省統計局	○	—	「家計調査」
米国	アメリカ労働統計局 (U.S. Bureau of Labor Statistics)	×	○	” Personal care products and services” に化粧品が含まれる。
中国	中国国家统计局 (Nasional Bureau of Statistics of China)	×	○	生活用品全般に含まれる。
フランス	駐日フランス大使館	×	×	回答あり
	FEBEA（化粧品企業連合）	—	—	メール窓口（メンテナンス中）
香港	香港統計局 (Census and Statistics Department -Hong Kong)	×	×	回答あり
韓国	韓国保健産業振興院	×	×	回答なし
	大韓貿易投資振興公社	×	×	回答なし
	駐日韓国大使館	×	×	回答あり
台湾	日本台湾交流協会	×	×	回答あり
	行政院主計総処	×	×	回答あり
ロシア	ロシア連邦国家統計局	×	×	回答なし

(1) 日本

年次別	消費支出	化粧品合計	消費支出に占める化粧品の割合
	円	円	%
2009 年	3,500,848	33,561	0.96
2010 年	3,482,930	34,389	0.99
2011 年	3,395,587	34,241	1.01
2012 年	3,434,026	34,488	1.00
2013 年	3,485,454	35,535	1.02
2014 年	3,494,322	35,141	1.01
2015 年	3,448,482	34,726	1.01
2016 年	3,386,257	34,294	1.01
2017 年	3,396,330	34,380	1.01
2018 年	3,447,782	35,412	1.03

[出典：総務省統計局]

上表は年間消費支出金額および化粧品^{注1}の支出額、さらには年間消費支出金額に占める化粧品支出金額の割合を示している。

二人以上の世帯における 2018 年の世帯あたりの年間消費支出金額は 3,447,782 円であり、そのうち化粧品の支出金額は 35,412 円で全体の 1.03%を占めている。

注 1 ヘアリンス・ヘアトリートメント、整髪養毛剤、化粧クリーム、化粧水、乳液、ファンデーション、口紅、ヘアカラーリング剤、その他化粧品を含む。

(2) 米国

年次別	消費支出	パーソナルケア 製品・サービス	消費支出に占め る化粧品の割合
	ドル	ドル	%
2010 年	61,762	729	1.18
2011 年	63,972	819	1.28
2012 年	67,310	804	1.19
2013 年	66,855	776	1.16
2014 年	53,495	645	1.21
2015 年	55,978	683	1.22
2016 年	57,311	707	1.23
2017 年	60,060	762	1.27
2018 年	61,224	768	1.25
2019 年	63,036	786	1.25

[出典：アメリカ労働統計局]

上表は年間消費支出金額およびパーソナルケア製品・サービスの支出額、さらには年間消費支出金額に占めるパーソナルケア製品・サービスの支出額の割合を示している。なお、米国の家計消費調査（Consumer expenditures report）ではパーソナルケア製品・サービスに化粧品が含まれており、化粧品のみを対象とした消費支出額は明らかとならなかった。

2019 年の世帯あたりの年間消費支出金額は 63,036 ドル（6,871,535 円相当）^{注2}であり、そのうち化粧品を含むパーソナルケア製品・サービスの支出金額は 786 ドル（85,682 円相当）^{注2}で全体の 1.25%を占めている。

注 2 2019 年の平均レートは 1USドルあたり 109.0097 円(出典:IMF Data)

(3) 中国

年次別	消費支出	生活用品全般	消費支出に占める生活用品全般の割合
	元	元	%
2013 年	13,220.4	806.5	6.10
2014 年	14,491.4	889.7	6.14
2015 年	15,712.4	951.4	6.06
2016 年	17,110.7	1,043.7	6.10
2017 年	18,322.1	1,120.7	6.12
2018 年	19,853.1	1,222.7	6.16
2019 年	21,558.9	1,280.9	5.94

[出典：中国国家統計局]

上表は年間消費支出金額および生活用品全般の支出額、さらには年間消費支出金額に占める生活用品全般の支出金額の割合を示している。なお、「中国統計年鑑」には生活用品全般に化粧品が含まれており、化粧品のみを対象とした消費支出額は明らかとならなかった。

2019 年の世帯あたりの年間消費支出金額は 21,558.9 元（340,409 円相当）^{注3}であり、そのうち化粧品を含む生活用品全般の支出金額は 1,280.9 元（20,225 円相当）^{注3}で全体の 5.94%を占めている。

注3 2019 年の平均レートは 1 人民元あたり 15.7897 円(出典:IMF Data)

2 インバウンド消費額

日本国内における化粧品インバウンド消費額^{注4,5}（食品、洋服、医薬品など他の製品分野との比較）について直近を含め過去5年分の状況を取りまとめると、以下のとおりである。

（単位：人、円）

	2015 年		2016 年		2017 年	
	回答数	購入者単価	回答数	購入者単価	回答数	購入者単価
菓子類	20,968	9,457	20,204	8,420	21,081	8,207
その他食料品・飲料・たばこ	17,158	11,975	16,695	10,992	18,030	10,322
化粧品・香水	11,513	29,446	11,234	28,191	12,205	28,614
医薬品・健康グッズ・トイレタリー	12,434	23,998	13,567	19,287	14,577	16,570
和服（着物）・民芸品	3,408	15,557	3,127	13,059	3,202	13,461
服（和服以外）・かばん・靴	11,241	38,841	10,183	30,092	10,090	27,673

出典：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

（単位：人、円）

	2018 年		2019 年	
	回答数	購入者単価	回答数	購入者単価
菓子類	19,448	8,353	21,181	8,222
酒類	6,716	7,211	7,189	8,676
生鮮農産物	2,365	5,165	2,495	5,819
その他食料品・飲料・たばこ	11,115	8,976	12,681	8,345
化粧品・香水	10,421	30,861	10,585	34,176
医薬品	7,690	13,886	7,765	14,637
健康グッズ・トイレタリー	4,015	15,042	3,963	14,361
衣類	12,287	19,393	12,780	19,585
靴・かばん・革製品	6,564	23,779	6,538	28,986

出典：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

2019 年における日本国内の化粧品・香水のインバウンド消費額は 34,176 円である。

また、その他消費財である食品のインバウンド消費額は 31,062 円、衣類は 19,585 円、医薬品は 14,637 円であり、化粧品・香水の消費額は消費財のなかでも多いことがわかる。

注4 インバウンド消費額は、回答者 1 人あたりの支出額を円に換算している。

注5 2018 年から調査品目のカテゴリーが細分化されたため、2015～2017 年の品目とは合致しない。

3 大企業・中小企業、小規模企業の割合・各事業所数

化粧品製造・製造販売業を行う大企業・中小企業・小規模企業の割合、事業所数については、厚生労働省と経済産業省において関連情報をとりまとめている。厚生労働省の「衛生行政報告例」には化粧品製造販売及び製造業態数、経済産業省の「工業統計調査」には従業員規模別で事業所数がまとまっている。

厚生労働省の調査は、各都道府県へ化粧品製造販売及び製造業態として申請された事業所が集計されており、化粧品製造・製造販売業を把握するうえでは有益な情報ではあるが、本調査では規模別の割合や事業所数、さらには医薬品業界及び食品業界との比較を行うことを目的としていることから経済産業省の「工業統計調査」を採用することとした。

(1) 化粧品^{注6,7}

1) 従業員規模別事業所数

(単位：社)

	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
4 人～9 人	94	79	80	157	100	99	82	117
10 人～19 人	91	84	88	93	94	93	87	104
20 人～29 人	79	76	70	71	74	77	76	77
30 人～49 人	47	49	45	58	55	47	58	62
50 人～99 人	73	81	85	73	72	71	73	73
100 人～199 人	38	38	32	29	39	39	42	48
200 人～299 人	16	19	18	19	18	21	20	23
300 人～499 人	10	11	13	11	13	13	9	11
500 人～999 人	9	7	8	7	6	6	8	7
1,000 人以上	1	1	1	1	1	1	1	2
合計	458	445	440	519	472	467	456	524

	2016 年	2017 年	2018 年
4 人～9 人	74	74	68
10 人～19 人	83	87	89
20 人～29 人	86	87	84
30 人～99 人	126	123	137
100 人～299 人	85	84	80
300 人以上	20	28	34
合計	474	483	492

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

注 6 化粧品は化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業を示しており、仕上用・皮膚用化粧品製造業（香水、オーデコロンを含む）、頭髪用化粧品製造業、その他の化粧品・歯磨・化粧用調整品製造業を含む。

注 7 2016 年から従業員規模の分類が 10 区分から 6 区分に変更されている。

2) 経営組織別資本金規模別事業所数

(単位：社)

	2016 年	2017 年	2018 年
会社 1000 万円未満	17	31	34
会社 1 千万円以上 3 千万円未満	121	214	217
会社 3 千万円以上 5 千万円未満	40	73	70
会社 5 千万円以上 3 億円未満	70	122	128
会社 3 億円以上	29	38	40
組合・その他	—	1	—
個人	2	4	3
合計	474	483	492

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

(2) 食料品製造業^{注8,9}

1) 従業員規模別事業所数

(単位：社)

	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
4 人～9 人	14,016	12,354	11,709	12,665	10,824	10,177	9,581	11,205
10 人～19 人	7,493	7,356	7,166	6,351	6,840	6,708	6,617	6,158
20 人～29 人	4,359	4,254	4,125	3,432	3,847	3,786	3,678	3,315
30 人～49 人	2,243	2,234	2,223	2,611	2,396	2,296	2,277	2,605
50 人～99 人	2,577	2,561	2,584	2,444	2,535	2,498	2,481	2,500
100 人～199 人	1,469	1,452	1,462	1,395	1,420	1,404	1,412	1,418
200 人～299 人	494	509	488	424	492	502	507	470
300 人～499 人	357	349	355	331	331	363	361	365
500 人～999 人	131	144	149	121	146	152	172	177
1,000 人以上	23	20	21	20	21	28	29	26
合計	33,162	31,233	30,282	29,794	28,852	27,914	27,115	28,239

	2016 年	2017 年	2018 年
4 人～9 人	8,338	7,776	7,501
10 人～19 人	6,068	6,096	5,907
20 人～29 人	3,652	3,523	3,449
30 人～99 人	4,801	4,873	4,875
100 人～299 人	1,998	1,995	2,066
300 人以上	609	629	642
合計	25,466	24,892	24,440

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

注8 食品製造業には、次の業界が含まれる。畜産食料品製造業、部分肉・冷凍肉製造業、肉加工品製造業、処理牛乳・乳飲料製造業、乳製品製造業（処理牛乳・乳飲料を除く）、その他の畜産食料品製造業、水産食料品製造業、水産缶詰・瓶詰製造業、海藻加工業、水産練製品製造業、塩干・塩蔵品製造業、冷凍水産物製造業、冷凍水産食品製造業、その他の水産食料品製造業、野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業、野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業（野菜漬物を除く）、野菜漬物製造業（缶詰・瓶詰・つぼ詰を除く）、調味料製造業、味そ製造業、しょう油・食用アミノ酸製造業、ソース製造業、食酢製造業、その他の調味料製造業、糖類製造業、砂糖製造業（砂糖精製業を除く）、砂糖精製業、ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業、精穀・製粉業、精米・精麦業、小麦粉製造業、その他の精穀・製粉業、パン・菓子製造業、パン製造業、生菓子製造業、ビスケット類・干菓子製造業、米菓製造業、その他のパン・菓子製造業、動植物油脂製造業、動植物油脂製造業（食用油脂加工業を除く）、食用油脂加工業、その他の食料品製造業、でんぶん製造業、めん類製造業、豆腐・油揚げ製造業、あん類製造業、冷凍調理食品製造業、そう（惣）菜製造業、すし・弁当・調理パン製造業、レトルト食品製造業、他に分類されない食料品製造業。

注9 2016 年から従業員規模の分類が 10 区分から 6 区分に変更されている。

2) 経営組織別資本金規模別事業所数

(単位：社)

	2016 年	2017 年	2018 年
会社 1000 万円未満	6,714	6,518	6,327
会社 1 千万円以上 3 千万円未満	8,893	8,763	8,645
会社 3 千万円以上 5 千万円未満	1,984	1,983	2,012
会社 5 千万円以上 3 億円未満	2,777	2,840	2,894
会社 3 億円以上	1,218	1,186	1,188
組合・その他	777	762	728
個人	3,103	2,840	2,646
合計	25,466	24,892	24,440

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

(3) 医薬品製造業^{注 10, 11}

(単位：社)

	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
4 人～9 人	139	111	115	121	109	95	89	109
10 人～19 人	112	113	100	100	103	101	95	90
20 人～29 人	95	90	97	82	76	75	75	74
30 人～49 人	90	85	83	90	84	80	87	75
50 人～99 人	150	144	146	168	152	142	144	155
100 人～199 人	148	155	150	135	145	145	150	135
200 人～299 人	56	54	52	50	46	57	57	62
300 人～499 人	45	44	49	48	51	55	57	64
500 人～999 人	25	28	25	24	29	27	23	21
1,000 人以上	5	5	5	4	5	4	4	5
合計	865	829	822	822	800	781	781	790

	2016 年	2017 年	2018 年
4 人～9 人	81	80	83
10 人～19 人	87	80	77
20 人～29 人	75	73	73
30 人～99 人	230	230	223
100 人～299 人	200	206	211
300 人以上	95	88	90
合計	768	757	757

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

注 10 医薬品製造業には、次の業界が含まれる。医薬品原薬製造業、生物学的製剤製造業、生薬・漢方製剤製造業、動物用医薬品製造業。

注 11 2016 年から従業員規模の分類が 10 区分から 6 区分に変更されている。

2) 経営組織別資本金規模別事業所数

(単位：社)

	2016 年	2017 年	2018 年
会社 1000 万円未満	10	17	737
会社 1 千万円以上 3 千万円未満	173	168	18
会社 3 千万円以上 5 千万円未満	84	85	160
会社 5 千万円以上 3 億円未満	234	229	86
会社 3 億円以上	244	238	238
組合・その他	21	19	235
個人	2	1	18
合計	768	757	757

出典：「工業統計調査」（経済産業省）

4 生産額の推移

日本国内における化粧品を生産額の推移について、直近を含め過去 10 年分の状況を取りまとめると、以下のとおりである。

なお、生産額については、化粧品^{注 12}の出荷販売金額を示している。

年次別	金額	前年比
	百万円	%
2010 年	1,421,959	—
2011 年	1,404,813	98.8
2012 年	1,404,803	100.0
2013 年	1,427,028	101.6
2014 年	1,483,891	104.0
2015 年	1,475,767	99.5
2016 年	1,499,479	101.6
2017 年	1,611,173	107.4
2018 年	1,694,150	105.2
2019 年	1,761,146	104.0

出典：「生産動態統計」（経済産業省）

注 12 ヘアリンス・ヘアトリートメント、整髪養毛剤、化粧クリーム、化粧水、乳液、ファンデーション、口紅、ヘアカラーリング剤、その他化粧品を含む。

5 売上高の推移

日本国内における化粧品市場のメーカーシェア上位 10 位の化粧品の売上高推移について、直近を含め過去 10 年分の状況を以下に整理した。

(単位：百万円)

	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
資生堂グループ ^{注 13}	321, 200	289, 000	274, 200	273, 200	269, 590
花王グループ ^{注 14}	357, 800	352, 000	330, 840	325, 230	339, 320
コーセーグループ ^{注 15}	140, 300	133, 300	131, 010	140, 920	155, 270
P&G ^{注 16}	93, 000	95, 750	90, 530	90, 450	90, 690
ポーラ・オルビス	62, 600	62, 500	62, 690	68, 290	73, 435
ホーユーグループ ^{注 17}	60, 500	66, 300	69, 920	70, 910	62, 100
ユニリーバ・ジャパン	65, 000	63, 400	59, 200	60, 400	60, 400
日本ロレアル ^{注 18}	42, 100	42, 050	43, 185	44, 160	46, 220
ファンケル	31, 650	31, 000	30, 800	31, 000	33, 970
ディーエイチシー	56, 497	48, 231	44, 300	43, 900	43, 090
その他	949, 603	1, 089, 419	1, 161, 625	1, 174, 190	1, 184, 115
合計	2, 180, 250	2, 272, 950	2, 298, 300	2, 322, 650	2, 358, 200

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
資生堂グループ ^{注 13}	295, 695	307, 070	343, 920	369, 855	370, 730
花王グループ ^{注 14}	338, 650	348, 275	329, 660	330, 875	340, 360
コーセーグループ ^{注 15}	180, 950	190, 050	206, 620	213, 065	205, 800
P&G ^{注 16}	93, 970	94, 470	97, 500	102, 950	104, 420
ポーラ・オルビス	78, 655	77, 510	87, 155	88, 125	85, 820
ホーユーグループ ^{注 17}	65, 940	67, 650	70, 625	72, 480	71, 390
ユニリーバ・ジャパン	59, 670	63, 450	64, 850	64, 555	64, 445
日本ロレアル ^{注 18}	49, 250	52, 550	55, 700	57, 080	59, 795
ファンケル	37, 070	36, 960	44, 310	49, 040	52, 300
ディーエイチシー	43, 900	45, 470	45, 080	45, 920	43, 000
その他	1, 203, 750	1, 245, 895	1, 333, 380	1, 389, 855	1, 416, 790
合計	2, 447, 500	2, 529, 350	2, 678, 800	2, 783, 800	2, 814, 850

出典：「化粧品マーケティング要覧 2011～2020」（富士経済）

注 13 資生堂グループ(資生堂、資生堂フィティット、エフティ資生堂)

注 14 花王グループ(花王プレミアム化粧品、カネボウ化粧品、花王プレステージ化粧品、カネボウコスメット、ニベア花王)

注 15 コーセーグループ(コーセー、アルビオン、コーセーコスメポート)

注 16 P&G(P&G プレステージ、P&G ジャパン)

注 17 ホーユー(ホーユー、クラシエホームプロダクツ)

注 18 日本ロレアル(日本ロレアル ロレアルリユクス事業本部、日本ロレアル コンシューマープロダクツ事業本部)

6 諸外国における輸出入額の状況

日本及び諸外国（米国、中国、フランス、香港、韓国、台湾、ロシア）それぞれにおける化粧品の輸出入国相手上位5カ国及びその他（6位以下の合計）の状況について、直近を含め過去10年分の状況を以下にとりまとめた。

（1）日本^{注19}

1）輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)
1 位	台湾	27,617,833	21.7%	台湾	27,824,014	21.7%
2 位	大韓民国	21,750,014	17.1%	中華人民共和国	21,633,436	16.8%
3 位	香港	19,264,366	15.1%	香港	20,828,600	16.2%
4 位	中華人民共和国	18,415,088	14.4%	大韓民国	19,162,890	14.9%
5 位	シンガポール	9,264,766	7.3%	シンガポール	8,594,809	6.7%
6 位以下	その他	31,151,525	24.4%	その他	30,398,322	23.7%
	合計	127,463,592	100.0%	合計	128,442,071	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)
1 位	台湾	25,300,980	20.3%	台湾	28,077,262	20.7%
2 位	香港	21,735,222	17.4%	香港	25,145,199	18.5%
3 位	中華人民共和国	20,476,474	16.4%	中華人民共和国	19,535,640	14.4%
4 位	大韓民国	19,246,377	15.4%	大韓民国	17,997,823	13.2%
5 位	シンガポール	9,951,276	8.0%	シンガポール	11,196,561	8.2%
6 位以下	その他	28,027,852	22.5%	その他	33,915,684	25.0%
	合計	124,738,181	100.0%	合計	135,868,169	100.0%

注 19 日本の輸出・輸入 HS コードは以下のとおりである。

3303 香水類及びオーデコロン類

3304 美容用、メーキャップ用又は皮膚の手入れ用の調製品（日焼止め用又は日焼け用の調製品を含むものとし、医薬品を除く。）及びマニキュア用又はペディキュア用の調製品

3305 頭髪用の調製品

330710000 ひげそり前用、ひげそり用又はひげそり後用の調製品

330720000 身体用の防臭剤及び汗止め

330730000 芳香を付けた浴用塩その他の浴用の調製品

330790000 その他のもの

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)
1 位	香港	30,607,514	20.1%	香港	53,555,171	25.8%
2 位	台湾	28,790,524	18.9%	中華人民共和国	36,416,663	17.5%
3 位	中華人民共和国	22,376,351	14.7%	台湾	35,703,694	17.2%
4 位	大韓民国	19,695,420	12.9%	大韓民国	24,381,032	11.7%
5 位	シンガポール	12,026,272	7.9%	シンガポール	14,518,584	7.0%
6 位以下	その他	38,826,610	25.5%	その他	43,199,344	20.8%
	合計	152,322,691	100.0%	合計	207,774,488	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)
1 位	香港	86,363,189	32.3%	中華人民共和国	106,470,631	28.7%
2 位	中華人民共和国	52,358,718	19.6%	香港	105,743,880	28.5%
3 位	台湾	33,637,479	12.6%	大韓民国	39,981,281	10.8%
4 位	大韓民国	30,425,999	11.4%	台湾	35,670,820	9.6%
5 位	シンガポール	17,587,085	6.6%	シンガポール	24,219,467	6.5%
6 位以下	その他	47,253,163	17.7%	その他	59,493,120	16.0%
	合計	267,625,633	100.0%	合計	371,579,199	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸出額 (千円)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	183,820,567	34.9%	中華人民共和国	241,847,081	42.0%
2 位	香港	134,817,492	25.6%	香港	131,109,686	22.8%
3 位	大韓民国	54,599,211	10.4%	大韓民国	52,884,262	9.2%
4 位	シンガポール	38,773,386	7.4%	シンガポール	44,933,771	7.8%
5 位	台湾	38,064,947	7.2%	台湾	37,471,472	6.5%
6 位以下	その他	75,953,494	14.4%	その他	67,464,879	11.7%
	合計	526,029,097	100.0%	合計	575,711,151	100.0%

出典：「貿易統計」（財務省）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)
1 位	フランス	49,581,552	27.7%	フランス	45,352,074	27.1%
2 位	タイ	41,296,750	23.1%	タイ	32,062,005	19.2%
3 位	アメリカ合衆国	31,051,292	17.3%	アメリカ合衆国	30,368,239	18.1%
4 位	中華人民共和国	13,844,443	7.7%	中華人民共和国	14,766,158	8.8%
5 位	大韓民国	6,878,359	3.8%	大韓民国	9,198,532	5.5%
6 位以下	その他	36,467,563	20.4%	その他	35,655,991	21.3%
	合計	179,119,959	100.0%	合計	167,402,999	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)
1 位	フランス	47,154,112	24.6%	フランス	52,954,186	24.6%
2 位	タイ	42,260,174	22.0%	タイ	41,563,252	19.3%
3 位	アメリカ合衆国	34,962,999	18.2%	アメリカ合衆国	40,260,119	18.7%
4 位	中華人民共和国	17,307,135	9.0%	中華人民共和国	19,323,185	9.0%
5 位	大韓民国	12,607,194	6.6%	大韓民国	13,051,943	6.1%
6 位以下	その他	37,770,668	19.7%	その他	47,748,611	22.2%
	合計	192,062,282	100.0%	合計	214,901,296	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)
1 位	フランス	55,009,853	25.3%	フランス	61,161,254	25.7%
2 位	アメリカ合衆国	40,407,927	18.6%	アメリカ合衆国	47,569,615	20.0%
3 位	タイ	37,266,027	17.2%	タイ	36,915,259	15.5%
4 位	中華人民共和国	18,635,978	8.6%	中華人民共和国	21,800,593	9.2%
5 位	大韓民国	11,538,701	5.3%	大韓民国	13,037,978	5.5%
6 位以下	その他	54,272,753	25.0%	その他	57,589,671	24.2%
	合計	217,131,239	100.0%	合計	238,074,370	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)
1 位	フランス	60,531,516	26.4%	フランス	69,297,667	28.2%
2 位	アメリカ合衆国	41,545,502	18.1%	アメリカ合衆国	39,028,362	15.9%
3 位	タイ	34,766,739	15.2%	タイ	37,168,922	15.1%
4 位	中華人民共和国	23,306,473	10.2%	中華人民共和国	27,122,033	11.0%
5 位	大韓民国	17,393,613	7.6%	大韓民国	20,520,941	8.3%
6 位以下	その他	51,683,321	22.5%	その他	52,968,447	21.5%
	合計	229,227,164	100.0%	合計	246,106,372	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)	国名	輸入額 (千円)	構成比 (%)
1 位	フランス	74,512,298	28.1%	フランス	76,683,047	27.1%
2 位	アメリカ合衆国	37,944,819	14.3%	アメリカ合衆国	39,136,982	13.9%
3 位	タイ	36,740,711	13.8%	タイ	37,692,173	13.3%
4 位	大韓民国	28,959,700	10.9%	大韓民国	37,373,329	13.2%
5 位	中華人民共和国	27,962,753	10.5%	中華人民共和国	30,096,370	10.7%
6 位以下	その他	59,434,463	22.4%	その他	61,553,760	21.8%
	合計	265,554,744	100.0%	合計	282,535,661	100.0%

出典：「貿易統計」（財務省）をもとに富士経済作成

(2) 米国

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	カナダ	2,280,450	25.1%	カナダ	2,345,432	24.3%
2 位	英国	652,420	7.2%	英国	625,894	6.5%
3 位	メキシコ	564,248	6.2%	メキシコ	625,328	6.5%
4 位	日本	458,038	5.0%	日本	441,419	4.6%
5 位	オランダ	367,360	4.0%	オーストラリア	420,415	4.4%
6 位以下	その他	4,771,513	52.5%	その他	5,175,145	53.7%
	合計	9,094,029	100.0%	合計	9,633,633	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	カナダ	2,504,200	24.0%	カナダ	2,608,862	23.4%
2 位	メキシコ	730,572	7.0%	メキシコ	787,115	7.1%
3 位	英国	629,348	6.0%	英国	704,121	6.3%
4 位	日本	486,628	4.7%	オーストラリア	531,853	4.8%
5 位	オーストラリア	473,088	4.5%	日本	504,430	4.5%
6 位以下	その他	5,628,269	53.8%	その他	5,996,718	53.9%
	合計	10,452,105	100.0%	合計	11,133,099	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	カナダ	2,652,864	23.0%	カナダ	2,761,245	23.4%
2 位	英国	841,136	7.3%	英国	858,589	7.3%
3 位	メキシコ	794,624	6.9%	メキシコ	813,360	6.9%
4 位	オーストラリア	540,951	4.7%	オーストラリア	570,109	4.8%
5 位	オランダ	474,339	4.1%	オランダ	516,540	4.4%
6 位以下	その他	6,247,708	54.1%	その他	6,287,234	53.2%
	合計	11,551,622	100.0%	合計	11,807,077	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	カナダ	2,819,297	23.4%	カナダ	2,942,368	22.7%
2 位	メキシコ	850,079	7.1%	メキシコ	942,768	7.3%
3 位	英国	816,995	6.8%	英国	903,559	7.0%
4 位	オランダ	607,052	5.0%	オランダ	643,659	5.0%
5 位	オーストラリア	499,465	4.1%	オーストラリア	584,102	4.5%
6 位以下	その他	6,456,366	53.6%	その他	6,938,353	53.6%
	合計	12,049,254	100.0%	合計	12,954,809	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	カナダ	3,072,786	22.6%	カナダ	3,037,236	21.9%
2 位	メキシコ	886,432	6.5%	メキシコ	935,297	6.7%
3 位	英国	879,431	6.5%	中華人民共和国	909,569	6.6%
4 位	中華人民共和国	711,564	5.2%	英国	826,167	6.0%
5 位	オランダ	674,809	5.0%	オランダ	621,232	4.5%
6 位以下	その他	7,395,440	54.3%	その他	7,528,182	54.3%
	合計	13,620,462	100.0%	合計	13,857,683	100.0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、US Census Bureau（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アイルランド	1,850,812	22.5%	アイルランド	1,846,159	20.2%
2 位	フランス	1,524,272	18.5%	フランス	1,753,369	19.2%
3 位	カナダ	1,064,418	12.9%	カナダ	1,176,649	12.9%
4 位	中華人民共和国	755,072	9.2%	中華人民共和国	840,367	9.2%
5 位	メキシコ	540,934	6.6%	メキシコ	616,903	6.7%
6 位以下	その他	2,507,010	30.4%	その他	2,907,130	31.8%
	合計	8,242,518	100.0%	合計	9,140,577	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アイルランド	1,999,840	20.5%	アイルランド	2,285,676	21.2%
2 位	フランス	1,805,052	18.5%	フランス	1,938,888	18.0%
3 位	カナダ	1,165,053	11.9%	カナダ	1,250,215	11.6%
4 位	中華人民共和国	965,683	9.9%	メキシコ	974,845	9.0%
5 位	メキシコ	771,105	7.9%	中華人民共和国	946,494	8.8%
6 位以下	その他	3,048,520	31.3%	その他	3,378,783	31.4%
	合計	9,755,253	100.0%	合計	10,774,901	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アイルランド	2,398,892	20.8%	アイルランド	2,431,442	20.1%
2 位	フランス	2,198,536	19.0%	フランス	2,228,909	18.5%
3 位	カナダ	1,246,785	10.8%	カナダ	1,246,871	10.3%
4 位	メキシコ	1,000,952	8.7%	中華人民共和国	1,136,440	9.4%
5 位	中華人民共和国	999,847	8.7%	メキシコ	989,799	8.2%
6 位以下	その他	3,701,984	32.1%	その他	4,044,910	33.5%
	合計	11,546,996	100.0%	合計	12,078,371	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アイルランド	2, 279, 003	18. 2%	フランス	2, 547, 443	18. 8%
2 位	フランス	2, 261, 518	18. 0%	アイルランド	2, 361, 217	17. 4%
3 位	中華人民共和国	1, 369, 602	10. 9%	中華人民共和国	1, 555, 160	11. 5%
4 位	カナダ	1, 314, 708	10. 5%	カナダ	1, 357, 564	10. 0%
5 位	メキシコ	984, 960	7. 9%	メキシコ	999, 917	7. 4%
6 位以下	その他	4, 333, 872	34. 6%	その他	4, 718, 421	34. 8%
	合計	12, 543, 663	100. 0%	合計	13, 539, 722	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アイルランド	2, 861, 608	19. 0%	アイルランド	2, 952, 820	20. 2%
2 位	フランス	2, 737, 399	18. 2%	フランス	2, 570, 636	17. 6%
3 位	カナダ	1, 521, 799	10. 1%	カナダ	1, 452, 073	10. 0%
4 位	中華人民共和国	1, 644, 154	10. 9%	中華人民共和国	1, 245, 445	8. 5%
5 位	イタリア	983, 376	6. 5%	イタリア	991, 278	6. 8%
6 位以下	その他	5, 325, 997	35. 3%	その他	5, 372, 235	36. 8%
	合計	15, 074, 333	100. 0%	合計	14, 584, 487	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、US Census Bureau（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

(3) 中国

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	591,156	23.7%	アメリカ合衆国	692,726	22.9%
2 位	香港	231,876	9.3%	香港	299,283	9.9%
3 位	日本	223,980	9.0%	日本	284,313	9.4%
4 位	英国	172,518	6.9%	英国	207,100	6.8%
5 位	シンガポール	119,462	4.8%	シンガポール	145,900	4.8%
6 位以下	その他	1,155,019	46.3%	その他	1,399,749	46.2%
	合計	2,494,011	100.0%	合計	3,029,071	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	761,656	23.1%	アメリカ合衆国	782,244	21.6%
2 位	香港	337,329	10.2%	香港	346,277	9.6%
3 位	日本	328,213	9.9%	日本	322,663	8.9%
4 位	英国	240,708	7.3%	英国	251,818	7.0%
5 位	台湾	117,261	3.6%	インドネシア	151,861	4.2%
6 位以下	その他	1,514,768	45.9%	その他	1,765,837	48.8%
	合計	3,299,935	100.0%	合計	3,620,700	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	873,784	20.9%	アメリカ合衆国	1,061,092	22.6%
2 位	香港	352,442	8.4%	香港	450,889	9.6%
3 位	日本	319,526	7.6%	英国	314,821	6.7%
4 位	英国	283,338	6.8%	日本	310,017	6.6%
5 位	インドネシア	209,786	5.0%	マレーシア	204,028	4.3%
6 位以下	その他	2,148,458	51.3%	その他	2,362,640	50.2%
	合計	4,187,334	100.0%	合計	4,703,487	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	1,074,861	24.6%	アメリカ合衆国	1,282,228	26.5%
2 位	香港	350,037	8.0%	香港	425,053	8.8%
3 位	英国	329,983	7.6%	英国	369,835	7.6%
4 位	日本	314,891	7.2%	日本	309,458	6.4%
5 位	シンガポール	134,417	3.1%	シンガポール	143,430	3.0%
6 位以下	その他	2,162,923	49.5%	その他	2,316,656	47.8%
	合計	4,367,112	100.0%	合計	4,846,660	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	1,389,348	24.7%	アメリカ合衆国	1,188,765	20.2%
2 位	香港	671,232	11.9%	香港	875,091	14.8%
3 位	英国	398,460	7.1%	英国	414,094	7.0%
4 位	日本	366,245	6.5%	日本	387,077	6.6%
5 位	インドネシア	209,356	3.7%	インドネシア	191,659	3.3%
6 位以下	その他	2,598,940	46.1%	その他	2,839,493	48.2%
	合計	5,633,581	100.0%	合計	5,896,179	100.0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、General Customs Administration of China（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	384,777	25.6%	フランス	538,277	27.8%
2 位	日本	314,164	20.9%	日本	411,774	21.2%
3 位	アメリカ合衆国	242,968	16.2%	アメリカ合衆国	261,750	13.5%
4 位	大韓民国	60,471	4.0%	大韓民国	74,560	3.8%
5 位	台湾	52,207	3.5%	タイ	67,377	3.5%
6 位以下	その他	447,639	29.8%	その他	585,270	30.2%
	合計	1,502,226	100.0%	合計	1,939,008	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	548,955	25.5%	フランス	611,422	25.6%
2 位	日本	405,945	18.9%	日本	352,106	14.8%
3 位	アメリカ合衆国	279,947	13.0%	アメリカ合衆国	350,840	14.7%
4 位	インド	110,741	5.1%	大韓民国	162,156	6.8%
5 位	大韓民国	109,402	5.1%	インド	139,690	5.9%
6 位以下	その他	696,282	32.4%	その他	768,628	32.2%
	合計	2,151,272	100.0%	合計	2,384,842	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	1,039,920	30.8%	フランス	1,114,720	24.7%
2 位	アメリカ合衆国	535,704	15.9%	大韓民国	801,272	17.8%
3 位	日本	471,203	14.0%	日本	665,730	14.7%
4 位	大韓民国	247,962	7.4%	アメリカ合衆国	637,603	14.1%
5 位	英国	203,865	6.0%	英国	212,141	4.7%
6 位以下	その他	873,510	25.9%	その他	1,082,041	24.0%
	合計	3,372,164	100.0%	合計	4,513,507	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	1, 293, 234	23. 5%	フランス	1, 696, 296	22. 2%
2 位	大韓民国	1, 230, 363	22. 3%	大韓民国	1, 666, 277	21. 8%
3 位	日本	883, 820	16. 0%	日本	1, 514, 953	19. 8%
4 位	アメリカ合衆国	668, 008	12. 1%	アメリカ合衆国	891, 545	11. 7%
5 位	英国	298, 597	5. 4%	英国	328, 639	4. 3%
6 位以下	その他	1, 136, 581	20. 6%	その他	1, 535, 934	20. 1%
	合計	5, 510, 603	100. 0%	合計	7, 633, 644	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	大韓民国	2, 859, 217	23. 1%	日本	3, 711, 681	23. 0%
2 位	日本	2, 758, 287	22. 3%	フランス	3, 350, 112	20. 7%
3 位	フランス	2, 432, 941	19. 7%	大韓民国	3, 306, 909	20. 5%
4 位	アメリカ合衆国	1, 330, 618	10. 8%	アメリカ合衆国	1, 721, 498	10. 7%
5 位	英国	514, 657	4. 2%	英国	847, 918	5. 2%
6 位以下	その他	2, 479, 279	20. 0%	その他	3, 213, 585	19. 9%
	合計	12, 374, 999	100. 0%	合計	16, 151, 703	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、General Customs Administration of China（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

(4) フランス

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ドイツ	2,063,332	14.3%	ドイツ	2,429,352	14.5%
2 位	スペイン	1,170,399	8.1%	英国	1,407,357	8.4%
3 位	イタリア	1,116,574	7.7%	スペイン	1,247,275	7.4%
4 位	英国	1,105,098	7.6%	イタリア	1,213,596	7.2%
5 位	アメリカ合衆国	996,444	6.9%	アメリカ合衆国	1,181,569	7.0%
6 位以下	その他	8,000,096	55.4%	その他	9,310,272	55.5%
	合計	14,451,943	100.0%	合計	16,789,421	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ドイツ	2,097,936	13.3%	ドイツ	2,296,360	13.8%
2 位	英国	1,328,369	8.4%	英国	1,321,592	7.9%
3 位	アメリカ合衆国	1,170,037	7.4%	アメリカ合衆国	1,269,179	7.6%
4 位	イタリア	1,121,114	7.1%	イタリア	1,160,292	7.0%
5 位	スペイン	1,113,765	7.0%	スペイン	1,141,928	6.9%
6 位以下	その他	8,977,348	56.8%	その他	9,472,851	56.9%
	合計	15,808,569	100.0%	合計	16,662,202	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ドイツ	2,303,229	13.2%	ドイツ	1,996,237	13.2%
2 位	英国	1,466,031	8.4%	アメリカ合衆国	1,407,063	9.3%
3 位	アメリカ合衆国	1,407,477	8.1%	英国	1,249,542	8.2%
4 位	イタリア	1,241,084	7.1%	スペイン	1,073,074	7.1%
5 位	スペイン	1,201,215	6.9%	イタリア	1,054,796	6.9%
6 位以下	その他	9,838,181	56.4%	その他	8,396,650	55.3%
	合計	17,457,217	100.0%	合計	15,177,362	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ドイツ	1, 971, 562	12. 6%	ドイツ	2, 162, 123	12. 2%
2 位	アメリカ合衆国	1, 517, 975	9. 7%	アメリカ合衆国	1, 831, 961	10. 3%
3 位	英国	1, 232, 504	7. 9%	英国	1, 325, 692	7. 5%
4 位	イタリア	1, 103, 844	7. 1%	イタリア	1, 224, 389	6. 9%
5 位	スペイン	1, 081, 558	6. 9%	スペイン	1, 207, 243	6. 8%
6 位以下	その他	8, 702, 205	55. 7%	その他	10, 012, 400	56. 4%
	合計	15, 609, 648	100. 0%	合計	17, 763, 808	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ドイツ	2, 425, 158	12. 3%	ドイツ	2, 370, 180	11. 8%
2 位	アメリカ合衆国	2, 033, 367	10. 3%	アメリカ合衆国	1, 928, 436	9. 6%
3 位	英国	1, 404, 626	7. 1%	スペイン	1, 434, 212	7. 1%
4 位	スペイン	1, 395, 031	7. 1%	シンガポール	1, 418, 286	7. 1%
5 位	イタリア	1, 374, 835	7. 0%	英国	1, 410, 880	7. 0%
6 位以下	その他	11, 081, 958	56. 2%	その他	11, 548, 276	57. 4%
	合計	19, 714, 975	100. 0%	合計	20, 110, 270	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2014 年 1 月）、Direction générale des douanes et droits indirects（2014 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	スイス	923, 686	18. 7%	スイス	1, 077, 005	19. 2%
2 位	アイルランド	912, 978	18. 5%	アイルランド	971, 702	17. 3%
3 位	ドイツ	632, 963	12. 8%	ドイツ	703, 755	12. 6%
4 位	イタリア	317, 914	6. 4%	イタリア	378, 020	6. 7%
5 位	スペイン	307, 659	6. 2%	英国	360, 482	6. 4%
6 位以下	その他	1, 838, 022	37. 3%	その他	2, 112, 884	37. 7%
	合計	4, 933, 222	100. 0%	合計	5, 603, 848	100. 0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	スイス	1, 011, 231	18. 8%	スイス	1, 047, 955	18. 6%
2 位	アイルランド	878, 271	16. 3%	アイルランド	951, 882	16. 9%
3 位	ドイツ	652, 786	12. 1%	ドイツ	687, 494	12. 2%
4 位	イタリア	354, 327	6. 6%	イタリア	418, 337	7. 4%
5 位	英国	350, 303	6. 5%	英国	396, 253	7. 0%
6 位以下	その他	2, 139, 822	39. 7%	その他	2, 128, 303	37. 8%
	合計	5, 386, 740	100. 0%	合計	5, 630, 224	100. 0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	スイス	1, 026, 724	17. 7%	スイス	927, 805	17. 4%
2 位	アイルランド	950, 125	16. 4%	アイルランド	777, 322	14. 6%
3 位	ドイツ	713, 324	12. 3%	ドイツ	611, 190	11. 5%
4 位	イタリア	463, 572	8. 0%	イタリア	455, 583	8. 6%
5 位	アメリカ合衆国	397, 183	6. 9%	アメリカ合衆国	417, 601	7. 8%
6 位以下	その他	2, 244, 818	38. 7%	その他	2, 131, 747	40. 1%
	合計	5, 795, 746	100. 0%	合計	5, 321, 248	100. 0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	スイス	960, 773	17. 4%	スイス	1, 012, 355	17. 2%
2 位	アイルランド	706, 962	12. 8%	ドイツ	674, 727	11. 5%
3 位	ドイツ	656, 653	11. 9%	アイルランド	628, 687	10. 7%
4 位	イタリア	468, 108	8. 5%	イタリア	598, 840	10. 2%
5 位	アメリカ合衆国	442, 726	8. 0%	アメリカ合衆国	433, 950	7. 4%
6 位以下	その他	2, 299, 920	41. 6%	その他	2, 539, 093	43. 1%
	合計	5, 535, 142	100. 0%	合計	5, 887, 652	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	スイス	1, 034, 246	16. 3%	スイス	1, 055, 469	16. 6%
2 位	ドイツ	733, 991	11. 6%	ドイツ	726, 998	11. 4%
3 位	イタリア	696, 895	11. 0%	イタリア	683, 509	10. 7%
4 位	アイルランド	589, 772	9. 3%	アイルランド	547, 096	8. 6%
5 位	アメリカ合衆国	501, 017	7. 9%	アメリカ合衆国	545, 422	8. 6%
6 位以下	その他	2, 782, 802	43. 9%	その他	2, 813, 850	44. 2%
	合計	6, 338, 723	100. 0%	合計	6, 372, 344	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2014 年 1 月）、Direction générale des douanes et droits indirects（2014 年 1 月～）をもとに富士経済作成

(5) 香港

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	236, 566	22. 9%	中華人民共和国	305, 537	23. 1%
2 位	マカオ	176, 646	17. 1%	マカオ	247, 806	18. 7%
3 位	アメリカ合衆国	141, 648	13. 7%	アメリカ合衆国	143, 679	10. 8%
4 位	日本	110, 878	10. 7%	日本	124, 241	9. 4%
5 位	シンガポール	83, 864	8. 1%	シンガポール	82, 593	6. 2%
6 位以下	その他	282, 633	27. 4%	その他	420, 645	31. 8%
	合計	1, 032, 235	100. 0%	合計	1, 324, 501	100. 0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	375, 886	23. 9%	中華人民共和国	386, 272	23. 4%
2 位	マカオ	283, 375	18. 0%	マカオ	353, 271	21. 4%
3 位	アメリカ合衆国	166, 364	10. 6%	アメリカ合衆国	156, 306	9. 5%
4 位	日本	148, 173	9. 4%	オーストラリア	126, 821	7. 7%
5 位	オーストラリア	141, 050	9. 0%	日本	126, 257	7. 7%
6 位以下	その他	456, 624	29. 1%	その他	500, 253	30. 3%
	合計	1, 571, 472	100. 0%	合計	1, 649, 180	100. 0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	430, 924	24. 6%	中華人民共和国	625, 333	32. 4%
2 位	マカオ	382, 267	21. 8%	マカオ	396, 278	20. 5%
3 位	アメリカ合衆国	195, 572	11. 2%	アメリカ合衆国	213, 175	11. 0%
4 位	日本	120, 221	6. 9%	日本	165, 629	8. 6%
5 位	シンガポール	105, 081	6. 0%	シンガポール	119, 019	6. 2%
6 位以下	その他	517, 962	29. 6%	その他	413, 005	21. 4%
	合計	1, 752, 027	100. 0%	合計	1, 932, 439	100. 0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	766,986	37.1%	中華人民共和国	1,178,681	46.0%
2 位	マカオ	398,919	19.3%	マカオ	468,041	18.3%
3 位	アメリカ合衆国	205,754	10.0%	アメリカ合衆国	214,319	8.4%
4 位	日本	205,658	10.0%	日本	200,133	7.8%
5 位	シンガポール	105,482	5.1%	シンガポール	108,635	4.2%
6 位以下	その他	382,570	18.5%	その他	392,884	15.3%
	合計	2,065,369	100.0%	合計	2,562,693	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	1,852,167	54.2%	中華人民共和国	2,392,724	59.7%
2 位	マカオ	638,470	18.7%	マカオ	802,699	20.0%
3 位	日本	216,926	6.3%	日本	214,489	5.4%
4 位	アメリカ合衆国	187,004	5.5%	アメリカ合衆国	103,611	2.6%
5 位	シンガポール	92,702	2.7%	シンガポール	99,402	2.5%
6 位以下	その他	429,312	12.6%	その他	392,271	9.8%
	合計	3,416,581	100.0%	合計	4,005,196	100.0%

出典：UN COMTRADE をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	344, 040	15. 9%	中華人民共和国	394, 730	14. 1%
2 位	日本	277, 028	12. 8%	アメリカ合衆国	346, 585	12. 4%
3 位	アメリカ合衆国	269, 803	12. 5%	シンガポール	333, 290	11. 9%
4 位	シンガポール	261, 160	12. 1%	日本	329, 607	11. 8%
5 位	フランス	237, 152	11. 0%	フランス	311, 782	11. 1%
6 位以下	その他	774, 209	35. 8%	その他	1, 083, 238	38. 7%
	合計	2, 163, 392	100. 0%	合計	2, 799, 232	100. 0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	525, 926	16. 1%	中華人民共和国	511, 664	14. 8%
2 位	シンガポール	459, 919	14. 1%	シンガポール	509, 284	14. 8%
3 位	アメリカ合衆国	391, 432	12. 0%	アメリカ合衆国	416, 382	12. 1%
4 位	フランス	325, 419	10. 0%	フランス	355, 221	10. 3%
5 位	日本	310, 280	9. 5%	日本	311, 001	9. 0%
6 位以下	その他	1, 251, 240	38. 3%	その他	1, 343, 792	39. 0%
	合計	3, 264, 216	100. 0%	合計	3, 447, 344	100. 0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	シンガポール	558, 420	15. 0%	中華人民共和国	572, 284	14. 3%
2 位	中華人民共和国	531, 438	14. 3%	大韓民国	565, 584	14. 1%
3 位	フランス	403, 061	10. 9%	シンガポール	504, 244	12. 6%
4 位	大韓民国	361, 383	9. 7%	アメリカ合衆国	409, 593	10. 2%
5 位	アメリカ合衆国	340, 041	9. 2%	日本	397, 579	9. 9%
6 位以下	その他	1, 517, 255	40. 9%	その他	1, 563, 921	39. 0%
	合計	3, 711, 598	100. 0%	合計	4, 013, 205	100. 0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	大韓民国	939, 512	20. 4%	大韓民国	978, 697	18. 5%
2 位	中華人民共和国	562, 673	12. 2%	シンガポール	760, 659	14. 4%
3 位	日本	554, 850	12. 0%	日本	670, 989	12. 7%
4 位	シンガポール	551, 686	12. 0%	中華人民共和国	602, 096	11. 4%
5 位	アメリカ合衆国	404, 107	8. 8%	アメリカ合衆国	432, 097	8. 2%
6 位以下	その他	1, 593, 954	34. 6%	その他	1, 842, 116	34. 8%
	合計	4, 606, 782	100. 0%	合計	5, 286, 654	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	大韓民国	1, 132, 624	16. 8%	大韓民国	963, 541	15. 1%
2 位	シンガポール	1, 024, 795	15. 2%	シンガポール	955, 836	14. 9%
3 位	日本	888, 925	13. 2%	中華人民共和国	898, 706	14. 1%
4 位	中華人民共和国	816, 956	12. 1%	日本	858, 715	13. 4%
5 位	アメリカ合衆国	559, 702	8. 3%	アメリカ合衆国	549, 349	8. 6%
6 位以下	その他	2, 303, 905	34. 2%	その他	2, 169, 197	33. 9%
	合計	6, 726, 907	100. 0%	合計	6, 395, 344	100. 0%

出典：UN COMTRADE をもとに富士経済作成

(6) 韓国

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	336,795	40.8%	中華人民共和国	217,027	25.2%
2 位	日本	94,707	11.5%	日本	139,560	16.2%
3 位	香港	62,361	7.6%	香港	97,328	11.3%
4 位	台湾	53,363	6.5%	台湾	68,566	8.0%
5 位	アメリカ合衆国	52,578	6.4%	アメリカ合衆国	66,851	7.8%
6 位以下	その他	225,103	27.3%	その他	271,545	31.5%
	合計	824,907	100.0%	合計	860,877	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	231,373	22.5%	中華人民共和国	316,205	24.7%
2 位	日本	178,053	17.3%	香港	215,240	16.8%
3 位	香港	142,888	13.9%	日本	159,137	12.4%
4 位	アメリカ合衆国	79,351	7.7%	アメリカ合衆国	107,221	8.4%
5 位	タイ	70,937	6.9%	台湾	94,842	7.4%
6 位以下	その他	325,765	31.7%	その他	385,669	30.2%
	合計	1,028,367	100.0%	合計	1,278,314	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	597,899	31.1%	中華人民共和国	1,190,545	40.6%
2 位	香港	409,300	21.3%	香港	681,055	23.2%
3 位	アメリカ合衆国	155,775	8.1%	アメリカ合衆国	238,446	8.1%
4 位	日本	154,424	8.0%	日本	148,425	5.1%
5 位	台湾	125,253	6.5%	台湾	131,782	4.5%
6 位以下	その他	477,362	24.9%	その他	539,227	18.4%
	合計	1,920,013	100.0%	合計	2,929,480	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	1,607,326	38.2%	中華人民共和国	1,941,463	39.0%
2 位	香港	1,238,764	29.4%	香港	1,213,815	24.4%
3 位	アメリカ合衆国	346,479	8.2%	アメリカ合衆国	447,576	9.0%
4 位	日本	200,735	4.8%	日本	239,769	4.8%
5 位	台湾	124,324	3.0%	台湾	153,978	3.1%
6 位以下	その他	692,836	16.5%	その他	977,215	19.6%
	合計	4,210,464	100.0%	合計	4,973,816	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	2,648,055	42.3%	中華人民共和国	3,040,653	46.8%
2 位	香港	1,303,359	20.8%	香港	916,874	14.1%
3 位	アメリカ合衆国	532,365	8.5%	アメリカ合衆国	520,487	8.0%
4 位	日本	316,260	5.1%	日本	413,855	6.4%
5 位	ベトナム	169,681	2.7%	ベトナム	224,716	3.5%
6 位以下	その他	1,283,505	20.5%	その他	1,385,765	21.3%
	合計	6,253,225	100.0%	合計	6,502,350	100.0%

出典：UN COMTRADE（～2013 年 1 月）、Korea Customs and Trade Development Institute (KCTDI)（2013 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	313, 883	24. 8%	アメリカ合衆国	348, 551	23. 9%
2 位	アメリカ合衆国	306, 096	24. 2%	フランス	313, 780	21. 5%
3 位	フランス	254, 002	20. 1%	日本	312, 611	21. 4%
4 位	タイ	51, 562	4. 1%	タイ	57, 180	3. 9%
5 位	ドイツ	43, 630	3. 4%	イタリア	54, 275	3. 7%
6 位以下	その他	296, 220	23. 4%	その他	373, 949	25. 6%
	合計	1, 265, 393	100. 0%	合計	1, 460, 346	100. 0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	397, 352	26. 6%	アメリカ合衆国	431, 682	27. 9%
2 位	フランス	298, 204	19. 9%	フランス	303, 384	19. 6%
3 位	日本	281, 856	18. 9%	日本	237, 045	15. 3%
4 位	タイ	59, 624	4. 0%	イタリア	67, 608	4. 4%
5 位	イタリア	53, 860	3. 6%	タイ	61, 005	3. 9%
6 位以下	その他	403, 866	27. 0%	その他	445, 081	28. 8%
	合計	1, 494, 762	100. 0%	合計	1, 545, 805	100. 0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	353, 939	20. 9%	アメリカ合衆国	489, 442	28. 5%
2 位	アメリカ合衆国	495, 757	29. 3%	フランス	344, 059	20. 0%
3 位	日本	215, 573	12. 7%	日本	221, 172	12. 9%
4 位	中華人民共和国	62, 646	3. 7%	タイ	77, 310	4. 5%
5 位	イタリア	69, 071	4. 1%	中華人民共和国	67, 486	3. 9%
6 位以下	その他	493, 814	29. 2%	その他	518, 756	30. 2%
	合計	1, 690, 800	100. 0%	合計	1, 718, 225	100. 0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	アメリカ合衆国	449,070	25.3%	アメリカ合衆国	442,723	23.1%
2 位	フランス	374,332	21.1%	フランス	412,026	21.5%
3 位	日本	258,557	14.5%	日本	277,298	14.5%
4 位	中華人民共和国	85,229	4.8%	中華人民共和国	98,534	5.1%
5 位	タイ	80,736	4.5%	タイ	91,195	4.8%
6 位以下	その他	530,072	29.8%	その他	595,573	31.1%
	合計	1,777,996	100.0%	合計	1,917,349	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	468,540	23.3%	フランス	473,911	23.8%
2 位	アメリカ合衆国	439,389	21.8%	アメリカ合衆国	435,755	21.9%
3 位	日本	308,072	15.3%	日本	267,277	13.4%
4 位	中華人民共和国	109,767	5.5%	中華人民共和国	127,793	6.4%
5 位	タイ	98,345	4.9%	イタリア	92,484	4.6%
6 位以下	その他	588,921	29.3%	その他	597,039	29.9%
	合計	2,013,034	100.0%	合計	1,994,259	100.0%

出典：UN COMTRADE（～2013 年 1 月）、Korea Customs and Trade Development Institute (KCTDI)（2013 年 1 月～）をもとに富士経済作成

(7) 台湾

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	香港	77,083	21.4%	香港	110,338	24.3%
2 位	中華人民共和国	68,632	19.1%	中華人民共和国	87,646	19.3%
3 位	アメリカ合衆国	39,592	11.0%	アメリカ合衆国	52,389	11.6%
4 位	日本	32,040	8.9%	日本	45,538	10.0%
5 位	マレーシア	15,259	4.2%	マレーシア	19,001	4.2%
6 位以下	その他	127,311	35.4%	その他	138,540	30.6%
	合計	359,917	100.0%	合計	453,452	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	香港	127,221	24.0%	香港	156,562	26.3%
2 位	中華人民共和国	118,464	22.4%	中華人民共和国	139,315	23.4%
3 位	アメリカ合衆国	58,510	11.1%	アメリカ合衆国	55,703	9.3%
4 位	日本	51,342	9.7%	日本	52,799	8.9%
5 位	マレーシア	18,204	3.4%	マレーシア	20,544	3.4%
6 位以下	その他	155,579	29.4%	その他	170,843	28.7%
	合計	529,320	100.0%	合計	595,766	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	香港	186,147	30.1%	香港	223,750	34.3%
2 位	中華人民共和国	138,211	22.4%	中華人民共和国	117,341	18.0%
3 位	アメリカ合衆国	62,570	10.1%	アメリカ合衆国	82,916	12.7%
4 位	日本	45,214	7.3%	日本	40,289	6.2%
5 位	マレーシア	20,430	3.3%	マレーシア	19,740	3.0%
6 位以下	その他	164,869	26.7%	その他	167,857	25.7%
	合計	617,441	100.0%	合計	651,893	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	香港	244, 316	32. 8%	中華人民共和国	232, 361	27. 9%
2 位	中華人民共和国	148, 200	19. 9%	香港	222, 522	26. 7%
3 位	アメリカ合衆国	89, 144	12. 0%	アメリカ合衆国	89, 832	10. 8%
4 位	日本	41, 968	5. 6%	日本	44, 043	5. 3%
5 位	シンガポール	22, 027	3. 0%	マレーシア	22, 093	2. 7%
6 位以下	その他	199, 197	26. 7%	その他	221, 614	26. 6%
	合計	744, 852	100. 0%	合計	832, 465	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	中華人民共和国	302, 979	32. 8%	中華人民共和国	273, 213	34. 4%
2 位	香港	203, 012	22. 0%	香港	141, 233	17. 8%
3 位	アメリカ合衆国	92, 655	10. 0%	アメリカ合衆国	82, 447	10. 4%
4 位	日本	43, 479	4. 7%	日本	42, 207	5. 3%
5 位	英国	30, 237	3. 3%	シンガポール	27, 994	3. 5%
6 位以下	その他	250, 890	27. 2%	その他	226, 080	28. 5%
	合計	923, 252	100. 0%	合計	793, 174	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2002 年 1 月）、Directorate General of Customs Administration, Ministry of Finance（2002 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	378,189	33.5%	日本	414,712	33.1%
2 位	アメリカ合衆国	178,732	15.8%	アメリカ合衆国	183,662	14.6%
3 位	フランス	152,391	13.5%	フランス	174,080	13.9%
4 位	中華人民共和国	116,055	10.3%	中華人民共和国	129,821	10.4%
5 位	大韓民国	43,043	3.8%	ドイツ	52,312	4.2%
6 位以下	その他	261,389	23.1%	その他	299,499	23.9%
	合計	1,129,799	100.0%	合計	1,254,086	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	385,052	31.2%	日本	347,847	28.3%
2 位	アメリカ合衆国	191,563	15.5%	アメリカ合衆国	191,124	15.5%
3 位	フランス	176,841	14.3%	フランス	182,004	14.8%
4 位	中華人民共和国	144,719	11.7%	中華人民共和国	143,541	11.7%
5 位	大韓民国	45,261	3.7%	大韓民国	64,338	5.2%
6 位以下	その他	290,302	23.5%	その他	302,274	24.6%
	合計	1,233,738	100.0%	合計	1,231,128	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	324,617	25.8%	日本	347,503	27.1%
2 位	アメリカ合衆国	189,770	15.1%	フランス	170,334	13.3%
3 位	フランス	188,501	15.0%	アメリカ合衆国	203,208	15.9%
4 位	中華人民共和国	135,949	10.8%	中華人民共和国	129,738	10.1%
5 位	大韓民国	89,585	7.1%	大韓民国	108,333	8.5%
6 位以下	その他	331,112	26.3%	その他	321,169	25.1%
	合計	1,259,534	100.0%	合計	1,280,285	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	392, 890	25. 9%	日本	405, 804	26. 5%
2 位	フランス	262, 342	17. 3%	フランス	267, 404	17. 5%
3 位	アメリカ合衆国	237, 481	15. 7%	アメリカ合衆国	199, 149	13. 0%
4 位	大韓民国	129, 795	8. 6%	中華人民共和国	134, 064	8. 8%
5 位	中華人民共和国	126, 802	8. 4%	大韓民国	130, 697	8. 5%
6 位以下	その他	365, 720	24. 1%	その他	394, 417	25. 8%
	合計	1, 515, 030	100. 0%	合計	1, 531, 535	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	日本	457, 593	26. 9%	日本	463, 654	27. 4%
2 位	フランス	298, 353	17. 6%	フランス	292, 335	17. 3%
3 位	アメリカ合衆国	229, 130	13. 5%	アメリカ合衆国	237, 214	14. 0%
4 位	中華人民共和国	151, 117	8. 9%	中華人民共和国	143, 648	8. 5%
5 位	大韓民国	140, 836	8. 3%	大韓民国	137, 950	8. 1%
6 位以下	その他	421, 397	24. 8%	その他	418, 831	24. 7%
	合計	1, 698, 426	100. 0%	合計	1, 693, 632	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2002 年 1 月）、Directorate General of Customs Administration, Ministry of Finance（2002 年 1 月～）をもとに富士経済作成

(8) ロシア

1) 輸出額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ウクライナ	152,565	58.5%	ウクライナ	158,196	53.3%
2 位	ポーランド	10,837	4.2%	ポーランド	18,600	6.3%
3 位	アゼルバイジャン	9,854	3.8%	ラトビア	11,785	4.0%
4 位	ラトビア	8,537	3.3%	ウズベキスタン	11,165	3.8%
5 位	英国	7,532	2.9%	アゼルバイジャン	11,161	3.8%
6 位以下	その他	71,430	27.4%	その他	85,988	29.0%
	合計	260,755	100.0%	合計	296,895	100.0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ウクライナ	176,287	37.3%	ウクライナ	207,864	37.1%
2 位	カザフスタン	91,851	19.4%	カザフスタン	116,624	20.8%
3 位	ベラルーシ	43,326	9.2%	ベラルーシ	67,345	12.0%
4 位	ウズベキスタン	14,786	3.1%	ウズベキスタン	14,760	2.6%
5 位	ポーランド	13,616	2.9%	キルギス	13,348	2.4%
6 位以下	その他	132,979	28.1%	その他	139,618	25.0%
	合計	472,845	100.0%	合計	559,559	100.0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ウクライナ	143,392	27.6%	ウクライナ	92,091	23.1%
2 位	カザフスタン	112,767	21.7%	カザフスタン	83,500	21.0%
3 位	ベラルーシ	91,175	17.5%	ベラルーシ	82,134	20.6%
4 位	ウズベキスタン	17,226	3.3%	ウズベキスタン	15,648	3.9%
5 位	アゼルバイジャン	14,092	2.7%	ポーランド	9,420	2.4%
6 位以下	その他	141,343	27.2%	その他	115,154	28.9%
	合計	519,995	100.0%	合計	397,947	100.0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ベラルーシ	107,138	21.5%	ベラルーシ	146,784	22.3%
2 位	カザフスタン	102,074	20.5%	カザフスタン	128,655	19.6%
3 位	ウクライナ	83,113	16.7%	ウクライナ	83,042	12.6%
4 位	ウズベキスタン	24,805	5.0%	ウズベキスタン	35,250	5.4%
5 位	アゼルバイジャン	15,715	3.2%	アゼルバイジャン	22,115	3.4%
6 位以下	その他	165,993	33.3%	その他	241,405	36.7%
	合計	498,838	100.0%	合計	657,251	100.0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸出額 (USD)	構成比 (%)
1 位	ベラルーシ	170,295	24.9%	ベラルーシ	180,680	23.4%
2 位	カザフスタン	139,250	20.4%	カザフスタン	154,089	20.0%
3 位	ウクライナ	77,157	11.3%	ウクライナ	82,985	10.7%
4 位	ウズベキスタン	42,375	6.2%	ウズベキスタン	47,157	6.1%
5 位	アゼルバイジャン	21,670	3.2%	ジョージア	35,097	4.5%
6 位以下	その他	233,235	34.1%	その他	272,301	35.3%
	合計	683,982	100.0%	合計	772,309	100.0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、Federal Customs Service of Russia（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

2) 輸入額

	2010 年			2011 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	933, 927	29. 6%	フランス	927, 922	27. 3%
2 位	ドイツ	510, 954	16. 2%	ドイツ	528, 835	15. 5%
3 位	ポーランド	255, 773	8. 1%	ポーランド	285, 711	8. 4%
4 位	アメリカ合衆国	204, 241	6. 5%	イタリア	246, 043	7. 2%
5 位	イタリア	195, 607	6. 2%	アメリカ合衆国	226, 029	6. 6%
6 位以下	その他	1, 052, 980	33. 4%	その他	1, 189, 195	34. 9%
	合計	3, 153, 482	100. 0%	合計	3, 403, 735	100. 0%

	2012 年			2013 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	954, 042	26. 1%	フランス	1, 067, 177	27. 4%
2 位	ドイツ	513, 800	14. 1%	ドイツ	554, 046	14. 2%
3 位	ポーランド	281, 975	7. 7%	イタリア	281, 850	7. 2%
4 位	イタリア	254, 561	7. 0%	アメリカ合衆国	257, 117	6. 6%
5 位	アメリカ合衆国	239, 353	6. 5%	ポーランド	232, 518	6. 0%
6 位以下	その他	1, 413, 059	38. 6%	その他	1, 508, 359	38. 7%
	合計	3, 656, 790	100. 0%	合計	3, 901, 067	100. 0%

	2014 年			2015 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	953, 360	26. 3%	フランス	647, 332	25. 6%
2 位	ドイツ	513, 948	14. 2%	ドイツ	338, 725	13. 4%
3 位	イタリア	272, 183	7. 5%	イタリア	202, 567	8. 0%
4 位	ポーランド	211, 516	5. 8%	ポーランド	161, 015	6. 4%
5 位	アメリカ合衆国	208, 038	5. 7%	アメリカ合衆国	150, 435	5. 9%
6 位以下	その他	1, 463, 814	40. 4%	その他	1, 031, 239	40. 7%
	合計	3, 622, 859	100. 0%	合計	2, 531, 313	100. 0%

	2016 年			2017 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	649, 437	25. 0%	フランス	816, 526	26. 2%
2 位	ドイツ	334, 901	12. 9%	ドイツ	354, 916	11. 4%
3 位	イタリア	216, 870	8. 3%	イタリア	264, 181	8. 5%
4 位	アメリカ合衆国	142, 454	5. 5%	ポーランド	193, 027	6. 2%
5 位	ポーランド	160, 504	6. 2%	アメリカ合衆国	188, 670	6. 1%
6 位以下	その他	1, 096, 201	42. 2%	その他	1, 295, 433	41. 6%
	合計	2, 600, 367	100. 0%	合計	3, 112, 753	100. 0%

	2018 年			2019 年		
	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)	国名	輸入額 (USD)	構成比 (%)
1 位	フランス	852, 602	25. 5%	フランス	869, 951	25. 0%
2 位	ドイツ	375, 769	11. 3%	ドイツ	373, 182	10. 7%
3 位	イタリア	313, 328	9. 4%	イタリア	317, 979	9. 1%
4 位	アメリカ合衆国	226, 075	6. 8%	アメリカ合衆国	245, 999	7. 1%
5 位	ポーランド	201, 861	6. 0%	ポーランド	194, 625	5. 6%
6 位以下	その他	1, 369, 214	41. 0%	その他	1, 473, 491	42. 4%
	合計	3, 338, 849	100. 0%	合計	3, 475, 227	100. 0%

出典：UN COMTRADE（～2015 年 1 月）、Federal Customs Service of Russia（2015 年 1 月～）をもとに富士経済作成

7 専業・兼業の割合

下表は、日本国内の化粧品関連企業の売上高上位 55 社について専業・兼業の割合を調査した結果である。

「販売実績」は 2019 年の化粧品販売実績であり、「化粧品販売比率」は売上全体に占める化粧品の販売比率を示している。そのうち、「専業」とは設立時から化粧品製造・販売を生業とし、化粧品の販売実績が売上全体の 7 割以上を占める企業を表している。従って、化粧品の販売比率が 7 割以上でも異業種からの参入事業者（例えば、新日本製薬、再春館製薬所、富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー）は「兼業」とする。

上位 55 社のうち、化粧品を専業とする事業者は 35 社に対し、兼業の事業者は 20 社である。

(単位：百万円)

No	メーカー（販売形態・主要チャネル）		販売実績 (2019 年)	化粧品 販売比率	専 業	兼 業
1	資生堂	(カウンセリング)	270,730	100%	○	
2	花王 プレミアム化粧品	(トイレタリー)	144,770	10%		○
3	コーセー	(カウンセリング)	103,150	100%	○	
4	カネボウ化粧品	(カウンセリング)	79,060	100%	○	
5	P&G プレステージ	(カウンセリング)	71,950	25%		○
6	ユニリーバ・ジャパン	(トイレタリー)	64,445	42% ^{注 20}		○
7	アルビオン	(カウンセリング)	63,070	100%	○	
8	資生堂フィティット	(セルフセレクトション)	58,670	100%	○	
9	ファンケル	(通信販売)	52,300	41%		○
10	花王 プレステージ化粧品	(カウンセリング)	51,510	3%		○
11	ポーラ	(訪問販売)	47,150	100%	○	
12	カネボウコスメット	(セルフセレクトション)	43,880	100%	○	
13	ディーエイチシー	(通信販売)	43,000	40%		○
14	日本ロレアル ロレアル リュクス事業本部	(百貨店)	42,605	100%	○	
15	エフティ資生堂	(トイレタリー)	41,330	100%	○	
16	ロート製薬	(セルフセレクトション)	39,910	21%		○
17	コーセーコスメポート	(トイレタリー)	39,580	100%	○	
18	オルビス	(通信販売)	38,670	100%	○	
19	クラシエホームプロダクツ	(トイレタリー)	38,590	39%		○
20	ホーユー	(セルフセレクトション)	32,800	100%	○	
21	P&G ジャパン	(トイレタリー)	32,470	11%		○
22	マンダム	(セルフセレクトション)	32,335	100%	○	
23	ドクターシーラボ	(通信販売)	31,880	100%	○	
24	新日本製薬 (※)	(通信販売)	30,600	91%		○

No	メーカー（販売形態・主要チャネル）		販売実績 （2019年）	化粧品 販売比率	専 業	兼 業
25	再春館製薬所（※）	（通信販売）	25,394	86%		○
26	シャネル	（百貨店）	24,500	100%	○	
27	ロクシタンジャパン	（カウンセリング）	23,330	100%	○	
28	パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャパン	（百貨店）	22,300	100%	○	
29	日本アムウェイ	（訪問販売）	21,590	23%		○
30	ニベア花王	（トイレタリー）	21,140	100%	○	
31	エキップ	（百貨店）	18,200	100%	○	
32	富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー（※）	（通信販売）	17,400	75%		○
33	日本ロレアル コンシューマープロダクツ事業本部	（セルフセクション）	17,190	100%	○	
34	ちふれ化粧品	（セルフセクション）	16,470	100%	○	
35	伊勢半	（セルフセクション）	15,950	100%	○	
36	イブサ	（百貨店）	15,720	100%	○	
37	ノエビア	（訪問販売）	15,430	100%	○	
38	キューサイ	（通信販売）	15,150	61%		○
39	I-ne	（セルフセクション）	15,000	100%	○	
40	ラッシュジャパン	（カウンセリング）	14,850	100%	○	
41	常盤薬品工業 サナ事業部	（セルフセクション）	14,630	44%		○
42	ハーバー研究所	（通信販売）	14,440	100%	○	
43	ニュー スキン ジャパン	（訪問販売）	13,690	48%		○
44	日本メナード化粧品	（訪問販売）	12,450	100%	○	
45	アンファー	（通信販売）	12,380	100%	○	
46	シーボン	（訪問販売）	12,050	100%	○	
47	アテニア	（通信販売）	12,010	100%	○	
48	牛乳石鹸共進社	（トイレタリー）	11,680	60%		○
48	第一三共ヘルスケア	（トイレタリー）	11,680	17%		○
50	ブルーベル・ジャパン	（カウンセリング）	11,670	100%	○	
51	ナリス化粧品	（訪問販売）	11,660	100%	○	
52	ハウス オブ ローゼ	（カウンセリング）	11,500	100%	○	
53	ザ・プロアクティブカンパニー	（通信販売）	11,050	100%	○	
54	サンスター	（セルフセクション/通信販売）	10,000	13%		○

No	メーカー（販売形態・主要チャネル）		販売実績 (2019 年)	化粧品 販売比率	専 業	兼 業
55	山田養蜂場	(通信販売)	8,800	15%		○

出典：「化粧品マーケティング要覧 2020 総括編」をもとに富士経済作成

上表では、各メーカーが主体とする販売形態・主要チャネルをとりまとめている。

カウンセリングとは、マス向けカウンセリングブランドを保有しているほか、直営メインのカウンセリングを販売形態とするメーカーが該当する。前者は資生堂やコーセーなどの制度品系メーカー、後者はロクシタンジャパン、ラッシュジャパン、ブルーベル・ジャパンなどが事例として挙げられる。

一方、日本ロレアルやシャネルなどは百貨店を主体としたチャネル展開を行っていることから「百貨店」としている。資生堂などの制度品系メーカーも百貨店で販売しているが、化粧品店、薬局・薬店、ドラッグストアなど幅広いチャネル展開を行っていることから百貨店を主体とする日本ロレアル等とは棲み分けた。

また、セルフセレクトはカウンセリングを行わない販売形態を表している。この点ではトイレットリーもセルフセレクトと類似する点はあるが、トイレットリーについては低価格帯で洗顔を主流にコモディティ化した製品を取り扱うメーカーが該当する。

注 20 ユニリーバ・ジャパンの売上高は非公開であるため、ユニリーバ全体の実績から算出した。2019 年売上高は 520 億ユーロであり、「ビューティ&パーソナルケア」は 219 億ユーロ(42%)、「フード&リフレッシュメント」は 193 億ユーロ(37%)、「ホームケア」は 108 億ユーロ(21%)の内訳となっている。

8 化粧品業界の動向

ア 異業種からの新規参入状況

業種	参入時期	企業名	主な内容
食品	1971 年	ヤクルト本社	乳酸菌成分の応用
	1997 年	味の素	アミノ酸系成分の応用、通販ルート専門化粧品
	1998 年	山田養蜂場	はちみつ成分の応用、通販ルート専門化粧品
	2009 年	ニチレイ	洋ランの栽培・研究成果を応用、通販ルート専門化粧品
	2012 年	江崎グリコ	グリコーゲンの研究を応用、通販ルート専門化粧品
	2014 年	ユーグレナ	ミドリムシの研究を応用
飲料	1987 年	日本盛	米ぬか由来成分を応用
	1997 年	勇心酒造	酵母の技術を応用
	2004 年	月桂冠	酵母の技術を応用、日本酒の美肌効果の活用
	2004 年	白鶴酒造	酒粕や米由来成分を応用
	2006 年	メルシャン	ブドウ樹液の成分を応用
	2009 年	アサヒビール	酵母成分を応用
	2010 年	サントリー	酵母の技術を応用
	2011 年	菊正宗	清酒や酒粕エキスの応用
医薬	1998 年	全薬工業	皮膚病薬研究からの製品開発
	2000 年	新日本製薬	製薬の開発力、通信販売
	2001 年	ロート製薬	米国の皮膚科学者ゼイン・オバジとの共同開発、ドクターズコスメ
	2001 年	杏林製薬	ナノカプセル技術の応用
	2003 年	持田製薬	敏感肌用低刺激性を訴求した製品開発
	2004 年	大塚製薬	天然酵母由来成分を応用
	2006 年	小林製薬	DDS (Drug Delivery System) 技術の応用
	2006 年	エスエス製薬	製薬技術の応用
	2006 年	大正製薬	製薬技術の応用
	2006 年	ゼリア新薬	コンドロイチン配合、通販ルート専門化粧品
	2006 年	ナノエッグ	DDS 技術 (聖マリアンナ医大) の応用
	2009 年	佐藤製薬	製薬技術の応用
	2012 年	第一三共ヘルスケア	製薬技術の応用、通信販売
化学	1974 年 ^{注 21}	サンスター	和漢植物成分 (保湿成分) を応用
	1988 年	ニッピ	コラーゲン・ゼラチンを応用
	2007 年	富士フイルム	フィルム材料のコラーゲンや抗酸化技術を応用
機械	2004 年	ホソカワミクロン	粉体微細加工技術の応用、通信販売
日用品	2009 年	コンビ	機能性食品の原料開発のノウハウを応用、通信販売

業種	参入時期	企業名	主な内容
小売	2014 年	イオン	PB (Private Brand) 化粧品 of 自社販売網での展開
	2014 年	セブン&アイ	PB 化粧品 of 自社販売網での展開
	2015 年	ヤマダ電機	美容家電の販促の一環
	2020 年	ニトリホールディングス	女性ターゲットのインテリア以外の関連商材強化

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

上表は、化粧品事業へ新規参入した異業種企業の動向をとりまとめている。

化粧品市場への新規参入が相次いだ背景には、薬事法の改正や通販市場の拡大、消費者の化粧品に対する意識の変化などが起因している。

まず、2005 年施行の改正薬事法で製造工程を外部に委託することが可能となり、医薬品の受託製造（OEM）が行われるようになった。大規模な設備投資を行わずに化粧品を製造することができるようになったことで異業種からの新規参入を後押しした。

また、消費者の化粧品に関する知識の向上とともに、ネットショッピングが定着したことで、メーカーから直接、消費者に販売できる流通ルートが確立された。これによりドラッグストアなどの販売チャネルがなくても消費者への販売が可能となった。

さらに、3 点目は消費者の化粧品に対する意識の変化が挙げられる。近年はナチュラル・オーガニック化粧品やドクターズコスメなど大手化粧品メーカーにこだわらず、自分の嗜好に見合った化粧品を選定する消費者が増えてきた。このため、小規模な事業者でもビジネスチャンスを獲得することが可能となった。

なお、新規参入企業の業種は、食品、酒類飲料、製薬、化学、機械・日用品メーカー、量販店や家電量販店などの小売業となっている。参入の背景には、中核事業の業績低迷による新たな事業開拓のほか、経営資源の有効活用（技術の転用）、新規顧客の取り込みといった狙いが見受けられる。また、これらの新規参入事業者においては、一部ドラッグストアの販売チャネルを確保しているケースもあるが、ほとんどが通信販売での展開を主流としている。

注 21 1966 年 V05 ヘアスプレーを発売しているが、ここではスキンケア商品「サレーヌ」を対象とした。

イ EC・トラベルリテール等販売チャネルの変化

(1) 販売形態別化粧品販売市場規模推移

(単位：百万円、%)

年次	合計	店舗販売			無店舗販売 ^{注 22}		
		販売金額	対前年比	構成比	販売金額	対前年比	構成比
2010 年	3,678,190	2,813,800	—	76.5	864,390	—	23.5
2011 年	3,619,870	2,772,840	98.5	76.6	847,030	98.0	23.4
2012 年	3,635,210	2,787,900	100.5	76.7	847,310	100.0	23.3
2013 年	3,659,885	2,806,200	100.7	76.7	853,685	100.8	23.3
2014 年	3,700,965	2,853,200	101.7	77.1	847,765	99.3	22.9
2015 年	3,820,640	2,989,900	104.8	78.3	830,740	98.0	21.7
2016 年	3,948,775	3,101,750	103.7	78.5	847,025	102.0	21.5
2017 年	4,198,685	3,314,350	106.9	78.9	884,335	104.4	21.1
2018 年	4,395,600	3,498,800	105.6	79.6	896,800	101.4	20.4
2019 年	4,479,000	3,577,800	102.3	79.9	901,200	100.5	20.1
2020 年(見込)	4,045,200	3,194,500	89.3	79.0	850,700	94.4	21.0
2021 年(予測)	4,289,450	3,391,050	106.2	79.1	898,400	105.6	20.9
2022 年(予測)	4,388,150	3,490,650	102.9	79.5	897,500	99.9	20.5

出典：「化粧品業態別販売動向とインバウンド実態調査 2020」（富士経済）

店頭販売は、2014 年に化粧品が消費税免税対象となつてからは、百貨店、ドラッグストア、ディスカウントストア、家電量販店、空港型免税店など訪日外国人観光客が立ち寄るチャネルで好調に推移した。

一方、無店舗販売は、訪問販売が約 5 割を占めているが、既存ユーザーの高齢化と離脱により市場は微減を推移しており、2016 年まで市場は減少基調で推移していた。しかし、2017 年以降は化粧品メーカーによる公式通信販売、Amazon.co.jp といった通信販売卸において利便性や定期購入割引などのプラス要因により利用者が増加した。また、国内に居住する外国人の転売目的の購入でインバウンド需要も増加し、無店舗販売の市場拡大につながった。

2019 年は中国本土での新 EC 法の施行によりインバウンドが縮小し、店舗販売市場、無店舗販売市場ともに市場の伸びは前年比の小幅にとどまった。2020 年は 4 月に緊急事態宣言を発出した影響からインバウンドが全国的に急減したうえ、商業施設の休業が実施されたほか、マスクの着用や外出自粛によりメイクの使用機会が減少したため、店舗販売市場は大幅に減少する見通しである。また、無店舗販売も訪問販売が休業を余儀なくされることが影響し、市場はマイナス推移が見込まれる。

注 22 無店舗販売は「訪問販売」「公式通信販売」「通信販売卸」の合計値とする。

(2) チャネル別^{注23}化粧品販売実績構成比

(単位：百万円、%)

年次	合計	化粧品、薬局・薬店		ドラッグストア		量販店	
		販売金額	構成比	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	3,678,190	396,300	10.8	1,367,600	37.2	381,050	10.4
2011 年	3,619,870	383,550	10.6	1,341,800	37.1	378,700	10.5
2012 年	3,635,210	371,100	10.2	1,340,600	36.9	380,150	10.5
2013 年	3,659,885	365,500	10.0	1,331,800	36.4	381,550	10.4
2014 年	3,700,965	359,600	9.7	1,335,300	36.1	376,100	10.2
2015 年	3,820,640	357,000	9.3	1,383,000	36.2	371,650	9.7
2016 年	3,948,775	357,700	9.1	1,429,900	36.2	365,750	9.3
2017 年	4,198,685	362,500	8.6	1,502,800	35.8	360,350	8.6
2018 年	4,395,600	363,000	8.3	1,566,600	35.6	351,400	8.0
2019 年	4,479,000	352,100	7.9	1,638,700	36.6	348,950	7.8
2020 年(見込)	4,045,200	323,900	8.0	1,577,600	39.0	334,350	8.3
2021 年(予測)	4,289,450	314,200	7.3	1,614,600	37.6	345,400	8.1
2022 年(予測)	4,388,150	307,900	7.0	1,662,000	37.9	343,700	7.8

(単位：百万円、%)

年次	百貨店		コンビニエンスストア		バラエティショップ	
	販売金額	構成比	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	325,500	8.8	18,950	0.5	78,050	2.1
2011 年	319,500	8.8	20,900	0.6	77,800	2.1
2012 年	326,500	9.0	24,350	0.7	77,250	2.1
2013 年	332,300	9.1	23,500	0.6	78,000	2.1
2014 年	353,700	9.6	28,900	0.8	78,250	2.1
2015 年	397,000	10.4	33,700	0.9	78,500	2.1
2016 年	434,100	11.0	36,900	0.9	80,950	2.1
2017 年	506,700	12.1	39,350	0.9	84,200	2.0
2018 年	554,500	12.6	45,250	1.0	93,650	2.1
2019 年	565,500	12.6	46,450	1.0	99,500	2.2
2020 年(見込)	440,000	10.9	42,200	1.0	88,100	2.2
2021 年(予測)	530,000	12.4	43,100	1.0	96,800	2.3
2022 年(予測)	545,000	12.4	44,000	1.0	99,900	2.3

注 23 「チャネル定義」(p.59)参照

(単位：百万円、%)

年次	ディスカウントストア		コスメセレクトショップ		ライフスタイル提案型 直営店	
	販売金額	構成比	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	37,250	1.0	6,900	0.2	59,450	1.6
2011 年	38,350	1.1	7,900	0.2	62,200	1.7
2012 年	43,600	1.2	9,450	0.3	63,500	1.7
2013 年	46,150	1.3	11,800	0.3	66,800	1.8
2014 年	53,400	1.4	13,350	0.4	71,300	1.9
2015 年	61,500	1.6	15,100	0.4	77,000	2.0
2016 年	76,500	1.9	17,450	0.4	82,500	2.1
2017 年	93,350	2.2	20,400	0.5	89,500	2.1
2018 年	101,400	2.3	23,600	0.5	94,900	2.2
2019 年	104,300	2.3	26,100	0.6	96,600	2.2
2020 年(見込)	95,900	2.4	22,300	0.6	84,000	2.1
2021 年(予測)	105,000	2.4	23,950	0.6	86,100	2.0
2022 年(予測)	107,800	2.5	26,200	0.6	88,800	2.0

(単位：百万円、%)

年次	百貨店ブランド直営店		通信販売直営店		家電量販店	
	販売金額	構成比	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	4,850	0.1	32,150	0.9	5,100	0.1
2011 年	5,250	0.1	32,190	0.9	6,250	0.2
2012 年	5,700	0.2	34,450	0.9	7,350	0.2
2013 年	6,200	0.2	35,600	1.0	8,000	0.2
2014 年	6,800	0.2	37,100	1.0	8,200	0.2
2015 年	7,500	0.2	39,200	1.0	9,050	0.2
2016 年	8,500	0.2	41,700	1.1	9,700	0.2
2017 年	10,700	0.3	45,700	1.1	10,600	0.3
2018 年	13,800	0.3	49,400	1.1	11,350	0.3
2019 年	15,500	0.3	49,300	1.1	11,300	0.3
2020 年(見込)	13,000	0.3	41,800	1.0	9,750	0.2
2021 年(予測)	14,250	0.3	45,800	1.1	9,750	0.2
2022 年(予測)	15,750	0.4	46,200	1.1	9,850	0.2

(単位：百万円、%)

年次	空港型免税店		訪問販売		公式通信販売	
	販売金額	構成比	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	35,100	1.0	531,000	14.4	310,690	8.4
2011 年	32,000	0.9	521,050	14.4	302,180	8.3
2012 年	37,000	1.0	517,400	14.2	304,710	8.4
2013 年	51,000	1.4	520,750	14.2	306,135	8.4
2014 年	64,000	1.7	502,800	13.6	316,365	8.5
2015 年	91,500	2.4	470,800	12.3	328,740	8.6
2016 年	91,000	2.3	470,600	11.9	342,325	8.7
2017 年	118,000	2.8	486,050	11.6	359,735	8.6
2018 年	159,000	3.6	480,900	10.9	372,950	8.5
2019 年	152,000	3.4	474,200	10.6	380,650	8.5
2020 年(見込)	53,000	1.3	416,000	10.3	384,500	9.5
2021 年(予測)	91,000	2.1	455,900	10.6	389,000	9.1
2022 年(予測)	122,000	2.8	450,500	10.3	390,000	8.9

(単位：百万円、%)

年次	通信販売卸		その他	
	販売金額	構成比	販売金額	構成比
2010 年	22,700	0.6	65,550	1.8
2011 年	23,800	0.7	66,450	1.8
2012 年	25,200	0.7	66,900	1.8
2013 年	26,800	0.7	68,000	1.9
2014 年	28,600	0.8	67,200	1.8
2015 年	31,200	0.8	68,200	1.8
2016 年	34,100	0.9	69,100	1.7
2017 年	38,550	0.9	70,200	1.7
2018 年	42,950	1.0	70,950	1.6
2019 年	46,350	1.0	71,500	1.6
2020 年(見込)	50,200	1.2	68,600	1.7
2021 年(予測)	53,500	1.2	71,100	1.7
2022 年(予測)	57,000	1.3	71,550	1.6

出典：「化粧品業態別販売動向とインバウンド実態調査 2020」（富士経済）

< 構成比推移 >



2010 年は、化粧品販売金額上位 6 チャンネルで約 9 割を占め、ドラッグストアの構成比が 4 割弱となっている。

近年は訪問販売、化粧品店、薬局・薬店、量販店が実績を落とす一方で、インバウンド需要を獲得していた百貨店が売上を伸ばしている。ドラッグストアは、2014 年に化粧品が免税対象となって以降、化粧品販売実績は伸長しているものの他チャンネルの化粧品販売実績拡大により 2018 年にかけて構成比は微減で推移し、2019 年に中国本土での新 EC 法の施行でインバウンド売上の鈍化した後は再び構成比が高まっている。

その他では、いち早くインバウンド需要獲得に動いていたドン・キホーテが含まれるディスカウントストアや家電量販店、通信販売直営店、メイクアップ商品の拡充で若年層の来店が増えているバラエティショップ、旗艦店や体験型店舗の出店が続くライフスタイル提案型直営店や百貨店ブランド直営店、Amazon.co.jp など通信販売卸が実績を伸ばしており化粧品販売チャンネルが多様化している。

2020 年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、百貨店やショッピングモールなどの大型商業施設に休業要請が出され、訪問販売など対面販売を行うチャンネルでも営業の自粛が行われており、それらチャンネルの構成比は低下し、ドラッグストアや公式通信販売、その他に含まれる通信販売卸の構成比が高まると見られる。

<チャネル定義>

対象業態	定 義						
化粧品店、 薬局・薬店	①化粧品店は法的区分がないため店舗数等の公的なデータがない。 ②本稿では化粧品企業と特約店契約を結んでいる単独店あるいは多店舗展開を行っている店舗とする。 ③なおドラッグストアに区分されない薬局・薬店も対象とする。 ④薬局・薬店とは旧薬事法で定められた「薬局」及び「一般販売業」「薬種商販売業」の許可が与えられた小売店であり、定義は以下の通りである。 <table border="1" data-bbox="309 622 1420 913"> <tr> <td data-bbox="309 622 480 719">薬局</td><td data-bbox="480 622 1420 719">医薬品営業者(薬局、製造業、病院等)のうち、都道府県知事による開設許可を受け、薬剤師による店舗管理を行うもの。</td></tr> <tr> <td data-bbox="309 719 480 815">一般販売業</td><td data-bbox="480 719 1420 815">医薬品販売業のうち、薬局同様に薬剤師による店舗管理を行うもの。但し卸売一般販売業に分類されるものは除く。</td></tr> <tr> <td data-bbox="309 815 480 913">薬種商販売業</td><td data-bbox="480 815 1420 913">都道府県ごとに試験を行った上で、店舗開設許可を受けているもの。特定での薬品(厚生労働大臣指定)は販売できない。</td></tr> </table> ・一般的には「一般販売業」及び「薬種商販売業」は総称して「薬店」と呼称される。	薬局	医薬品営業者(薬局、製造業、病院等)のうち、都道府県知事による開設許可を受け、薬剤師による店舗管理を行うもの。	一般販売業	医薬品販売業のうち、薬局同様に薬剤師による店舗管理を行うもの。但し卸売一般販売業に分類されるものは除く。	薬種商販売業	都道府県ごとに試験を行った上で、店舗開設許可を受けているもの。特定での薬品(厚生労働大臣指定)は販売できない。
薬局	医薬品営業者(薬局、製造業、病院等)のうち、都道府県知事による開設許可を受け、薬剤師による店舗管理を行うもの。						
一般販売業	医薬品販売業のうち、薬局同様に薬剤師による店舗管理を行うもの。但し卸売一般販売業に分類されるものは除く。						
薬種商販売業	都道府県ごとに試験を行った上で、店舗開設許可を受けているもの。特定での薬品(厚生労働大臣指定)は販売できない。						
ドラッグストア	①ドラッグストアは法的に明確な区分はなく、厚生労働省が指定する「薬局・薬店」の中で組織化・企業化が進む店舗の呼称として広く認知されている。経済産業省の商業統計調査においては、医薬品・化粧品小売業に分類される店舗のうち医薬品の取扱いを行っている店舗をドラッグストアと定義している。 ②なお、本稿では化粧品店、薬局・薬店の両機能を持ち、5店舗以上を展開している企業を「ドラッグストア」としている。						
量販店	①本稿における量販店では、GMS (General Merchandise Store) と SM (Super Market) を包括したものを示すものとする。 ②GMS・SMは経済産業省「商業統計調査」における業態分類表に基づいた分類とし、同分類では取扱商品の販売構成比によって専門スーパーと総合スーパーに区分される。 ③GMSは衣料品・食料品・住関連商品を取り扱い、3,000平方メートル以上(都の特別区および政令指定都市は6,000平方メートル以上の売り場面積)で、売場面積の50%以上をセルフ形式の販売形態を占めると定義されており、本稿では全国的にチェーン展開する大型総合スーパー(イオン/イトーヨーカ堂/ダイエー/ユニー/西友/イズミ)を対象とした。 ④その他の総合スーパー/食料品他の専門スーパーはSMと定義し、規模の大きいSMに関してはSSM (Super Super Market) と呼称されるケースもあるが本稿ではSMに包括した。						

対象業態	定 義
百貨店	①百貨店は主として経済産業省の商業統計調査の業態分類表に基づき、衣料品・食料品・住関連商品を取り扱う 3,000 平方メートル以上（都の特別区及び政令指定都市は 6,000 平方メートル以上）、且つセルフサービス形式の売場が 50%未満である店舗と定義する。 ②百貨店内に開設されている空港型市中免税店で販売実績は本稿の対象外とし、空港型免税店に包括する。 ③テナント業をメインとする駅ビル、ショッピングセンターについては本稿対象外とする。 ④百貨店企業が展開する他業態の事業については本稿対象外とし、コスメセレクトショップについてはコスメセレクトショップに包括する。
コンビニエンスストア	①コンビニエンスストア（コンビニ、CVS）の定義は、経済産業省の商業統計調査における業態分類表に基づいた分類とする。 ②業態分類では「食料品のほかに日用雑貨や化粧品などを取り扱い、売場面積が 30 ㎡以上 250 ㎡で営業時間が 14 時間以上から終日営業の店舗」がコンビニエンスストアの定義とされており、販売形態は原則としてセルフサービスとなっている。 ③近年の動向として大規模組織小売業間の合併や資本／業務提携が活発に行われていることを背景に、同じ敷地内、同じ建物内にコンビニエンスストア／ドラッグストア／量販店などを併設した店舗が増加しているが、本稿ではこうした複合業態の店舗は対象外とし、コンビニエンスストアの店内に独立した会計システムを設置している店舗のみを対象とする。
バラエティショップ	①バラエティショップは、化粧品、日用品、生活雑貨、アパレル、食品の 5 分野を取扱品目とし、希少性や話題性の高い商品を中心に定価販売を基本とする店舗を対象とする。 ②駅ビルや駅構内、ショッピングセンター内への出店が多くみられ、鉄道系企業の子会社が運営しているケースも多い。
ディスカウントストア	①ディスカウントストアは、日用品、衣料品、家電製品、医薬品、玩具、食料品、化粧品など様々なカテゴリーの商品をセルフ方式で低価格で販売する小売チェーンを対象とする。 ②なお、低価格を訴求していても食料品や家電などの特定のカテゴリーに売上が偏った店舗や、「100 円ショップ」などのように 500 円以下の低価格で店内の商品価格を一律に設定している価格均一ショップは対象外とする。
コスメセレクトショップ	①コスメセレクトショップは複数の化粧品ブランドを店舗のコンセプトに基づいて販売する店舗とする。 ②化粧品に特化せず、食品やアパレルなどの多品目と併せて化粧品をセルフ形式で販売する店舗については本稿対象外とし、バラエティショップに包括する。 ③制度品系メーカーと販売契約を締結している店舗については、セレクトショップの名称を使用している場合であっても本稿対象外とし化粧品店、薬局・薬店に包括する。

対象業態	定 義
ライフスタイル提案型直営店	①本稿では主としてワンブランド・ワンショップで展開しており、ブランドコンセプトやテーマに基づいた店舗デザインや陳列を行い、且つ直営店での販売を主体としたブランドをライフスタイル提案型ブランドとして定義する。 ②本稿ではライフスタイル提案型ブランドが展開する直営店、FC 店を対象とし、百貨店カウンターやコスメセレクトショップ、バラエティショップ等での展開は対象外とする。 ③また、ブランドコンセプトに基づきライフスタイルを提案するブランドであっても、化粧品の取り扱いがないブランドおよびコスメセレクトショップやバラエティショップを主要販路とするものについては対象外とする。
百貨店ブランド直営店	①百貨店ブランド直営店は百貨店を主体に展開するブランドの直営店を対象としており、百貨店の実績は本稿対象外とする。 ②テキスタイルやレザーグッズなどを主体とするブランド直営店で販売される化粧品についても本稿の対象とする。 ③なお、直営店を中心に展開するライフスタイル提案型ブランドは本稿対象外とする。
通信販売直営店	①通信販売を主要チャネルとする通販メーカーによって直営形態で展開され、自社の化粧品ブランド／製品のみを取り扱う店舗を対象とする。 ②なお、本稿では店舗展開であっても卸経由で配荷が行われているケースや、セルフ販売の店舗／自動販売機については対象外とする。
家電量販店	①家電量販店は、家電製品や情報・通信機器の売上構成比が 50%以上で、直営またはフランチャイズ形態で5店舗以上展開を行う業態を包括する。 ②近年は家電や情報・通信機器の他、雑貨や医薬品、化粧品、加工食品や飲料、不動産など領域の拡充を図っている。
空港型免税店	①免税店は消費税が免税される「消費税免税店」(Tax Free)と消費税のほか、酒税、たばこ税、関税などの諸税を免除して販売できる「保税免税店」(Duty Free)がある。本稿では「保税免税店」を「空港型免税店」として市場を算出し、「消費税免税店」は原則対象外とした。ただし、空港などの出国手続き後のエリアに店舗を設置している国内ブランドの免税店については販売エリアが「保税免税店」と同一であるため、本稿の対象としている。 ②「保税免税店」は消費税に加え、酒税、たばこ税、関税などの諸税を免除して販売できる、いわゆる”DUTY FREE SHOP”と呼ばれる。主に国際空港や国際港湾の出国エリアに存在するが、近年は市中店舗で商品を購入し、出国手続き後に商品受け渡しを行う「空港型市中免税店」も増加している。「空港型市中免税店」も「保税免税店」であるため、日本国内の店舗は本稿の対象としている。一方、百貨店などの免税カウンターでの購入は消費税を免税する消費税免税となるため、対象外とした。 ③このほか、沖縄県では沖縄振興特別措置法に基づく独自の関税特例制度、いわゆる「沖縄型特定免税店制度」が施行されており、対象の店舗では訪日客のほか海外渡航者以外でも関税を免税して商品を購入できる（消費税は対象外）。このため、本稿では「沖縄型特定免税制度」の店舗も対象としている。

対象業態	定 義
訪問販売	・訪問販売は、メーカー主導で組織された販売組織（代理店や代行店）に属する販売員が消費者に販売を行う販売形態で、原則的には販売員が顧客宅に訪問する販売形態やネットワーク販売も対象とする。
公式通信販売	①通信販売はメーカー・ブランドが直接（公式）に販売する形態、ドラッグストア／百貨店／量販店などの小売・流通が販売する形態、メーカーが商品をアマゾンジャパンやジュピターショップチャンネルなどの通信販売企業に卸す形態に区分される。 ②本稿では、メーカー・ブランドが直接（公式）に販売する形態のみを対象とし、紙媒体（カタログ／チラシ／新聞広告など）やテレビ、ラジオを使用して電話やFAX、郵便などで注文を行うカタログ通販／テレビ通販／ラジオ通販の他、公式サイト（仮想モールに出店する公式ショップを含む）で受注を行うECなどに分類される。
通信販売卸	①通信販売はメーカー・ブランドが直接（公式）に販売する形態、ドラッグストア／百貨店／量販店などの小売・流通が販売する形態、メーカーが商品をアマゾンジャパンやジュピターショップチャンネルなどの通信販売企業に卸す形態に区分される。 ②本稿では、メーカーが商品を通信販売企業に卸す形態のみを対象とし、楽天市場、Amazon.co.jpにおいてはそれぞれRakuten24や自社通販分が対象となる。 （小売店が開設している通販サイトの実績は、小売店の各業態に振り分けることとする。）
その他	・本調査ではホームセンターや、低価格帯均一ショップなどを包括する。

(3) チャネル別^{注24}化粧品販売実績伸長率^{注25}

(単位：百万円、%)

年次	合計	化粧品、薬局・薬店		ドラッグストア		量販店	
		販売金額	伸長率	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	3,678,190	396,300	100.0	1,367,600	100.0	381,050	100.0
2011 年	3,619,870	383,550	96.8	1,341,800	98.1	378,700	99.4
2012 年	3,635,210	371,100	93.6	1,340,600	98.0	380,150	99.8
2013 年	3,659,885	365,500	92.2	1,331,800	97.4	381,550	100.1
2014 年	3,700,965	359,600	90.7	1,335,300	97.6	376,100	98.7
2015 年	3,820,640	357,000	90.1	1,383,000	101.1	371,650	97.5
2016 年	3,948,775	357,700	90.3	1,429,900	104.6	365,750	96.0
2017 年	4,198,685	362,500	91.5	1,502,800	109.9	360,350	94.6
2018 年	4,395,600	363,000	91.6	1,566,600	114.6	351,400	92.2
2019 年	4,479,000	352,100	88.8	1,638,700	119.8	348,950	91.6
2020 年(見込)	4,045,200	323,900	81.7	1,577,600	115.4	334,350	87.7
2021 年(予測)	4,289,450	314,200	79.3	1,614,600	118.1	345,400	90.6
2022 年(予測)	4,388,150	307,900	77.7	1,662,000	121.5	343,700	90.2

(単位：百万円、%)

年次	百貨店		コンビニエンスストア		バラエティショップ	
	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	325,500	100.0	18,950	100.0	78,050	100.0
2011 年	319,500	98.2	20,900	110.3	77,800	99.7
2012 年	326,500	100.3	24,350	128.5	77,250	99.0
2013 年	332,300	102.1	23,500	124.0	78,000	99.9
2014 年	353,700	108.7	28,900	152.5	78,250	100.3
2015 年	397,000	122.0	33,700	177.8	78,500	100.6
2016 年	434,100	133.4	36,900	194.7	80,950	103.7
2017 年	506,700	155.7	39,350	207.7	84,200	107.9
2018 年	554,500	170.4	45,250	238.8	93,650	120.0
2019 年	565,500	173.7	46,450	245.1	99,500	127.5
2020 年(見込)	440,000	135.2	42,200	222.7	88,100	112.9
2021 年(予測)	530,000	162.8	43,100	227.4	96,800	124.0
2022 年(予測)	545,000	167.4	44,000	232.2	99,900	128.0

注 24 「チャネル定義」(p.59) 参照

注 25 伸長率は 2010 年を基準年とする。

(単位：百万円、%)

年次	ディスカウントストア		コスメセレクトショップ		ライフスタイル提案型 直営店	
	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	37,250	100.0	6,900	100.0	59,450	100.0
2011 年	38,350	103.0	7,900	114.5	62,200	104.6
2012 年	43,600	117.0	9,450	137.0	63,500	106.8
2013 年	46,150	123.9	11,800	171.0	66,800	112.4
2014 年	53,400	143.4	13,350	193.5	71,300	119.9
2015 年	61,500	165.1	15,100	218.8	77,000	129.5
2016 年	76,500	205.4	17,450	252.9	82,500	138.8
2017 年	93,350	250.6	20,400	295.7	89,500	150.5
2018 年	101,400	272.2	23,600	342.0	94,900	159.6
2019 年	104,300	280.0	26,100	378.3	96,600	162.5
2020 年(見込)	95,900	257.4	22,300	323.2	84,000	141.3
2021 年(予測)	105,000	281.9	23,950	347.1	86,100	144.8
2022 年(予測)	107,800	289.4	26,200	379.7	88,800	149.4

(単位：百万円、%)

年次	百貨店ブランド直営店		通信販売直営店		家電量販店	
	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	4,850	100.0	32,150	100.0	5,100	100.0
2011 年	5,250	108.2	32,190	100.1	6,250	122.5
2012 年	5,700	117.5	34,450	107.2	7,350	144.1
2013 年	6,200	127.8	35,600	110.7	8,000	156.9
2014 年	6,800	140.2	37,100	115.4	8,200	160.8
2015 年	7,500	154.6	39,200	121.9	9,050	177.5
2016 年	8,500	175.3	41,700	129.7	9,700	190.2
2017 年	10,700	220.6	45,700	142.1	10,600	207.8
2018 年	13,800	284.5	49,400	153.7	11,350	222.5
2019 年	15,500	319.6	49,300	153.3	11,300	221.6
2020 年(見込)	13,000	268.0	41,800	130.0	9,750	191.2
2021 年(予測)	14,250	293.8	45,800	142.5	9,750	191.2
2022 年(予測)	15,750	324.7	46,200	143.7	9,850	193.1

(単位：百万円、%)

年次	空港型免税店		訪問販売		公式通信販売	
	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	35,100	100.0	531,000	100.0	310,690	100.0
2011 年	32,000	91.2	521,050	98.1	302,180	97.3
2012 年	37,000	105.4	517,400	97.4	304,710	98.1
2013 年	51,000	145.3	520,750	98.1	306,135	98.5
2014 年	64,000	182.3	502,800	94.7	316,365	101.8
2015 年	91,500	260.7	470,800	88.7	328,740	105.8
2016 年	91,000	259.3	470,600	88.6	342,325	110.2
2017 年	118,000	336.2	486,050	91.5	359,735	115.8
2018 年	159,000	453.0	480,900	90.6	372,950	120.0
2019 年	152,000	433.0	474,200	89.3	380,650	122.5
2020 年(見込)	53,000	151.0	416,000	78.3	384,500	123.8
2021 年(予測)	91,000	259.3	455,900	85.9	389,000	125.2
2022 年(予測)	122,000	347.6	450,500	84.8	390,000	125.5

(単位：百万円、%)

年次	通信販売卸		その他	
	販売金額	伸長率	販売金額	伸長率
2010 年	22,700	100.0	65,550	100.0
2011 年	23,800	104.8	66,450	101.4
2012 年	25,200	111.0	66,900	102.1
2013 年	26,800	118.1	68,000	103.7
2014 年	28,600	126.0	67,200	102.5
2015 年	31,200	137.4	68,200	104.0
2016 年	34,100	150.2	69,100	105.4
2017 年	38,550	169.8	70,200	107.1
2018 年	42,950	189.2	70,950	108.2
2019 年	46,350	204.2	71,500	109.1
2020 年(見込)	50,200	221.1	68,600	104.7
2021 年(予測)	53,500	235.7	71,100	108.5
2022 年(予測)	57,000	251.1	71,550	109.2

出典：「化粧品業態別販売動向とインバウンド実態調査 2020」（富士経済）

(4) EC

1) 化粧品通販市場の変遷

年次	ビューティ他通販市場の動き	市場環境
1980 年代	化粧品専門通販の台頭 ・ファンケル ・ハーバー研究所 ・再春館製薬所・イー・エス・エス ・ディーエイチシー ・オルビスなど	化粧品専門メーカーが化粧品通販を本格化
1990 年代	・ヴァーナル ・山田養蜂場 ・ドクターシーラボ ・JIMOS など 味の素「ジーノ」発売により化粧品市場参入	1995 年～ インターネット普及
2000 年代	店販チャネル主体の化粧品メーカーの通販への参入が本格化 2001 年 オージオが化粧品通販を開始 資生堂子会社のキナリ（現：スクロール子会社）が「草花木果」を発売 カネボウが「ウェイユー」でインターネット通販を開始 2004 年 花王が通販ブランド「オリエナ」の販売を開始 通販チャネルのポテンシャルに着目した異業種の市場参入が相次ぐ 2006 年 ゼリア新薬工業、富士フィルム ヘルスケア ラボラトリー、メルシャンが化粧品事業に参入 2007 年 ヤマダ電機が「いな穂のしずく」発売 2008 年 ニチレイ、チョーヤ、アサヒフードアンドヘルスケア、協和が化粧品事業に参入	通販企業が牽引する形でオールインワンスキンケア市場が活性化 パソコン、携帯電話の普及により EC 市場が拡大 店販用化粧品が卸経由での仮想ショッピングモールへの出品の急増 2008 年 リーマンショックで高級化粧品の需要減少
2010 年代	百貨店などで展開する高価格帯化粧品ブランドの通販事業展開の本格化 2011 年 日本ロレアルが高級ブランドの通販事業を開始 2012 年 資生堂が自社サイト「ワタシプラス」でオンライン通販、他社通販企業への卸販売を開始 2018 年 アサヒカルピスウェルネスが化粧品事業に参入	スマートフォンの普及・高機能化によるアプリ配信によるモバイル通販へのシフトが進行 化粧品のインバウンド特需により越境 EC への参入が増加
2020 年代		新型コロナウイルスの影響でインバウンド需要が激減する一方で、“巣ごもり需要”が拡大

2) 市場規模推移

(単位：百万円、%)

年次	通信販売全体（物販 ^{注26} ）			化粧品 ^{注27}		
	販売金額	対前年比	伸長率	販売金額	対前年比	伸長率
2010 年	5,882,300	—	100.0	500,200	—	100.0
2011 年	6,393,350	108.7	108.7	536,000	107.2	107.2
2012 年	6,828,350	106.8	116.1	555,350	103.6	111.0
2013 年	7,763,350	113.7	132.0	561,800	101.2	112.3
2014 年	8,174,650	105.3	139.0	573,100	102.0	114.6
2015 年	8,680,100	106.2	147.6	603,100	105.2	120.6
2016 年	9,374,950	108.0	159.4	628,100	104.1	125.6
2017 年	10,079,350	107.5	171.4	671,700	106.9	134.3
2018 年	10,846,450	107.6	184.4	692,350	103.1	138.4
2019 年	11,656,050	107.5	198.2	707,450	102.2	141.4
2020 年（見込）	12,419,550	106.6	211.1	720,800	101.9	144.1
2021 年（予測）	13,095,500	105.4	222.6	726,800	100.8	145.3

出典：「通販・e-コマースビジネスの実態と今後 2020」（富士経済）

通販化粧品市場は 1980 年代以降通販専門で展開する企業が増加し、しばらくはこうした企業の増加により市場成長が続いてきたが、2000 年代後半～2010 年代以降は食品や医薬品などの異業種からの参入が相次ぎ、特に富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー、サントリーウエルネス、味の素はそれぞれの企業で培った認知度の高い成分を化粧品に配合することで目新しさを訴求し需要を獲得している。

また商品面では 1990 年代後半にドクターシーラボが化粧水／乳液／美容液の 3 ステップが 1 品で済む「ドクターシーラボ アクアコラーゲングル」を発売、2000 年代以降長期に亘り市場参入が相次いだ化粧水／乳液／美容液の 3 ステップが 1 品で済むオールインワンスキンケアが“時短”需要を獲得し、現在に至るまで市場拡大の牽引役となっている。

一方でディーエイチシーやファンケル、オルビスといった長期に亘り通販主体に展開してきた企業は、近年は実店舗として直営店や卸経由でドラッグストアやコンビニエンスストア、バラエティショップといった販路を強化し、自社通販については伸び悩むケースも見られる。一方で前述の異業種参入企業や新興系企業、またアパレルやビューティ関連品を広く展開するジュピターショップチャンネルや QVC ジャパンといったテレビ通販企業もトレンド性の高い商品提案により上位シェアを占有している。

注 26 「商品カテゴリー」(p.66) 参照

注 27 化粧品は男性／女性向けのスキンケア、メイクアップ、ヘアケア・ヘアメイク、ボディケア、フレグランスのほか、ベビー用スキンケアなどトイレットリー製品の一部も対象に含めている。

<商品カテゴリー>

分類		品目
物販	食品・産直品	加工食品、菓子類、酒類、飲料、自然食、水産物、農産物など
	健康食品・医薬品	健康食品、サプリメント、医薬品など
	ビューティ他	化粧品、美容器具、健康器具など
	生活雑貨	家庭用品、トイレタリー（化粧品を除く）、食器、台所用品など
	アパレル	婦人服、紳士服、子供服、ベビー服、服飾雑貨、宝飾品など
	家電製品・パソコン	パソコン本体、パソコン周辺機器、パソコンソフト、家電類など
	書籍・ソフト	書籍、雑誌、音楽・映像ソフトなど
	その他	家具・収納、インテリア、寝具、ホビー関連グッズ、玩具、スポーツ用品、文具、カー用品、ペット関連グッズなど

3) 通販形態別市場規模推移

(単位：百万円、%)

	2017 年		2018 年		2019 年	
	販売金額	構成比	販売金額	販売金額	構成比	販売金額
カタログ通販	197,500	29.4	192,500	27.8	188,500	26.6
テレビ通販	68,800	10.2	68,000	9.8	68,300	9.7
ラジオ通販	1,050	0.2	1,000	0.1	1,000	0.1
EC	402,150	59.9	429,300	62.0	448,200	63.4
PC	243,600	36.3	249,400	36.0	246,300	34.8
タブレット PC	29,700	4.4	34,800	5.0	37,400	5.3
スマートフォン	125,400	18.7	142,100	20.5	162,000	22.9
フィーチャーフォン	3,450	0.5	3,000	0.4	2,500	0.4
その他	2,200	0.3	1,550	0.2	1,450	0.2
合計	671,700	100.0	692,350	100.0	707,450	100.0

出典：「通販・e-コマースビジネスの実態と今後 2020」（富士経済）

カタログ通販は、中高年層のリピート客を多く有する新日本製薬や再春館製薬所といった企業ではコミュニケーターの育成によるカウンセリング強化を行い、EC への戦略的な移行を行わない方針の企業も一定数見られるが、実績／構成比ともに縮小推移となっている。

テレビ通販は生放送を行うことで臨場感を訴求した番組を投下するジュピターショップチャンネルや QVC ジャパンの実績が大半を占めている。近年は放映後に PC やスマートフォンで注文するユーザーも見られるものの、コアユーザーである女性層の年齢層が高いこともあり一定の実績を確保している。

EC は各社の注力チャネルであり、カタログ通販よりも価格面やポイントなど優遇を進めていることから PC 経由の構成比が高い。近年は AI チャットの導入などにより、省人化を進めつつもユーザビリティの強化を図っており、チャネル実績は拡大傾向にある。

スマートフォンは若年層を中心に幅広い年代に普及していることで EC における比率も高まっており、近年はアプリのリリースが相次いでおり、AI を活用し自身でマッチング提案を行えるといった機能を付加することでメイクアップなど通販での購入へのハードルが高い商品の需要を獲得していることから、実績／構成比共に拡大推移を維持している。

4) 現状の課題と今後の方向性

<現状での課題>

通販企業における課題として、公式サイトを重視する上位企業を中心に、仮想ショッピングモールの台頭により公式サイトよりも安く購入できることで自社通販の顧客獲得の阻害要因となっている他、また仮想ショッピングモールなどの展開商品は顧客情報の把握が困難であり、さらにこうしたユーザーの増加により、自社会員以外の顧客動向の収集・分析による新規需要獲得が求められている。

一方で近年はインバウンド需要もあり卸流通の強化による多数の店舗への配荷により顧客とのタッチポイント拡大が進んでいる企業も多く、こうしたチャネル向けには専用商品のための配荷により通販事業との差別化を図っているものの、こうした店舗から通販へのシフトは限定的となっている。

<今後の方向性>

上位企業については、他チャネルへのシフトにより伸び悩み傾向が続くとみられるものの、「Amazon. co. jp」、「楽天市場」などの仮想ショッピングモール運営企業やジュピターショップチャンネル、QVC ジャパンをはじめとしたテレビ通販企業が2020年初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大による“巣ごもり需要”を獲得し高成長が続いている他、百貨店ブランドや直営店で展開するライフスタイルブランド提案型ブランドなど展開店舗が限定され、来店が難しい顧客獲得を目的として自社通販への注力度を高めることで実店舗チャネル主体の化粧品企業における通販事業強化がより加速化すると見られ、市場については今後も成長が続くとみられる。

一方で新型コロナウイルスの感染拡大により通販の利用頻度自体は高まっているが、今後外出自粛が長期化するとメイクアップや日焼け止めといったカテゴリーの需要減が見込まれる他、スキンケアが主体となる通販市場においても、景気悪化による可処分所得の減少による低価格商品へのシフトによる単価減少、世界的な物流混乱による原料不足に起因する欠品でのチャンスロスなどが懸念材料となっている。

(5) トラベルリテール（空港型免税店）

1) インバウンド関連政策動向

年次	訪日客数 (対前年比)	1人当たりの 旅行消費額 (対前年比)	政策動向	主要トピックス
2003 年	5,211,725 人 (－)	－	ビジットジャパンキャンペーン開始 (2010 年の訪日外国人旅行者 1,000 万人を目標)	
2004 年	6,137,905 人 (117.8 %)	－		
2005 年	6,727,926 人 (109.6%)	－		
2006 年	7,334,077 人 (109.0%)	－	観光立国推進基本計画策定	
2007 年	8,346,969 人 (113.8%)	－	観光立国推進基本法施行	
2008 年	8,350,835 人 (100.0%)	－	国土交通省の外局として観光庁が新設	
2009 年	6,789,658 人 (81.3%)	－	日本政府が中国人個人観光客への査証発給を開始	世界金融危機、鳥インフルエンザ発生
2010 年	8,611,175 人 (126.8%)	－	日本政府が中国人個人観光客への査証発給要件を緩和	茨城空港開港、東京国際空港新国際線ターミナル開港
2011 年	6,218,752 人 (72.2%)	113,917 円/人 (－)		東日本大震災、円高進行
2012 年	8,358,105 人 (134.4%)	111,983 円/人 (98.3%)	観光立国推進基本計画の改定	那覇空港、関西国際空港の LCC 専用ターミナルが供用開始 尖閣諸島国有化による日中関係の悪化
2013 年	10,363,904 人 (124.0%)	115,837 円/人 (103.4%)	「日本再興戦略」を閣議決定 日本政府が東南アジア諸国訪日客の査証発効要件を緩和 「クールジャパン」と一体	2020 年東京オリンピック開催決定 日本政府の金融緩和政策により、為替の円安が進行

年次	訪日客数 (対前年比)	1人当たりの 旅行消費額 (対前年比)	政策動向	主要トピックス
			となった日本ブランドの 発信強化	
2014 年	13,413,467 人 (129.4%)	124,612 円/人 (107.6%)	「外国人向け消費税免税 制度」が開始 化粧品等消耗品を含めた すべての品目が消費税免 税の対象へ	
2015 年	19,737,409 人 (147.1%)	143,832 円/人 (115.4%)		成田空港の LCC 専用ターミナルが 供用開始 訪日外交人観光客による大量買い を表現した“爆買い”が流行語大賞 に選出
2016 年	24,039,700 人 (121.8%)	129,367 円/人 (89.9%)		世界同時株安の発生
2017 年	28,691,073 人 (119.3%)	130,653 円/人 (101.0%)	新たな観光立国推進基本 計画を決定 (2020 年の訪日外国人旅 行者数 4,000 万人、訪日外 国人旅行消費額 8 兆円を目 標)	九州北部豪雨の発生
2018 年	31,191,856 人 (108.7%)	131,241 円/人 (100.5%)		
2019 年	31,882,049 人 (102.2%)	137,948 円/人 (105.1%)		中国で中国電子商取引法(新 EC 法) が施行
2020 年	—	—		新型コロナウイルス感染症の発 生・世界的な流行
2021 年	—	—		東京オリンピック・パラリンピッ ク開催

2) 空港型免税店^{注28}における化粧品の実績

(単位：百万円、%)

年次	空港型免税店の全体実績			空港型免税店の化粧品実績		
	販売金額	対前年比	伸長率 ^{注29}	販売金額	対前年比	伸長率 ^{注29}
2010 年	117,000	—	100.0	35,100	—	100.0
2011 年	104,000	88.9	88.9	32,000	91.2	91.2
2012 年	123,000	118.3	105.1	37,000	115.6	105.4
2013 年	146,600	119.2	125.3	51,000	137.8	145.3
2014 年	182,600	124.6	156.1	64,000	125.5	182.3
2015 年	229,200	125.5	195.9	91,500	143.0	260.7
2016 年	227,700	99.3	194.6	91,000	99.5	259.3
2017 年	293,800	129.0	251.1	118,000	129.7	336.2
2018 年	355,000	120.8	303.4	159,000	134.7	453.0
2019 年	338,400	95.3	289.2	152,000	95.6	433.0
2020 年(見込)	118,000	34.9	100.9	53,000	34.9	151.0
2021 年(予測)	203,000	172.0	173.5	91,000	171.7	259.3
2022 年(予測)	270,000	133.0	230.8	122,000	134.1	347.6

出典：「化粧品業態別販売動向とインバウンド実態調査 2020」（富士経済）

空港型免税店は訪日外国人観光客が急増する 2010 年代以前では日本人利用者の利用が中心であり、国内系、外資系ともにプレステージブランドが人気の中心であった。しかし、2010 年代中盤からビザの発給要件の緩和や、LCC の就航拡大に伴い中国を中心としたアジア圏の訪日外国人観光客の増加により、資生堂や P&G プレステージを中心に知名度の高い国内系メーカーのブランドが実績の中心となっていく。

また、2015 年頃の初期のインバウンド需要拡大期は主に団体旅行者によるお土産需要を取り込んだ比較的低価格の洗顔料やパックも人気であったが、2010 年代中盤以降は中間所得層やそれ以上の所得層での個人旅行が増加、これに伴ってお土産のほか、個人利用の商品として国内ブランドのプレステージブランドへの需要が高まり、購入単価が増加基調となったことも市場拡大の一因となった。

注 28 ①免税店は消費税が免税される「消費税免税店」(Tax Free)と消費税のほか、酒税、たばこ税、関税などの諸税を免除して販売できる「保税免税店」(Duty Free)がある。本稿では「保税免税店」を「空港型免税店」として市場を算出し、「消費税免税店」は原則対象外とした。但し、空港などの出国手続き後のエリアに店舗を設置している国内ブランドの免税店については販売エリアが「保税免税店」と同一であるため、本稿の対象としている。

②「保税免税店」は消費税に加え、酒税、たばこ税、関税などの諸税を免除して販売できる、いわゆる“DUTY FREE SHOP”と呼ばれる。主に国際空港や国際港湾の出国エリアに存在するが、近年は市中店舗で商品を購入し、出国手続き後に商品受け渡しを行う「空港型市中免税店」も増加している。「空港型市中免税店」も「保税免税店」であるため、日本国内の店舗は本稿の対象としている。一方、百貨店などの免税カウンターでの購入は消費税を免税する消費税免税となるため、対象外とした。

③このほか、沖縄県では沖縄振興特別措置法に基づく独自の関税特例制度、いわゆる「沖縄型特定免税店制度」が施行されており、対象の店舗では訪日客のほか海外渡航者以外でも関税を免税して商品を購入できる(消費税は対象外)。このため、本稿では「沖縄型特定免税店制度」の店舗も対象としている。

注 29 伸長率は 2010 年を基準年とする。

2017 年頃より、市中で購入し商品を出国空港のカウンターで受け取る空港型市中免税店が複数オープンしたものの、日本人利用者の少なさに加え、訪日外国人の認知度や商品をその場で受け取れないといった点がネックとなり、小売りサイドが当初予定していた実績には達することが出来なかった。

2019 年は引き続き訪日外国人は増加したものの、一部店舗において当初予定された 2020 年の東京オリンピックに向けた店舗改修に伴う休業や中国人民元の元安による訪日中国人の消費マインドの低下により、実績は微減での着地となった。

2020 年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪日外国人数自体が大きく減少すると見込まれ、店舗も時間短縮での営業や一時休業がみられることから、大きく市場は縮小すると見込まれる。

3) インバウンド動向

(単位：百万円、%)

年次	空港型免税店の化粧品実績			インバウンド販売金額		
	販売金額	対前年比	伸長率 ^{注 30}	販売金額	対前年比	含有率
2017 年	118,000	—	100.0	83,000	—	70.3
2018 年	159,000	134.7	134.7	117,400	141.4	73.8
2019 年	152,000	95.6	128.8	105,900	90.2	69.7
2020 年(見込)	53,000	34.9	44.9	20,000	18.9	37.7

出典：「化粧品業態別販売動向とインバウンド実態調査 2020」(富士経済)

インバウンドは主に中国人を中心としたアジア圏からの訪日外国人観光客の購入者数、購入単価の上昇により、市場は拡大傾向で推移してきた。しかしながら、2019 年は主力の中国で中国人民元の元安により消費マインドが低下したことが空港免税店における化粧品実績にも影響を与えたほか、当初予定されていた 2020 年の東京オリンピックに向けた店内改装に伴う休業が一部店舗で見られたことも影響し、前年割れとなった。

2020 年は新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延に伴い、国際線利用者が大きく減少すると見込まれるため、市場も大幅縮小となる見込みである。

4) 現状の課題と今後の方向性

<現状での課題>

空港型免税店は訪日外国人の増加、特に中国を中心としたアジア圏からの訪日客の高い需要に支えられて市場が拡大してきた。2020 年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪日外国人が大きく減少することで苦戦が見込まれるものの、終息後、訪日外国人観光客が戻れば、再び市場は活性化すると予測される。

一方、空港型市中免税店は小売企業サイドの予想ほど実績が上がっていない状況である。百貨店からの誘客や訪日外国人観光客での認知度拡大といった点が課題と考えられる。

注 30 伸長率は 2017 年を基準年とする。

<今後の方向性>

2020 年は訪日外国人数の減少からインバウンド需要も大きく縮小すると見込まれるものの、2021 年に延期された東京オリンピックの開催や、新型コロナウイルス感染症が収束傾向となった場合には訪日外国人が再び増加することでインバウンド需要も拡大に転じると見込まれる。さらに空港型免税店では化粧品伸び率が高いことから、免税店運営サイドも化粧品への注力度を高めており、展開ブランドの増加、品揃えの拡充により、更なる需要の獲得が期待される。しかしながら、2021 年 1 月末時点では、新型コロナウイルス感染症の収束が不透明な状況下にある。

空港型免税店は店舗展開の特性上、訪日外国人数や国際線利用者の動向に市場が左右される。新型コロナウイルス感染症による今後の動向は不透明な部分が多いものの、感染症の収束後は、2021 年の東京オリンピックなどを契機に、訪日外国人が増加することで需要の回復が予測される。

ウ 新技術・サービスの導入状況

(1) デジタル化

化粧品業界では、近年、AI 技術を活用した肌や毛髪の診断・評価や、実店舗やオンラインでも AR でメイクを試すことができるバーチャルメイクアップシミュレーターが導入されている。今後はビューティとテクノロジーを融合させたビューティテックという新しい価値が提供されることが期待され、一人ひとりに適した商品の提供やスキンケアの提案につながる見通しである。

また、2020 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、小売業においては対面販売から非接触販売へ消費者ニーズがシフトする動きを見せている。化粧品業界においても例外ではなく、消費者によるテスター試用や美容部員による対面販売サービスといった販売現場での販促活動は大幅に制限されることとなった。

2020 年 6 月以降、双方向コミュニケーションを生かした顧客接点の拡大を目的に化粧品メーカーがライブコマースによるライブ配信を開始した。化粧品業界では主に SaaS 型による自社 EC サイトからのライブ配信やプラットフォーム型でのライブコマースが採用のトレンドとなっている。

2020 年 4 月から 5G 通信が始まり、2025 年には全国各地で利用できるようになるといわれている。5G の普及により動画ビジネスは進展するとみられる中、今後は SNS にライブコマース機能を装備したサービスが台頭すると予測される。オンラインとオフラインの融合によるオムニチャネルモデルが確立されるとともに、ファンマーケティングと商品開発に貢献する取り組みとしてライブコマースは活用されていくと予想される。

1) AI

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
ポーラ	導入	パーソナライズドスキンケアブランド「アペックス (APEX)」の刷新で、独自の肌分析に AI 技術を導入し、862 万通りから最適なスキンケア製品を販売している。顧客一人ひとりに最適なケアを提案サポートする。(2019 年 8 月)
資生堂	研究開発	資生堂は、AI を活用し、皮膚を超高精細にコンピューター上に再現して解析する『デジタル 3D スキン TM』技術を開発した。これまで平面的にしか観察できなかった皮膚組織を 3D でとらえ、肌のたるみにかかわる重要な細胞の構造を解析。今後、化粧品やスキンケア手法の開発などに生かす。(2020 年 4 月)
コーセー	導入	2020 年 7 月から AI を活用した「毛髪診断システム」を運用している。システムによる診断結果(客観評価)と、顧客が自覚する悩みや理想のヘアスタイルのカウンセリング(主観評価)を掛け合わせ、顧客一人ひとりに合わせたヘアケア商品を提案している。
花王	研究開発	AI 技術の深層学習(ディープラーニング)を用いて、肌の質感を評価・可視化する「肌評価 AI」を開発した。化粧感、化粧くずれの程度、年齢印象などを客観的に評価することがで

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
		きるようになる。今後も AI の改良を進め、評価項目の範囲を広げ、肌実態調査や化粧品の商品評価に活用することで商品開発につなげていく。(2021 年 1 月)

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

2) AR/VR

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
資生堂	導入	2020 年 10 月から 12 月にかけて資生堂はオンラインでメイク体験ができる「バーチャルオンラインカウンセリング」を実施。パーフェクト株式会社の AR メイク技術と、AI および対面型ビデオ通話を組み合わせたオンラインカウンセリングサービスで、自分の顔にリップやチーク、ファンデーション、アイシャドーなどのメイクアップ商品の色味をリアルタイムに確認できる。
資生堂	導入	2020 年 8 月に AR フィルター「TeleBeauty」を発表した。素顔でもメイクをしているように見せられる AR フィルターで、最新メイクが体験できる。Microsoft Teams、ZOOM、Skype、Google Hangouts で利用できる。「TeleBeauty」は無料で利用することができ、会員登録は不要である。但し、商品をワタシプラスで購入するときは会員登録が必要で、購入代金が発生する。
ファンケル	導入	2020 年 9 月、ファンケルは現実の店舗でメイクをバーチャル体験できる「AR メイクアップシミュレーター」を導入した。独自の顔認識技術で各パーツを認識し、メイクアップをシミュレーション体験できる。短時間で何度も化粧品のバリエーションを試せるのが特徴となっており、パーソナルカラー診断やおすすめのメイク提案といった追加機能もある。
ナリス化粧品	導入	2021 年 2 月発売の新ブランド「Vieta/ヴィータ」の販売に先駆け、ウェブ上でメイクアップシミュレーションを可能にする「AR メイク」機能を使ってユーザーがバーチャルで試品するサービスを開始した。

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

3) ライブコマース

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
資生堂ジャパン	導入	三越伊勢丹ホールディングスの化粧品オンラインストア「ミーコ（meeco）」、阪急阪神百貨店「HANKYU BEAUTY ONLINE」においてライブコマースを実施した。（実施期間：2020年7月開始～）
ファンケル	導入	夏の毛穴セットアイテム、ダイエットケアのためのサプリメントなどのライブショッピングを配信した。（実施期間：2020年7月開始～）
ヤーマン	導入	美容機器や美容法の紹介でライブコマースを実施した。（2020年9月開始～）
サンライズジャパン	導入	ONPA JAPAN の「ONPAMALL」でホメオバウ公式オンラインストアの高機能スキンケアシリーズが購入できるよう非定期でライブ販売した。（実施期間：2020年6月開始～）
ユーグレナ	導入	ONPA JAPAN のライブコマースサービス「ONPAMALL」で人気 YouTuber ももちとコラボした特別ライブキャンペーンを実施した。キャンペーンでは「からだにユーグレナ フルーツグリーンオレ」「同 ソイスムージー豆乳フルーツミックス」のほか、「同 グリーンパウダー乳酸菌」「同 グリーンカプセル」といった栄養補助食品を販促した。（実施期間：2020年10月～）
ナチュラリープラス	導入	独自のプラットフォームで配信しており、ビューティー講師を務めるスタッフがスキンケアの特別セットを紹介した。ライブコマースの名称は「ビューティー製品テレショップ」で、会員向けにオンライントレーニングなどを提供する「NP FAN S（ファンズ）TV」で配信している。数量限定のビューティケア製品（メイク落とし・洗顔料、化粧品・美容液、クリーム、日焼け止め、化粧下地、ヘアケアなど）を特別セットで販売した。（実施期間：2019年10月開始～）
モノゲート	導入	化粧品の企画・製造・卸・販売のモノゲートがライブコマースを実施した。エステサロンでも利用されている抑毛ローション、美白系還元ジェル美容液や馬プラセンタを使用したプラセンタドリンクを取り上げた。（実施期間：2020年6月開始～）
ARTUSTUC & CO. GLOBAL	導入	HandsUP でライブコマースを毎週配信している。（実施期間：2020年8月～）

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

(2) テクニカル

2019 年ごろから主要な化粧品メーカーが研究開発もしくは商品化を推し進めているのが「セカンドスキン」である。セカンドスキンとは、クリームのように肌に塗ることができる人工皮膚のことである。主に医療現場で使われてきたとされるが、近年では美容分野での応用としても注目されている。

企業名	技術	主な取り組み
BONOTOX Japan	商品化	2019 年 6 月、独自技術「セカンドスキン」という高分子の美容成分膜（タンパク質膜）を使用した高密着エイジングケアパック「BONOTOX セカンドスキนครリーム」を発売した。
ちふれホールディングス	研究開発	2019 年 11 月、高分子分散型液晶（PDLC）フィルム技術を応用し、セカンドスキンとしてバリア機能を有するスキンケア製品の開発を進めていることを発表した。
花王	商品化	2019 年、パナソニックアプライアンス社と共同で開発したファインファイバーテクノロジーを活用した新製品「バイオミメシス ヴェール」は小型機器を用いて 1 μ m（マイクロメートル）以下の極細繊維を肌に直接吹き付け、積層型の極薄膜を作る。
資生堂	研究開発	2018 年に米国オリボラボラトリーズ保有の技術を応用したセカンドスキンおよび関連事業を買収し、研究開発を進めている。

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

(3) 再生医療

従来の薬事法では医薬品並みの臨床試験が要求され、再生医療等製品の開発は困難だったのが、2014 年の再生医療等安全性確保法と医薬品医療機器等法の施行により国内の実用化推進の法整備が整ったことで商品化が進んだ。

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
ロート製薬	商品化	ロート製薬は売上高の 7 割以上がスキンケア製品で占めており、同社が目薬やスキンケア製品の研究開発で培ってきた「細胞を扱う技術」と「無菌製剤技術」を強みに再生医療分野に注力している。特に「幹細胞」を用いた医薬品分野でのトップを目指し、「脂肪由来間葉系幹細胞」に着目した研究を行い、独自成分の「ステム S コンプレックス」を開発している。また、ステム S コンプレックス配合の幹細胞コスメ「エビステ

		ーム」として化粧水やクリームなどを商品化し、販売している。
第一三共ヘルスケア	商品化	第一三共ヘルスケアはトラネキサム酸の開発メーカーであり、トラネキサム酸に肝斑の改善効果あることを発見し、2007年に医薬品「トランシーノ」を発売した。2010年からは炎症を抑える仕組みを化粧水や乳液に活用しており、「トランシーノ」ブランドで販売する美容液では、しみやそばかすを予防する有効成分「トラネキサム酸」を配合している。このトラネキサム酸は医療用医薬品で使われていた成分で抗炎症の効果・効能をもつとされている。

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

（４）生分解性プラスチック

世界的に SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みが進むなか、石油系プラスチックの代替として生分解性プラスチックを活用した化粧品の容器や原料の開発が行われている。

企業名	導入フェーズ	主な取り組み
資生堂	研究開発	2019年からカネカの「カネカ生分解性ポリマーPHBH」を化粧品容器などへ活用する共同開発を行っている。将来的には、化粧品の容器だけでなく、用具、包装資材、什器などの用途への可能性を検証し、早期実用化を目指している。
ポーラ・オルビス	研究開発	ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業は、2020年3月から植物由来成分の「トチュウエラストマー」を使用した化粧品の容器と原料の共同開発を日立造船と行っている。植物由来成分を化粧品容器と原料へ活用する開発は国内初である。

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

エ 海外への進出

年	進出先			企業名	主な目的 ●：進出、▲：解散・譲渡			
	アジア	欧米ほか	国名		生産	販売	研究	内容
2015 年	●		インド	資生堂		▲		子会社解散
		●	ギリシャ	資生堂		▲		子会社解散
		●	トルコ	資生堂		▲		子会社の株式譲渡
		●	米国	コーセー		●		Kose America 設立
	●		インド	コーセー		●		「スパウエイク」販売
	●		ベトナム	マンダム		●		Mandom Vietnam 設立
	●		インドネシア	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売
	●		フィリピン	ミルボン		●		駐在員事務所設立
	●		ベトナム	ナリス化粧品	●			Naris Cosmetics Vietnam 設立
	●		インドネシア	井田ラボラトリーズ		●		「キャンメイク」販売
	●		タイ	ちふれ化粧品		●		
2016 年	●		中国	資生堂			●	イノベーションセンター上海設立
	●		中国	花王		▲		中国、上海家化聯合との業務提携解消
	●		インドネシア	資生堂		●		プロフェッショナル向け販売会社を設立
	●		シンガポール	資生堂		●		Shiseido Asia Pacific 設立(地域本社)
	●		タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン	カネボウ化粧品		●		グローバルブランド「KANEBO」販売
	●		台湾	ちふれ化粧品		●		台湾トモズの店舗で販売
	●		マレーシア	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売

年	進出先			企業名	主な目的 ●：進出、▲：解散・譲渡			
	アジア	欧米ほか	国名		生産	販売	研究	内容
2016 年	●		香港	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売
	●		中国	ポーラ・オルビス		▲		子会社 H20 PLUS が合併会社 C20 Plus の株式譲渡
		●	ロシア	ポーラ・オルビス		▲		子会社解散
	●		中国	第一三共ヘルスケア		●		
		●	ロシア	シーボン		●		
	●		スリランカ	ロート製薬		●		現地法人設立
2017 年	●		シンガポール	資生堂			●	東南アジア研究開発拠点移転
		●	ドイツ	カネボウ化粧品		●		グローバルブランド「KANEBO」販売
		●	ロシア	カネボウ化粧品		●		グローバルブランド「KANEBO」販売
		●	ブラジル	コーセー		●		販売拠点を設立
	●		ネパール	コーセー		●		
	●		中国	コーセー	▲			日本コルマーに生産拠点譲渡
		●	フランス	コーセー			●	研究所のフランス分室を設立
	●		韓国	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売
	●		シンガポール	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売
	●		中国	オッペン化粧品		●		越境 EC に参入
	●		モンゴル	オッペン化粧品		●		訪問販売開始
	●		タイ	三共ヘルスケア		●		「ミノンアミノモイスト」販売
	●		台湾	三共ヘルスケア		●		「ミノンアミノモイスト」販売

年	進出先			企業名	主な目的 ●：進出、▲：解散・譲渡			内容
	ア ジ ア	欧 米 ほ か	国名		生 産	販 売	研 究	
2017 年	●		シンガポール	三共ヘルスケア		●		「ミノンアミノモイスト」販売
	●		韓国	エキップ		●		「スック」を初出店
	●		中国	シーボン		●		倩朋（上海）化粧品有限公司を設立
2018 年	●		オーストラリア	ポーラ・オルビス	●			傘下のジュリーックがオーストラリア新工場設立
	●		フィリピン	資生堂		●		Shiseido Philippines Corporation 設立
	●		シンガポール	カネボウ化粧品		●		「フリープラス」販売
	●		シンガポール	ミルボン		●		駐在員事務所設立
2019 年	●		中国	ポーラ・オルビス		●		アクロ「THREE」販売
	●		インドネシア	花王	●			工場設立
	●		ミャンマー	カネボウ化粧品		●		「フリープラス」販売
2020 年		●	フランス	エキップ		●		「スック」を初出店
	●		中国	ヤクルト本社		●		中国 EC「天猫国際（Tmall Global）」で化粧品販売開始
	●		ベトナム	新日本製薬		●		「パーフェクトワン」販売
	●		スリランカ	資生堂		●		代理店 LUXASIA を通じて販売開始
	●		中国	資生堂			●	（上海）Beauty Innovation Hub 設立
		●	イギリス	バルクオム		●		オンラインストア販売開始
		●	フランス	バルクオム		●		オンラインストア販売開始
	●		韓国	大塚製薬		●		「インナーシグナル」販売開始

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

上表は、化粧品メーカーにおける直近 5～6 年間の海外進出をまとめたものである。

海外進出では、欧米よりもアジアへの進出が多く、販売を目的とするケースが大半である。現地での事業展

開は、販売会社（駐在員事務所）を設立したり、代理店を通じて販売を開始するほか、出店やブランドの販売開始などが挙げられる。

国別でみると、中国及びシンガポールへの進出がそれぞれ7件で最多という結果が出ている。中国へは主に販売目的で進出しており、会社を設立したり、中国 EC で化粧品を販売するといった動きがみられるほか、資生堂は上海にイノベーションセンターを設立している。また同様に、シンガポールも販売目的で進出する傾向がみられるが、資生堂に至っては地域本社や東南アジア研究開発拠点としての機能を構築している。アジアへの展開は中国やシンガポールに集中するのではなく、インドネシア、ベトナム、タイ、フィリピン、韓国、マレーシア、ミャンマー、スリランカなどに分布する傾向がみられる。

海外事業については、製品のライフサイクルに適応した事業戦略を展開することが一般である。まず、「導入期」では現地に事務所を設立するほか、代理店を経由して販売を行うなど事業の立ち上げから始まる。事業が本格化する「成長期」では、販売子会社や生産拠点を設立して事業展開する。生産拠点を目的とする場合、現地の販売だけでなく、周辺国へ輸出する狙いもある。さらに、「拡大期」では現地のニーズに応じた製品開発を進めるため、R&D 拠点の設立や生産増強を行うようになり、現地向けの販売が主流となる。そして、「成熟期」においては、アジア、欧州、米州などグローバルな観点から統括拠点を設置し、周辺国への事業展開や商品開発などを行う。

このような事業フェーズを踏まえると、シンガポールは成熟期、中国は拡大期に分類され、東南アジア諸国においては導入期もしくは成長期の段階にあるといえる。

オ 微生物を用いた原材料の利用状況

化粧品原材料の開発では、酵素によって基質となる素材を変換し、化粧品素材を作り出す方法がある。基質変換では酵素を利用して変換したものや、微生物発酵による酵素の利用が広く採用されている。

日本化粧品工業連合会のホームページには化粧品の成分表示名称リストがあり、14,813 品目中 505 品目が「発酵」に関連する（2021 年 1 月時点）。これは、2014 年時点の検索結果の 299 品目を大きく上回っており、微生物の酵素を利用した発酵技術が化粧品分野で利用されていることがわかる。

No.	成分名称	定義
1	アウレオバシジウムプルランス／オリーブ葉エキス発酵液	本品は、オリーブ葉エキス（*）を基質として、真菌の一種 <i>Aureobasidium pullulans</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
2	アウレオバシジウムプルランス／コメヌカ発酵物	本品は、真菌の一種 <i>Aureobasidium pullulans</i> によりコメヌカ（*）を発酵して得られるものである。
3	アシドフィルス／ブドウ発酵物	本品は、ブドウを乳酸菌の一種 <i>Acidophilus</i> によって発酵させて得られるものである。
4	アスペルギルス／アスピドスペルマケブラコ発酵物	本品は、 <i>Aspidosperma quebracho</i> を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるものである。
5	アスペルギルス／アマランツスヒポコンドリアクス種子発酵液	本品は、 <i>Amaranthus hypochondriacus</i> の種子を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
6	アスペルギルス／（アラビアコーヒーノキ種子／コメ）発酵液	本品は、アラビアコーヒーノキ <i>Coffea arabica</i> の種子及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
7	アスペルギルス／（エタノール／コメ）発酵粕	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）及びエタノール（*）を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる粕である。
8	（アスペルギルス／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌）／コメヌカ発酵液	本品は、コメヌカを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、細菌の一種 <i>Enterococcus faecium</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
9	アスペルギルス／加水分解ウメ種子発酵エキス	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の種子の加水分解物を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
10	アスペルギルス／（カワラケツメイ葉／茎／コメ）発酵液	本品は、カワラケツメイ <i>Chamaecrista nomame</i> の葉、茎及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
11	アスペルギルス／（カワラヨモギ／ヤグルマギク）花／葉／茎／（ヤ	本品は、カワラヨモギ <i>Artemisia capillaris</i> 及びヤグルマギク <i>Cyanus segetum</i> （〔 <i>Centaurea cyanus</i> 〕）の花、葉及び茎、

No.	成分名称	定義
	マヨモギ／メリッサ／タチジャコウソウ) 葉／茎) 発酵液	ヤマヨモギ <i>Artemisia montana</i> 、コウスイハッカ <i>Melissa officinalis</i> 及びタチジャコウソウ <i>Thymus vulgaris</i> の葉及び茎を基質として、真菌の一種 <i>Aspergillus oryzae</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
12	アスペルギルス／(キビ種子／イネ種皮) 発酵液	本品は、キビ <i>Panicum miliaceum</i> の種子とイネ <i>Oryza sativa</i> の種皮を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
13	アスペルギルス／クリ渋皮発酵エキス	本品は、クリ <i>Castanea crenata</i> の渋皮をコウジ菌 <i>Aspergillus</i> で発酵したもののエキスである。
14	アスペルギルス／(クルミ種子／モモ種子／アンズ種子／ウメ種子) 発酵液	本品は、クルミの種子、モモの種子、アンズの種子及びウメの種子を真菌の一種 <i>Aspergillus</i> で発酵した物をろ過して得られる液である。
15	アスペルギルス／(グルコース／ダイズ／デンプン) 発酵液	本品は、グルコース、ダイズ及びデンプンを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
16	アスペルギルス／(コメ／ウールエキス) 発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ) 及びウールのエキスを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
17	アスペルギルス／(コメ／豆乳) 発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ) 及び豆乳(*) を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
18	アスペルギルス／コメ胚芽発酵エキス液	本品は、コメの胚芽を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
19	アスペルギルス／コメ発酵液	本品は、コメを基質として真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
20	アスペルギルス／コメ発酵エキス	本品は、糸状菌の一種 <i>Aspergillus</i> により、コメを発酵したもののエキスである。
21	アスペルギルス／コメ発酵物	本品は、コメを基質として真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるものである。
22	アスペルギルス／(コラーゲン／コメ) 発酵液	本品は、コラーゲン及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ) を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
23	(アスペルギルス／サッカロミセス)／(ウメ果実／コメ) 発酵粕エキス	本品は、ウメ果実(*) 及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ) を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる粕のエキスである。

No.	成分名称	定義
24	(アスペルギルス／サッカロミセス)／キクニガナ根発酵粕エキス	本品は、キクニガナ <i>Cichorium intybus</i> の根を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られた粕のエキスである。
25	(アスペルギルス／サッカロミセス)／コメ発酵液	本品は、コメを基質として真菌 <i>Aspergillus</i> と酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
26	(アスペルギルス／サッカロミセス)／コメ発酵エキス液	本品は、真菌の一種 <i>Aspergillus</i> と酵母の一種 <i>Saccharomyces</i> により、コメを発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
27	(アスペルギルス／サッカロミセス)／コメ発酵粕	本品は、コメ <i>Oryza sativa</i> を基質として真菌 <i>Aspergillus</i> と酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる粕である。
28	(アスペルギルス／サッカロミセス)／サツマイモ根発酵液	本品は、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> と酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
29	(アスペルギルス／サッカロミセス)／サツマイモ根発酵粕	本品は、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる粕である。
30	(アスペルギルス／サッカロミセス)／サツマイモ根発酵粕エキス	本品は、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られた粕のエキスである。
31	(アスペルギルス／サッカロミセスセレビスシアエ)／サツマイモ根発酵液	本品は、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> と酵母の一種 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
32	(アスペルギルス／サッカロミセス／テトラゲノコッカス)／コメ発酵液	本品は、コメを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び乳酸菌 <i>Tetragenococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
33	(アスペルギルス／サッカロミセス)／(リンゴ果実／メロン果実／バナナ果実／ブドウ／スクロース)発酵液	本品は、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、メロン <i>Cucumis melo</i> の果実、バナナ <i>Musa paradisiaca</i> の果実、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の果実及びスクロースを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
34	アスペルギルス／(シライチアグロスベノリ果実／トチュウ葉／ハトムギ種子)発酵液	本品は、 <i>Siraitia grosvenorii</i> の果実、トチュウ <i>Eucommia ulmoides</i> の葉及びハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
35	アスペルギルス／(ゼラチン／コ	本品は、ゼラチン(＊)及びコメを基質として、真菌

No.	成分名称	定義
	メ) 発酵液	<i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
36	アスペルギルス／ソバ発酵エキス	本品は、ソバ <i>Polygonum fagopyrum</i> を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により得られる発酵物のエキスである。 [<i>Fagopyrum esculentum</i>]
37	アスペルギルス／ソメイヨシノ花 発酵エキス	本品は、ソメイヨシノ <i>Prunus yedoensis</i> の花を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
38	アスペルギルス／ソメイヨシノ葉 発酵エキス	本品は、ソメイヨシノ <i>Prunus yedoensis</i> の葉を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
39	アスペルギルス／(ダイズ／コムギ 胚芽／チャ葉／ジュズダマ種子／ コメ胚芽／ゴマ種子) 発酵物	本品は、ダイズ、コムギ胚芽(※)、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉、ジュズダマ種子(※)、コメ胚芽及びゴマ種子(※)を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により、発酵して得られるものである。
40	アスペルギルス／ダイズ種子エキ ス発酵エキス液	本品は、ダイズ種子エキス(※)を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
41	アスペルギルス／ダイズ芽発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> の芽を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
42	アスペルギルス／ダイズ芽発酵エ キス	本品は、ダイズ <i>Glycine soja</i> の芽を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
43	アスペルギルス／ダイズ芽発酵物	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> の芽を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるものである。
44	アスペルギルス／(脱脂コメヌカ／ エタノール／ボルネオール) 発酵液	本品は、脱脂コメヌカ(※)、エタノール(※)及びボルネオール(※)を真菌の一種 <i>Aspergillus</i> で発酵した物をろ過して得られる液である。
45	アスペルギルス／脱脂ダイズ種子 発酵エキス	本品は、脱脂したダイズ <i>Glycine max</i> の種子を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスである。
46	アスペルギルス／脱脂ダイズ種子 発酵エキス液	本品は、脱脂したダイズ種子(※)を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
47	アスペルギルス／チャ葉エキス発 酵液	本品は、チャ葉エキス(※)を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
48	アスペルギルス／チャ葉発酵エキ ス	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスで

No.	成分名称	定義
		ある。
49	アスペルギルス／チャ葉発酵エキ ス液	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉を基質として、真 菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ 過して得られる液である。
50	アスペルギルス／チャ葉発酵物	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉を基質として、真 菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるものである。
51	アスペルギルス／ツバキ種子発酵 エキス液	本品は、ツバキ <i>Camellia japonica</i> の種子を基質として、真 菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ 過して得られる液である。
52	アスペルギルス／ナシ葉発酵エキ ス	本品は、ナシ <i>Pyrus pyrifolia</i> の葉を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスであ る。
53	(アスペルギルス／乳酸桿菌)／ (アフアニゾメノンフロサクエ エキス／コメエキス) 発酵液	本品は、アフアニゾメノンフロサクエエキス (*) とイネ <i>Oryza sativa</i> の種子 (コメ) のエキスを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した 後、ろ過して得られる液である。
54	(アスペルギルス／乳酸桿菌)／コ メエキス発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子 (コメ) のエキスを基質 として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> に より発酵した後、ろ過して得られる液である。
55	(アスペルギルス／乳酸桿菌)／コ メ発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子 (コメ) を基質として、 真菌 <i>Aspergillus</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵 した後、ろ過して得られる液である。
56	(アスペルギルス／乳酸桿菌／サ ッカロミセス)／(ダイズ／オオマ ツヨイグサ／ダイコン／ブロッコ リー／カリフラワー／イネ／オオ ムギ／ジュズダマ／セイヨウノコ ギリソウ／ゴマ／セージ／タチジ ャコウソウ／セイヨウオトギリソ ウ／アカツメクサ／アルファルフ ァ／コロハ) 芽発酵液エキス	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> の芽、オオマツヨイグサ <i>Oenothera biennis</i> の芽、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の芽、 ブロッコリー <i>Brassica oleracea italica</i> の芽、カリフラ ワー <i>Brassica oleracea botrytis</i> の芽、イネ <i>Oryza sativa</i> の芽、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の芽、ジュズダマ <i>Coix</i> <i>lacryma-jobi</i> の芽、セイヨウノコギリソウ <i>Achillea</i> <i>millefolium</i> の芽、ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の芽、セージ <i>Salvia officinalis</i> の芽、タチジャコウソウ <i>Thymus</i> <i>vulgaris</i> の芽、セイヨウオトギリソウ <i>Hypericum</i> <i>perforatum</i> の芽、アカツメクサ <i>Trifolium pratense</i> の芽、 ムラサキウマゴヤシ <i>Medicago sativa</i> の芽及びコロハ <i>Trigonella foenum-graecum</i> の芽を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる発酵液

No.	成分名称	定義
		のエキスである。
57	(アスペルギルス／乳酸桿菌)／チャ葉発酵エキス	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
58	(アスペルギルス／乳酸桿菌)／チャ葉発酵エキス液	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
59	(アスペルギルス／乳酸桿菌／レウコノストック／ペディオコッカス／サッカロミセス／ジゴサッカロミセス)／(オオムギ種子／ダイズ種子／コメ／アズキ種子／ナタマメ種子／ハトムギ種子／ヒエ種子／アワ種子／キビ種子／アメリカブドウ果実／リンゴ果実／ウンシュウミカン果実／ヤマブドウ果実／バナナ果実／モモ果実／ウメ果実／ナシ果実／イチジク果実／スイカ果実／セイヨウカボチャ果実／カキ果実／パパイア果実／アンズ果実／ニンボーキンカン果実／カリン果実／ヨーロッパキイチゴ果実／クリ果実／ビワ果実／クコ果実／ナツメ果実／ユズ果実／モモルジカグロスベノリ果実／オタネニンジン果実／キャベツ(葉／茎)／シソ葉／ヤマグワ葉／ドクダミ／ヨモギ／ヤブカンゾウ花／サツマイモ根／クワイモ塊茎／ニンジン根／ダイコン根／ハス根茎／タマネギ根／カブ根／ゴボウ根／ヤマユリ根／サトイモ塊茎／ヤマノイモ根茎／クワイ塊茎／カンゾウ根／アカバギンナンソウ葉／マコンブ葉／ワカメ葉／モズク／オニグルミ種子／イチョウ種子／マ	本品は、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の種子、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ)、アズキ <i>Phaseolus angularis</i> の種子、ナタマメ <i>Canavalia gladiata</i> の種子、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子、ヒエ <i>Echinochloa utilis</i> の種子、アワ <i>Setaria italica</i> の種子、キビ <i>Panicum miliacelimum</i> の種子、オニグルミ <i>Juglans sieboldiana</i> の種子、イチョウ <i>Ginkgo biloba</i> の種子、ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の種子、アメリカブドウ <i>Vitis labrusca</i> の果実、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> の果実、ヤマブドウ <i>Vitis coignetiae</i> の果実、バナナ <i>Musa sapientum</i> の果実、モモ <i>Prunus persica</i> の果実、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実、ナシ <i>Pyrus pyrifolia</i> の果実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、スイカ <i>Citrullus vulgaris</i> の果実、セイヨウカボチャ <i>Cucurbita maxima</i> の果実、カキ <i>Diospyros kaki</i> の果実、パパイア <i>Carica papaya</i> の果実、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の果実、ニンボーキンカン <i>Fortunella crassifolia</i> の果実、カリン <i>Chaenomeles sinensis</i> の果実、ヨーロッパキイチゴ <i>Rubus idaeus</i> の果実、クリ <i>Castanea crenata</i> の果実、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の果実、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実、ナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実、ユズ <i>Citrus junos</i> の果実、 <i>Momordica grosvenorii</i> の果実、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の果実、マタタビ <i>Actinidia polygama</i> の果実、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根、ニンジン <i>Daucus carota sativa</i> の根、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の根、カブ <i>Brassica rapa</i> の根、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> の根、クワイモ <i>Helianthus tuberosus</i> の塊茎、サトイモ <i>Colocasia esculenta</i> の塊茎、クワイ <i>Sagittaria trifolia edulis</i> の塊茎、タマネギ <i>Allium</i>

No.	成分名称	定義
	タタビ果実／ゴマ種子／ヤマブシ タケ子実体／マイタケ子実体／シ イタケ子実体) 発酵エキス	<i>cepa</i> の鱗茎、ヤマユリ <i>Lilium auratum</i> の球根、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の根茎、ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> の根茎、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> の葉及び茎、 シソ <i>Perilla ocymoides</i> の葉、ヤマグワ <i>Morus bombycis</i> の 葉、アカバギンナンソウ <i>Rhodoglossum pulcherum</i> の葉、マ コンブ <i>Laminaria japonica</i> の葉、ワカメ <i>Undaria</i> <i>pinnatifida</i> の葉、ヤブカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> <i>kwanso</i> の花、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の全草、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の全草、モズク <i>Nemacystus decipiens</i> の全草、ヤマブシタケ <i>Hericium erinaceum</i> の子実体、マイ タケ <i>Grifola frondosa</i> の子実体及びシイタケ <i>Lentinus</i> <i>edodes</i> の子実体を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> 、乳酸菌 <i>Pediococcus</i> 、 酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び酵母 <i>Zygosaccharomyces</i> により発酵 して得られる発酵物のエキスである。
60	アスペルギルス／（ニンニク根／コ メヌカ／コメ酢）発酵物	本品は、ニンニク <i>Allium sativum</i> の鱗茎、コメヌカ及びコ メ酢を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得ら れるものである。
61	（アスペルギルス／バチルス／乳 酸桿菌／乳酸球菌／サッカロミセ ス）／（パパイヤ果実／オキナワモ ズク／マコンブ／コメヌカ／コメ） 発酵エキス液	本品は、パパイヤ <i>Carcia papaya</i> の果実、褐藻類の一種であ るオキナワモズク <i>Cladosiphon okamuranus</i> 及びマコンブ <i>Laminaria japonica</i> 、コメヌカ及びコメを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、乳 酸球菌 <i>Lactococcus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵し たもののエキスをろ過して得られる液である。
62	アスペルギルス／ヒポファエラム ノイデス種子発酵液	本品は、 <i>Hippophae rhamnoides</i> の種子を基質として、真菌の 一種 <i>Aspergillus oryzae</i> により発酵した後、ろ過して得ら れる液である
63	（アスペルギルス／ビフィドバク テリウム／乳酸桿菌／サッカロミ セス／ストレプトコッカス）／（ア カメガシワ／ウンカリアトメント サ）樹皮／（メグスリノキ枝／幹） ／（ニンニク／タマネギ）根／（カ ミツレ／ベニバナ）花／（（アンドロ グラフィスパニクラタ／ツルナ）花 ／葉／茎）／（マタタビ／パイナッ	本品は、アカメガシワ <i>Mallotus japonicus</i> 及び <i>Uncaria</i> <i>tomentosa</i> の樹皮、メグスリノキ <i>Acer Nikoense</i> の枝及び 幹、ニンニク <i>Allium sativum</i> 及びタマネギ <i>Allium cepa</i> の 鱗茎、ベニバナ <i>Carthamus tinctorius</i> 及びカミツレ <i>Chamomilla recutita</i> の花、 <i>Andrographis paniculata</i> 及びツ ルナ <i>Tetragonia tetragonoides</i> の花、葉及び茎、マタタビ <i>Actinidia polygama</i> 、パイナップル <i>Ananas comosus</i> 、トウガ ラシ <i>Capsicum annum</i> 、カリン <i>Chaenomeles sinensis</i> 、レモ ン <i>Citrus limon</i> 、グレープフルーツ <i>Citrus paradisi</i> 、ウン

No.	成分名称	定義
	プル／リンゴ／アンズ／トウガラシ／カリン／ウンシュウミカン／アンマロク／イチジク／キンカン／ブドウ／グレープフルーツ／レモン／クコ／メロン／モモルジカ／グロスベノリ／ウメ／ナツメ）果実／（ヒメマツタケ／レイシ／シイタケ）子実体／（キダチアロエ／アスパラサスリネアリス／キャベツ／カキ／ビワ／トチュウ／イチジク／イチヨウ／ドクダミ／クコ／マダマ／パセリ／モモ／エゴマ／クマザサ）葉／（アカマツ葉／種子）／（スイカズラ葉／茎）／タマネギ皮／ウコン根茎／（ゴボウ／ニンジン／セイヨウタンポポ／エゾウコギ／エウリコマロンギホリア／レピジウムメイエニ／ウラルカンゾウ／オタネニンジン／サンシチニンジン／キキョウ／サラシアレチクラタ）根／（オタネニンジン／ショウガ／アマドコロ）根／茎）／（エビスグサ／ジュズダマ）種子／（ツユクサ／タイワンツナソ）芽／ニワトコ茎／マフノリ／マコンブ／ヨモギ／エビスグサ／スギナ／カキドオシ／アマチャヅル／オトギリソウ／ヒキオコシ／ナンテン／オオバコ／リョクトウ）エキス発酵液	シュウミカン <i>Citrus unshiu</i>、メロン <i>Cucumis melo</i>、アンマロク <i>Embllica officinalis</i>、イチジク <i>Ficus carica</i>、キンカン <i>Fortunella margarita</i>、クコ <i>Lycium barbarum</i>、<i>Momordica grosvenorii</i>、アンズ <i>Prunus armeniaca</i>、ウメ <i>Prunus mume</i>、リンゴ <i>Pyrus malus</i>、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> 及びナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実、ヒメマツタケ <i>Agaricus blazeii</i>、マンネンタケ <i>Ganoderma lucidum</i> 及びシイタケ <i>Lentinus edodes</i> の子実体、キダチアロエ <i>Aloe arborescens</i>、<i>Aspalathus linearis</i>、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i>、パセリ <i>Petroselinum crispum</i>、カキ <i>Diospyros kaki</i>、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i>、トチュウ <i>Eucommia ulmoides</i>、イチジク <i>Ficus carica</i>、イチヨウ <i>Ginkgo biloba</i>、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i>、クコ <i>Lycium chinense</i>、マダマ <i>Morus alba</i>、エゴマ <i>Perilla frutescens</i>、モモ <i>Prunus persica</i> 及びクマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、アカマツ <i>Pinus densiflora</i> の葉及び種子、スイカズラ <i>Lonicera japonica</i> の葉及び茎、タマネギ <i>Allium cepa</i> の皮、ウコン <i>Curcuma longa</i> の根茎、エゾウコギ <i>Acanthopanax senticosus</i>、ゴボウ <i>Arctium lappa</i>、ニンジン <i>Daucus carota sativa</i>、<i>Eurycoma longifolia</i>、ウラルカンゾウ <i>Glycyrrhiza uralensis</i>、<i>Lepidium meyenii</i>、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i>、サンシチニンジン <i>Panax notoginseng</i>、キキョウ <i>Platycodon grandiflorum</i>、<i>Salacia reticulata</i> 及びセイヨウタンポポ <i>Taraxacum officinale</i> の根、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i>、アマドコロ <i>Polygonatum officinale</i> 及びショウガ <i>Zingiber officinale</i> の根及び茎、エビスグサ <i>Cassia obtusifolia</i> 及びジュズダマ <i>Coix lacryma-jobi</i> の種子、ツユクサ <i>Commelina communis</i> 及びタイワンツナソ <i>Corchorus olitorius</i> の芽、ニワトコ <i>Sambucus sieboldiana</i> の茎、紅藻類マフノリ <i>Gloiopeltis tenax</i>、褐藻類マコンブ <i>Laminaria japonica</i>、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i>、エビスグサ <i>Cassia obtusifolia</i>、スギナ <i>Equisetum arvense</i>、カキドオシ <i>Glechoma hederacea</i>、アマチャヅル <i>Gynostemma pentaphyllum</i>、オトギリソウ <i>Hypericum erectum</i>、ヒキオコシ <i>Isodon japonicus</i>、ナンテン <i>Nandina domestica</i>、オオバコ <i>Plantago asiatica</i> 及びリョクトウ <i>Vigna radiata</i> の全

No.	成分名称	定義
		草の混合物のエキスを基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> 、ビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び乳酸菌 <i>Streptococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
64	アスペルギルス／ブクリョウタケ菌核発酵エキス	本品は、ブクリョウタケ <i>Poria cocos</i> の菌核を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
65	アスペルギルス／（ボタン樹皮／スイカズラ花／レンギョウ果実／タイツリオウギ根／トウリンドウ根／カンゾウ根／ジオウ根／ショウヨウダイオウ根／ゴマノハグサ根／トウゴマ種子／コメ）発酵エキス	本品は、ボタン <i>Paeonia suffruticosa</i> の樹皮、スイカズラ <i>Lonicera japonica</i> の花、レンギョウ <i>Forsythia suspensa</i> の果実、タイツリオウギ <i>Astragalus membranaceus</i> の根、トウリンドウ <i>Gentiana scabra</i> の根、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> の根、ジオウ <i>Rehmannia glutinosa</i> の根、ショウヨウダイオウ <i>Rheum Palmatum</i> の根、ゴマノハグサ <i>Scrophularia buergeriana</i> の根、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子及びトウゴマ <i>Ricinus communis</i> の種子を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
66	アスペルギルス／マンダリンオレンジ果皮発酵エキス液	本品は、マンダリンオレンジ <i>Citrus reticulata</i> の果皮を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
67	アスペルギルス／（リナカンツナスツス葉／コメ）発酵液	本品は、 <i>Rhinacanthus nasutus</i> の葉とイネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
68	アスペルギルス／（レンゲソウ種子／コメ）発酵液	本品は、レンゲソウ <i>Astragalus sinicus</i> の種子及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
69	（アセトバクター／アスペルギルス／乳酸桿菌／レウコノストック／ペディオコッカス／サッカロミセス／ジゴサッカロミセス）／（ウンシュウミカン果実／マルキンカン果実／ユズ果実／リンゴ果実／バナナ果実／パパイア果実／ナシ果実／カキ果実／スイカ果実／モモ果実／ウメ果実／イチジク果実／カリン果実／ビワ果実／アンズ	本品は、ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> の果実、マルキンカン <i>Citrus japonica</i> の果実、ユズ <i>Citrus junos</i> の果実、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、バナナ <i>Musa sapientum</i> の果実、パパイア <i>Carica papaya</i> の果実、ナシ <i>Pyrus serica</i> の果実、カキ <i>Diospyros kaki</i> の果実、スイカ <i>Citrullus vulgaris</i> の果実、モモ <i>Prunus persica</i> の果実、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、カリン <i>Chaenomeles sinensis</i> の果実、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の果実、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の果実、ナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実、セイヨウカボチャ <i>Cucurbita maxima</i> の果実、クリ <i>Castanea</i>

No.	成分名称	定義
	果実／ナツメ果実／セイヨウカボ チャ果実／クリ果実／ヤマブドウ 果実／ヨーロッパキイチゴ果実／ モモルジカグロスベノリ果実／ク コ果実／ダイズ種子／アズキ種子 ／タチナタマメ種子／コメ／オオ ムギ種子／ハトムギ種子／イヌビ エ種子／アワ種子／キビ種子／ホ ンカンゾウ花／キャベツ葉／茎／ ヤマグワ葉／エゴマ葉／サツマイ モ根／サトイモ塊茎／ナガイモ根 茎／ギンナンソウ／マコンブ／モ ズク／ワカメ／ダイコン根／カブ 根／ニンジン根／ゴボウ根／ハス 根茎／タマネギ根／ヤマユリ鱗茎 ／カンゾウ根／オモダカ根／ゴマ 種子／イチョウ種子／ヒメグルミ 果実／オタネニンジン種子／マタ タビ果実／ヤマブシタケ子実体／ マイタケ子実体／スモモ果実／ア ケビ果実／サンザシ果実／サンシ ュユ果実／リュウガン果実／ドク ダミ／ヨモギ／クマザサ葉／カキ ドオシ／カミツレ花／スギナ／エ ビスグサ種子／セイヨウタンポポ ／ヒキオコシ／ベニバナ花／オオ バコ／スマランサスソチホリウ ス根／ニンニク根／ショウガ根茎 ／ビート根茎／ポリゴナムオドラ タム根茎／ウコン根茎／ウコギ根 ／チョウセンゴヨウ種子／シイタ ケ子実体／キクラゲ／アメリカブ ドウ果実／キクイモ塊茎）発酵エキ ス	<i>crenata</i> の果実、ヤマブドウ <i>Vitis coignetiae</i> の果実、ヨ ーロッパキイチゴ <i>Rubus idaeus</i> の果実、 <i>Momordica</i> <i>grossenorii</i> の果実、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実、マタタ ビ <i>Actinidia Polygama</i> の果実、ヒメグルミ <i>Juglans</i> <i>subcordiformis</i> の果実、スモモ <i>Prunus salicina</i> の果実、 アケビ <i>Akebia quinata</i> の果実、サンザシ <i>Crataegus cuneata</i> の果実、サンシュユ <i>Cornus officinalis</i> の果実、リュウガ ン <i>Nephelium longana</i> の果実、アメリカブドウ <i>Vitis</i> <i>Labrusca</i> の果実、ホンカンゾウ <i>Hemerocallis Fulva</i> の花、 カミツレ <i>Chamomilla recutita</i> の花、ベニバナ <i>Carthamus</i> <i>tinctorius</i> の花、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子、アズキ <i>Phaseolus angularis</i> の種子、タチナタマメ <i>Canavalia</i> <i>ensiformis</i> の種子、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の種子、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-</i> <i>yuen</i> の種子、イヌビエ <i>Echinochloa crus-galli</i> の種子、ア ワ <i>Setaria italica</i> の種子、キビ <i>Panicum miliacelim</i> の種 子、ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の種子、イチョウ <i>Ginkgo biloba</i> の種子、オタネニンジン <i>Panax Ginseng</i> の種子、エビスグサ <i>Cassia obtusifolia</i> の種子、チョウセンゴヨウ <i>Pinus</i> <i>koraensis</i> の種子、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根、ダ イコン <i>Raphanus Sativus</i> の根、カブ <i>Brassica rapa</i> の根、 ニンジン <i>Daucus carota sativa</i> の根、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> の根、オモダカ <i>Sagittaria Trifolia</i> の根、 <i>Smallanthus sonchifolius</i> の 根、ウコギ <i>Acanthopanax sieboldianus</i> の根、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> の葉及び茎、ヤマグワ <i>Morus</i> <i>bombycis</i> の葉、エゴマ <i>Perilla frutescens</i> の葉、クマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、ヤマユリ <i>Lilium auratum</i> の鱗茎、ニン ニク <i>Allium sativum</i> の鱗茎、タマネギ <i>Allium cepa</i> の鱗 茎、ヤブシタケ <i>Hydnum erinaceum</i> の子実体、マイタケ <i>Grifola frondosa</i> の子実体、シイタケ <i>Lentinus edodes</i> の 子実体、キクラゲ <i>Auricularia auricula-judae</i> 、ナガイモ <i>Dioscorea batatas</i> の根茎、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の根茎、 ショウガ <i>Zingiber officinale</i> の根茎、ビート <i>Beta vulgaris</i> の根茎、 <i>Polygonum odoratum</i> の根茎、ウコン <i>Curcuma longa</i> の根茎、サトイモ <i>Colocasia antiquorum</i> の塊茎、キクイモ

No.	成分名称	定義
		<i>Helianthus tuberosus</i> の塊茎、紅藻類の一種ギンナンソウ <i>Iridea Laminarioides</i>、褐藻類の一種マコンブ <i>Laminaria japonica</i>、褐藻類の一種モズク <i>Nemacystus decipiens</i>、褐藻類の一種ワカメ <i>Undaria pinnatifida</i>、スギナ <i>Equisetum Arvense</i> の全草、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の全草、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の全草、カキドオシ <i>Glechoma hederacea</i> の全草、セイヨウタンポポ <i>Taraxacum officinale</i> の全草、ヒキオコシ <i>Isodon japonicus</i> の全草、オオバコ <i>Plantago asiatica</i> の全草を基質として、酢酸菌 <i>Acetobacter</i>、真菌 <i>Aspergillus</i>、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i>、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i>、乳酸菌 <i>Pediococcus</i>、酵母 <i>Saccharomyces</i>、酵母 <i>Zygosaccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである
70	(アセトバクター／アスペルギルス／乳酸桿菌／レウコノストック／ペディオコッカス／サッカロミセス／ジゴサッカロミセス)／(オオムギ種子／ダイズ種子／コメ／ナタマメ種子／アズキ種子／ハトムギ種子／ヒエ種子／アワ種子／キビ種子／ウンシュウミカン果実／アメリカブドウ果実／リンゴ果実／ヤマブドウ果実／バナナ果実／モモ果実／カキ果実／パパイア果実／ナシ果実／スイカ果実／ウメ果実／イチジク果実／カリン果実／セイヨウカボチャ果実／ヨーロッパキイチゴ果実／ニンボーキンカン果実／ユズ果実／ビワ果実／アンズ果実／ナツメ果実／クリ果実／クコ果実／マタタビ果実／スモモ果実／アケビ果実／モモルジカグロスベノリ果実／サンザシ果実／サンシュユ果実／リュウガン果実／オタネニンジン果実／サツマイモ根／キクイモ塊茎／ニン	本品は、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の種子、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子、ナタマメ <i>Canavalia gladiata</i> の種子、アズキ <i>Phaseolus angularis</i> の種子、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子、ヒエ <i>Echinochloa utilis</i> の種子、アワ <i>Setaria italica</i> の種子、キビ <i>Panicum miliaceum</i> の種子、ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の種子、オニグルミ <i>Juglans sieboldiana</i> の種子、イチョウ <i>Ginkgo biloba</i> の種子、チョウセンゴヨウ <i>Pinus Koraiensis</i> の種子、エビスグサ <i>Cassia Obtusifolia</i> の種子、ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> の果実、アメリカブドウ <i>Vitis labrusca</i> の果実、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、ヤマブドウ <i>Vitis coignetiae</i> の果実、バナナ <i>Musa paradisiaca</i> の果実、モモ <i>Prunus persica</i> の果実、カキ <i>Diospyros kaki</i> の果実、パパイア <i>Carica papaya</i> の果実、ナシ <i>Pyrus pyrifolia</i> の果実、スイカ <i>Citrullus vulgaris</i> の果実、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、カリン <i>Chaenomeles sinensis</i> の果実、セイヨウカボチャ <i>Cucurbita maxima</i> の果実、ヨーロッパキイチゴ <i>Rubus idaeus</i> の果実、ニンボーキンカン <i>Fortunella crassifolia</i> の果実、ユズ <i>Citrus junos</i> の果実、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の果実、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の果実、ナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実、クリ <i>Castanea crenata</i> の果実、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実、マタタビ <i>Actinidia</i>

No.	成分名称	定義
	ジン根／タマネギ根／ビート根／サトイモ塊茎／ヤマノイモ根茎／ダイコン根／カブ根／ゴボウ根／ハス根茎／ポリムニアソンチホリア根／ヤマユリ根／クワイ塊茎／ショウガ根茎／ニンニク根／カンゾウ根／アマドコロ根茎／ウコン根茎／ウコギ根／キャベツ（葉／茎）／シソ葉／ヤマグワ葉／ヤブカンゾウ花／ドクダミ／ヨモギ／クマザサ葉／カキドオシ／カミツレ花／スギナ／ヒキオコシ／ベニバナ花／オオバコ／セイヨウタンポポ／マコンブ葉／ワカメ葉／アカバギンナンソウ葉／モズク／ゴマ種子／オニグルミ種子／イチョウ種子／チョウセンゴヨウ種子／エビスグサ種子／マイタケ子実体／ヤマブシタケ子実体／シイタケ子実体／キクラゲ子実体）発酵エキス	<i>polygama</i> の果実、スモモ <i>Prunus salicina</i> の果実、アケビ <i>Akebia quinata</i> の果実、 <i>Momordica grosvenorii</i> の果実、サンザシ <i>Crataegus Cuneata</i> の果実、サンシュユ <i>Cornus officinalis</i> の果実、リュウガン <i>Euphoria longana</i> の果実、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の果実、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根、ニンジン <i>Daucus carota</i> の根、サトウダイコン <i>Beta vulgaris</i> の根、ダイコン <i>Raphanus sativus</i> の根、カブ <i>Brassica rapa</i> の根、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、 <i>Polymnia Sonchifolia</i> の根、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> の根、ウコギ <i>Acanthopanax gracilistylus</i> の根、キクイモ <i>Helianthus tuberosus</i> の根、サトイモ <i>Colocasia esculenta</i> の根、クワイ <i>Sagittaria trifolia edulis</i> の根、タマネギ <i>Allium cepa</i> の鱗茎、ヤマユリ <i>Lilium auratum</i> の鱗茎、ニンニク <i>Allium sativum</i> の根、ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> の地下茎、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の地下茎、ショウガ <i>Zingiber officinale</i> の根茎、アマドコロ <i>Polygonatum officinale</i> の根茎、ウコン <i>Curcuma longa</i> の根茎、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> の葉及び茎、シソ <i>Perilla ocymoides</i> の葉、ヤマグワ <i>Morus bombycis</i> の葉、クマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、褐藻類の一種マコンブ <i>Laminaria japonica</i> の葉、褐藻類の一種ワカメ <i>Undaria pinnatifida</i> の葉、アカバギンナンソウ <i>Rhodoglossum pulcherum</i> の葉、ヤブカンゾウ <i>Hemerocallis fulva kwanso</i> の花、カミツレ <i>Chamomilla recutita</i> の花、ベニバナ <i>Carthamus tinctorius</i> の花、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の全草、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の全草、カキオドシ <i>Glechoma hederacea</i> の全草、スギナ <i>Equisetum arvense</i> の全草、ヒキオコシ <i>Isodon japonicus</i> の全草、オオバコ <i>Plantago asiatica</i> の全草、セイヨウタンポポ <i>Taraxacum officinale</i> の全草、褐藻類の一種モズク <i>Nemacystus decipiens</i> の全草、マイタケ <i>Grifola frondosa</i> の子実体、ヤマブシタケ <i>Hericium erinaceum</i> の子実体、シイタケ <i>Lentinus edodes</i> の子実体及びキクラゲ <i>Auricularia auricula</i> の子実体を基質として、酢酸菌 <i>Acetobacter</i> 、真菌の一種 <i>Aspergillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> 、乳酸菌 <i>Pediococcus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び酵母

No.	成分名称	定義
		<i>Zygosaccharomyces</i> により得られる発酵液のエキスである。
71	アセトバクター／イチョウ葉発酵エキス	本品は、イチョウ <i>Ginkgo biloba</i> の葉を基質として、酢酸菌 <i>Acetobacter</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
72	(アセトバクター／バチルス／乳酸桿菌／サッカロミセス)／(イネ／オオムギ／ダイズ／キャベツ／レタス／ホウレンソウ／ブドウ／リンゴ／ローブッシュブルーベリー／イチゴ／ヨーロッパキイチゴ／クランベリー／タチジャコウソウ／ローズマリー／ニラ／ウンシユウミカン／ビルベリー／カニナバラ／レモングラス／エリオセファルス／ピンクツラツス／リョクトウ種子／アズキ種子／スモモ果実／ウメ果実／アサイヤシ果実) 発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> 、オオムギ <i>Hordeum distichon</i> 、ダイズ <i>Glycine max</i> 、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> 、レタス <i>Lactuca scariola sativa</i> 、ホウレンソウ <i>Spinacia oleracea</i> 、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> 、リンゴ <i>Pyrus malus</i> 、ローブッシュ・ブルーベリー <i>Vaccinium angustifolium</i> 、イチゴ <i>Fragaria ananassa</i> 、ヨーロッパキイチゴ <i>Rubus Idaeus</i> 、クランベリー <i>Vaccinium Macrocarpon</i> 、タチジャコウソウ <i>Thymus vulgaris</i> 、ローズマリー <i>Rosemarinus officinalis</i> 、ニラ <i>Allium tuberosum</i> 、ウンシユウミカン <i>Citrus unshiu</i> 、ビルベリー <i>Vaccinium myrtillus</i> 、カニナバラ <i>Rosa canina</i> 、レモングラス <i>Cymbopogon schoenathus</i> 及び <i>Eriocephalus punctulatus</i> の全草、スモモ <i>Prunus salicina</i> 、ウメ <i>Prunus mume</i> 及びアサイヤシ <i>Euterpe oleracea</i> の果実、リョクトウ <i>Phaseolus radiatus</i> 及びアズキ <i>Phaseolus angularis</i> の種子を基質として、酢酸菌 <i>Acetobacter</i> 、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
73	アセロラチェリー発酵液	本品は、アセロラチェリー <i>Mulpighia punicifolia</i> を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵させて得られる液である。
74	アルスロバクター／ヒアルロン酸発酵液	本品は、ヒアルロン酸(*)を基質として、細菌 <i>Arthrobacter</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
75	アルテロモナス発酵エキス	本品は、細菌 <i>Alteromonas macleodii</i> から得られる発酵液のエキスである。
76	アンズ果実発酵液	本品は、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の果実を真菌 <i>Endomyces magnusii</i> で醗酵して得られた液である。
77	ウコンベニコウジ菌発酵物	本品は、ウコン <i>Curcuma longa</i> 又は <i>Curcuma aromatica</i> を紅麹菌で発酵させたものである。
78	ウスチラゴエスクレンタ／マコモ茎発酵エキス	本品は、マコモ <i>Zizania Latifolia</i> の茎を基質として、真菌の一種 <i>Ustilago esculenta</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
79	ウメ果汁発酵液	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の果汁を酵母 <i>Saccharomyces</i> で

No.	成分名称	定義
		発酵させて得られる液である。
80	ウメ発酵物	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の果肉を基質としたコウジ菌 <i>Aspergillus oryzae</i> 及び乳酸菌 <i>Lactobacillus acidophilus</i> の培養液である。
81	ウンシュウミカン果汁発酵エキ ス液	本品は、ウンシュウミカン果汁（＊）を自然発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
82	エロピルム／ダイズ発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子を基質として、細菌 <i>Aeropyrum</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
83	エンテロコッカスフェカリス／（ア ミラーゼ／グルコース／パパイヤ 果実／プロテアーゼ）発酵液	本品は、アミラーゼ（＊）、グルコース（＊）、パパイヤ <i>Carica papaya</i> の果実及びプロテアーゼ（＊）を基質として、乳酸球 菌の一種 <i>Enterococcus faecalis</i> により発酵した後、ろ過 して得られる液である。
84	エンドミセス／アンズ発酵液	本品は、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> を基質として真菌 <i>Endomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
85	エンドミセス／スミノミザクラ果 汁発酵液	本品は、スミノミザクラ果汁（＊）を基質として、真菌 <i>Endomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
86	エンドミセス／セイヨウトチノキ 発酵液	本品は、セイヨウトチノキ <i>Aesculus hippocastanum</i> を基質 として真菌 <i>Endomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られ る液である。
87	エンドミセス／トチノキ発酵液	本品は、トチノキ <i>Aesculus turbinata</i> を基質として真菌 <i>Endomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
88	エンドミセス／ヒアルロン酸N a 発酵液	本品は、ヒアルロン酸N a（＊）を基質として、真菌 <i>Endomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
89	オオムギ発酵エキス	本品は、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の種子を発酵して得られ るエキスである。
90	（カザクスタニア／クルイベロミ セス／乳酸桿菌）／脱脂乳発酵物	本品は、脱脂乳を基質として、酵母 <i>Kazachstania</i> 、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵し て得られるものである。
91	加水分解アスペルギルス／コメ発 酵液	本品は、アスペルギルス／コメ発酵液（＊）を酸、酵素又は 他の方法により加水分解して得られるものである。
92	加水分解（アスペルギルス／サッカ ロミセス）／オオムギ発酵エキス液	本品は、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> の全草を基質として、真 菌 <i>Aspergillus</i> と酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵したもの のエキスをろ過して得られる液を加水分解して得られるもの である。
93	加水分解ダイズ粕発酵物	本品は、ダイズ粕（＊）を自然発酵したものを酸、酵素又は 他の方法により加水分解して得られるものである。

No.	成分名称	定義
94	加水分解（ビフィズス菌／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／豆乳発酵カード	本品は、(ビフィズス菌／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス)／豆乳発酵カード（*）を酸、酵素又は他の方法により加水分解して得られるものである。
95	加水分解モウソウチク／炭／パパイン／ボイゼンベリー果実発酵液	本品は、モウソウチク <i>Phyllostachys heterocycla</i> の全草、ボイゼンベリー(ヨーロッパキイチゴ <i>Rubus idaeus</i> と <i>Rubus ursinus</i> の交配種) の果実、炭及びパパインを自然発酵した後、ろ過して得られる液の加水分解物である。
96	カバアナタケ菌糸体発酵エキス	本品は、カバアナタケ <i>Fuscoporia obliqua</i> の菌糸体の発酵物のエキスである。
97	カンジダ／ガルシニアカンボジア発酵物	本品は、 <i>Garcinia cambogia</i> を基質として酵母 <i>Candida</i> により発酵して得られるものである。
98	カンジダガルシニア／カンボジア発酵物	本品は、 <i>Garcinia cambogia</i> を基質として酵母の一種 <i>Candida</i> にて発酵して得られたものである。
99	カンジダボンビコラ／（グルコース／ナタネ油脂肪酸メチル）発酵物	本品は、グルコースとナタネ油脂肪酸メチルを基質として、酵母の一種 <i>Candida bombicola</i> により発酵して得られるものである。
100	カンジダボンビコラ／（スクロース／野菜酸エステル）発酵物	本品は、アブラナ種子油、ヒマワリ種子油及びパーム脂肪酸のメチルエステル、エチルエステル及びグリセリルエステルと共にスクロースを基質として、酵母の一種 <i>Candida bombicola</i> により発酵して得られるものである。
101	カンジダボンビコラ／マドフカロングホリア種子油発酵エキス	本品は、 <i>Madhuca Longifolia</i> の種子の油を基質として、酵母の一種 <i>Candida bombicola</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
102	ガノデルマアンボイネンセ／リンゴ発酵エキス液	本品は、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の枝を基質として、真菌の一種 <i>Ganoderma amboinense</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
103	ガラクトミセス／オリーブ葉発酵エキス	本品は、オリーブ <i>Olea europaea</i> の葉を基質として、糸状菌 <i>Galactomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
104	ガラクトミセス／豆乳発酵液	本品は、豆乳（*）を基質として、糸状菌 <i>Galactomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
105	ガラクトミセス／乳発酵液	本品は、牛乳（*）を基質として、真菌 <i>Galactomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
106	（クリプトコッカス／フィロバシジエラ）／ブドウエキス発酵粕	本品は、ブドウ果実エキス（*）を基質として、真菌 <i>Cryptococcus</i> と 真菌 <i>Filobasidiella</i> により発酵して得ら

No.	成分名称	定義
		れる粕である。
107	クリプトコッカス／腐植土発酵液	本品は、腐植土を基質として、真菌 <i>Cryptococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
108	クルイベロミセス／サトウキビ茎汁エキス発酵液	本品は、サトウキビ <i>Saccharum officinarum</i> の茎汁のエキスを基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
109	(クルイベロミセス／テナシバクルムジスコロル)／(オリーブ葉／セイヨウオオバコ種子)発酵エキス	本品は、オリーブ <i>Olea europaea</i> の葉及びセイヨウオオバコ <i>Plantago major</i> の種子を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び酵母の一種 <i>Tenacibaculum discolor</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
110	(クルイベロミセス／乳酸桿菌)／アcantopanax コレアナム樹皮／茎油発酵液	本品は、 <i>Acanthopanax koreanum</i> の樹皮及び茎から得られる精油を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
111	(クルイベロミセス／乳酸桿菌)／アブリコット核発酵油液	本品は、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の核を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵したもものから得られる油をろ過したものである。
112	(クルイベロミセス／乳酸桿菌)／シロバナインドソケイ花油発酵液	本品は、シロバナインドソケイ <i>Plumeria alba</i> の花の油を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
113	(クルイベロミセス／乳酸桿菌)／ツバキ種子油発酵液	本品は、ツバキ <i>Camellia japonica</i> の種子から得られる脂肪油を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
114	(クルイベロミセス／乳酸桿菌／乳酸球菌／レウコノストック／サッカロミセス)／乳発酵液	本品は、乳を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、乳酸球菌 <i>Lactococcus</i> 、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
115	(クルイベロミセス／乳酸桿菌)／ベニバナ種子油発酵液	本品は、ベニバナ <i>Carthamus tinctorius</i> の種子から得られる脂肪油を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 及び乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
116	(クルイベロミセス／乳酸桿菌／レウコノストック)／ダイズ発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine soja</i> を基質として、酵母 <i>Kluyveromyces</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
117	(クロストリジウムアカギー／酪酸菌／パチルス)／(ハチミツ／クコ果実／ダイズ／ウコン根／ナツメ果実) 発酵エキス液	本品は、ハチミツ、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実、ナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実、ウコン <i>Curcuma longa</i> の根及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌の一種 <i>Clostridium akagii</i> 、酪酸菌 <i>Clostridium butyrium</i> 及び細菌 <i>Bacillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
118	クロレラ／シロバナルーピンタンパク発酵物	本品は、シロバナルーピン <i>Lupinus albus</i> のタンパクを緑藻の一種 クロレラ <i>Chlorella vulgaris</i> により発酵して得られるものである。
119	クロレラ発酵物	本品は、クロレラ（＊）を酵母で発酵して得られるもののエキスである。
120	グルコノバクター／ハチミツ発酵液	本品は、ハチミツを基質として、細菌 <i>Gluconobacter</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
121	ゲットウ葉／茎発酵物	本品は、ゲットウ <i>Alpinia speciosa</i> の葉及び茎を発酵したものである。[<i>Alpinia zerumbet</i>]
122	酵母発酵エキス	本品は、酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> の発酵物のエキスである。
123	コメヌカ・ダイズペプチド発酵物	本品は、コメヌカ（＊）と加水分解ダイズタンパク（＊）をナットウ菌 <i>Bacillus natto</i> で発酵させたものである。
124	コメヌカ発酵液	本品は、コメヌカ（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵させて得られたものである。
125	コメヌカ発酵エキス	本品は、コメヌカ（＊）より得られる糖化液の発酵液から得られるエキスである。
126	コメ発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の胚乳から得られるコメをアルコール発酵させて得られる液である。
127	(コメ発酵液／アイ葉) 発酵液	本品は、アイ <i>Persicaria tinctoria</i> の葉及びコメ発酵液（＊）を自然発酵した後、ろ過して得られる液である。
128	コリネバクテリウム発酵液	本品は、細菌 <i>Corynebacterium</i> を発酵して得られるものである。
129	(混合植物／黒砂糖) 発酵エキスー 1	本品は、以下の原材料を混合し、酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いて加圧発酵して得た液のエキスである。原材料：ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i> の種子、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根、マツホド <i>Poria cocos</i> の外層をほとんど除いた菌核、シャクヤク <i>Paeonia lactiflora</i> の根、ユキノシタ <i>Saxifraga stolonifera</i> の全草、マグワ <i>Morus alba</i> の葉、黒砂糖

No.	成分名称	定義
130	(混合植物／黒砂糖) 発酵エキスイ 2	本品は、以下の原材料を混合し、酵母 <i>Sacchromyces cerevisiae</i> を用いて加圧発酵して得た液のエキスである。原材料：ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i> の種子、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根、マンネンタケ <i>Ganoderma lucidum</i> の子実体、マツホド <i>Poria cocos</i> の外層をほとんど除いた菌核、シャクヤク <i>Paeonia lactiflora</i> の根、ユキノシタ <i>Saxifraga stolonifera</i> の全草、カワラヨモギ <i>Artemisia capillaries</i> の頭花、ショウブ <i>Acorus calamus</i> の根茎、ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> の果皮、アカヤジオウ <i>Rehmannia glutinosa</i> var. <i>purpurea</i> の根、チャノキ <i>Thea sinensis</i> の葉、ボタン <i>Paeonia suffruticosa</i> の根皮、マグワ <i>Morus alba</i> の葉、黒砂糖
131	(混合植物／白糖) 発酵エキス	本品は、以下の原材料を混合し、酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いて発酵、熟成して得た液のエキスである。原材料：ニンニク、ニンジン、ダイコン、ニラ、ミカン、コンブ、ショウガ、リンゴ、ナシ、ワカメ、ナスビ、ホウレンソウ、シイタケ、タマネギ、ゴボウ、ヨモギ、タラノキ、フキ、ササ、ウド、日局白糖
132	(混合植物／白糖) 発酵エキスイ 2	本品は、以下の原材料を混合し、酵母 <i>Zygosaccharomyces rouxii</i> を用いて発酵して得られたものである。原材料：リンゴ <i>Malus pumila</i> の果実、パパイア <i>Carica papaya</i> の果実、パイナップル <i>Ananas comosusu</i> の果実、アセロラ <i>Malpighia glabra</i> の果実、ゴレンシ <i>Averrhoa carambola</i> の果実、バナナ <i>Musa acuminata</i> の果実、ニンジン <i>Daucua carata</i> の根、ダイコン <i>Raphanus sativus</i> の根、トマト <i>Lycopersicon esculentum</i> の果実、キュウリ <i>Cucumis sativus</i> の果実、ホウレンソウ <i>Spinacia oleracea</i> の葉、シソ <i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i> の葉、キダチアロエ <i>Aloe arborescens</i> の葉、マコンブ <i>Laminaria japonica</i> の全藻、白糖
133	(混合植物／ハチミツ) 発酵エキス	本品は、以下の原材料を混合し、酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いて発酵、熟成して得た液のエキスである。原材料：ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> の果実、ネーブルオレンジ <i>Citrus sinensis</i> var. <i>brasiliensis</i> の果実、ハッサク <i>Citrus hassaku</i> の果実、ナツミカン <i>Citrus natsudaikai</i> の果実、バナナ <i>Musa sapientum</i> の果実、リンゴ <i>Malus pumila</i> の果実、パイナップル <i>Ananas cosmosus</i>

No.	成分名称	定義
		の果実、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子、アケビ <i>Akebia quinata</i> の果実、ミツバアケビ <i>Akebia trifoliata</i> の果実、マタタビ <i>Actinidia polygama</i> の果実、ヤマブドウ <i>Vitis coignetiae</i> の果実、カキ <i>Diospyros kaki</i> の果実、ナニンジン <i>Daucus carota</i> の根、ニンニク <i>Allium sativum</i> の鱗茎、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の地下茎、ゴマ <i>sesamum indicum</i> の種子、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子、マコンブ <i>Laminaria japonica</i> の葉または茎、ヒジキ <i>Hizikia fusiformis</i> の全草、ハチミツ（*）、コムギデンプン（*）、黒砂糖（*）
134	酒粕発酵エキス	本品は、コメ発酵液（*）の製造時に得られる酒粕を発酵して得られるエキスである。
135	サッカロミセス／コメヌカ発酵液エキス	本品は、コメヌカを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる発酵液のエキスである。
136	サッカロミセス／アオノリュウゼツラン葉発酵液	本品は、アオノリュウゼツラン <i>Agave americana</i> の葉を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
137	サッカロミセス／アナツバメ巣発酵液	本品は、アナツバメの巣を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
138	サッカロミセス／ウマプラセンタ発酵液	本品は、ウマプラセンタを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
139	サッカロミセス／海シルト発酵物	本品は、海シルト（*）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるものである。
140	サッカロミセス／ウメエキス発酵液	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> のエキスを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
141	サッカロミセス／オオムギ種子発酵液	本品は、オオムギの種子を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
142	サッカロミセス／オオムギ種子発酵エキス	本品は、オオムギ <i>Hordeum distichon</i> の種子を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
143	サッカロミセス／オタネニンジン根発酵液	本品は、オタネニンジン <i>Panax Ginseng</i> の根を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
144	サッカロミセス／オタネニンジン花発酵エキス	本品は、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の花を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキ

No.	成分名称	定義
		スである。
145	サッカロミセス／（オパール／真珠母貝／トルコ石／ダイヤモンド）発酵溶解質液	本品は、オパール、真珠母貝（*）、トルコ石及びダイヤモンドを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる溶解物をろ過して得られる液である。
146	サッカロミセス／加水分解コメヌカ発酵エキス液	本品は、加水分解コメヌカを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
147	サッカロミセス／（加水分解コラーゲン／スクロース）発酵液	本品は、加水分解コラーゲン及びスクロースを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
148	サッカロミセス／加水分解チョロギ塊茎発酵液	本品は、チョロギ <i>Stachys affinis</i> の塊茎の加水分解物を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
149	サッカロミセス／加水分解発芽コメ発酵液	本品は、発芽コメ（*）の加水分解物を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
150	サッカロミセス／カタツムリ分泌液発酵液	本品は、カタツムリ分泌液（*）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
151	サッカロミセス／（カラギーナンエキス／サルコジオテカガウジカウジエキス）発酵物	本品は、トチャカエキス（*）及び藻類の一種 <i>Sarcodiotheca gaudichaudii</i> から得られるエキスを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるものである。
152	サッカロミセス／カラフトコンブ発酵物	本品は、カラフトコンブ <i>Laminaria saccharina</i> を酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られたものである。
153	サッカロミセス／（カンゾウ／ウラルカンゾウ）葉／茎発酵エキス	本品は、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> 及びウラルカンゾウ <i>Glycyrrhiza uralensis</i> の葉及び茎を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
154	サッカロミセス／（カンゾウ根／ジオウ根／オニノダケ根／ジャノヒゲ根／オオバナオケラ根／シャクヤク根／ハナスゲ根／セイヨウトネリコ樹皮／クサスギカズラ／キハダ樹皮）発酵エキス	本品は、ハナスゲ <i>Anemarrhena asphodeloides</i> の根、オニノダケ <i>Angelica gigas</i> の根、オオバナオケラ <i>Atractylodes macrocephala</i> の根、カンゾウ <i>Glycyrrhiza glabra</i> の根、ジャノヒゲ <i>Ophiopogon japonicus</i> の根、シャクヤク <i>Paeonia albiflora</i> の根、ジオウ <i>Rehmannia glutinosa</i> の根、セイヨウトネリコ <i>Fraxinus excelsior</i> の樹皮、キハダ <i>Phellodendron amurense</i> の樹皮及びクサスギカズラ <i>Asparagus cochinchinensis</i> の全草を基質として、酵母

No.	成分名称	定義
		<i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
155	(サッカロミセス／キシリヌム)／紅茶発酵物	本品は、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び酢酸菌 <i>Xylinum</i> により紅茶を発酵して得られるものである。
156	サッカロミセス／キハダ樹皮発酵エキス	本品は、キハダ <i>Phellodendron amurense</i> の樹皮を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
157	サッカロミセス／(絹糸腺エキス／炭酸水素Na) 発酵液	本品は、カイコの絹糸腺のエキス及び炭酸水素Na (*) を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
158	サッカロミセス／クコ果実発酵エキス液	本品は、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
159	サッカロミセス／(黒砂糖／プラセインタエキス) 発酵液	本品は、黒砂糖 (*) 及び動物の胎盤から得られるエキスを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
160	サッカロミセス／((ゲットウ／マヨラナ) 葉／コメ) 発酵液	本品は、ゲットウ <i>Alpinia speciosa</i> の葉、マヨラナ <i>Origanum majorana</i> の葉及びイネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
161	サッカロミセス／コケモモ果実発酵エキス	本品は、コケモモ <i>Vaccinium vitis-idaea</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
162	サッカロミセス／ココヤシ花蜜発酵液	本品は、ココヤシ <i>Cocos nucifera</i> の花蜜を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
163	サッカロミセス／コムギ種子発酵エキス	本品は、コムギ <i>Triticum aestivum</i> の種子を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
164	サッカロミセス／コメ粕発酵液	本品は、コメ <i>Oryza sativa</i> の粕を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
165	サッカロミセス／(コメ／コメヌカ) 発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ)及びコメヌカ(*)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
166	サッカロミセス／(コメヌカ／コメ	本品は、コメヌカ及びコメ胚芽を基質として、酵母

No.	成分名称	定義
	胚芽) 発酵液	<i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
167	サッカロミセス／コメ発酵液	本品は、コメを基質として酵母の一種 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
168	サッカロミセス／コメ発酵液エキス	本品は、コメを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる発酵液のエキスである。
169	サッカロミセス／コメ発酵粕エキス液	本品は、コメ <i>Oryza sativa</i> を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる粕のエキスをろ過して得られる液である。
170	サッカロミセス／コメ芽発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の芽を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
171	サッカロミセス／（サンシュユ果実／トウキ根／シカ角／タチジャコウソウ）発酵液	本品は、サンシュユ <i>Cornus officinalis</i> の果実、トウキ <i>Angelica acutiloba</i> の根、シカの角及びタチジャコウソウ <i>Thymus vulgaris</i> を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
172	サッカロミセス／ザクロ果実発酵液	本品は、ザクロ <i>Punica granatum</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
173	サッカロミセス／（シソ葉／コメ／ナツメ果実）発酵液	本品は、シソ <i>Perilla ocymoides</i> の葉、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）及びナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
174	サッカロミセス／ジオウ根発酵エキス	本品は、ジオウ <i>Rehmannia glutinosa</i> の根を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
175	サッカロミセス／ジャガイモエキス発酵液	本品は、ジャガイモのエキスを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
176	サッカロミセス／（ステビア葉／茎）発酵エキス	本品は、ステビア <i>Stevia rebaudiana</i> の葉及び茎を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
177	サッカロミセス／セイヨウハッカ葉発酵液	本品は、セイヨウハッカ葉（*）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
178	サッカロミセス／セイヨウヤドリ	本品は、セイヨウヤドリギ <i>Viscum album</i> の全草を基質とし

No.	成分名称	定義
	ギ発酵エキス	て、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
179	(アスペルギルス／サッカロミセス)／オオムギ発酵エキス液	本品は、オオムギ <i>Hordeum vulgare</i> を基質として、真菌の一種 <i>Aspergillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
180	サッカロミセス／ソメイヨシノ樹皮エキス発酵液	本品は、ソメイヨシノ樹皮エキス(※)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
181	サッカロミセス／ダイズタンパク発酵物	本品は、ダイズタンパク(※)を酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られたものである。
182	サッカロミセス／ダマスクバラ花エキス発酵液	本品は、ダマスクバラ花エキス(※)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
183	サッカロミセス／チガヤ根発酵エキス	本品は、チガヤ <i>Imperata cylindrica</i> の根を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
184	サッカロミセス／チャエキス発酵液	本品は、チャ葉エキス(※)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
185	サッカロミセス／(チャ葉／オキナワモズク／コメ)発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子(コメ)、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉及び褐藻類 オキナワモズク <i>Cladosiphon okamuranus</i> を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
186	サッカロミセス／(チャ葉／レイシ／オタネニンジン根)発酵液	本品は、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉、マンネンタケ <i>Ganoderma lucidum</i> 及びオタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
187	サッカロミセス／(チョウジ花／ラベンダー花／アニス果実／セイヨウアブラナ果実／コリアンダー果実／ウイキョウ果実／セイヨウトグリスウ果実／ニゲラサチバ果実／パセリ果実／レモングラス葉／セイヨウトネリコ葉／ゲッケイジュ葉／ニガハッカ葉／セージ葉／カッコウチョロギ葉／ショウガ根／セイヨウカノコソウ根／セイ	本品は、チョウジ <i>Eugenia caryophyllus</i> の花、ラベンダー <i>Lavandula angustifolia</i> の花、セイヨウアブラナ <i>Brassica napus</i> の果実、コリアンダー <i>Coriandrum sativum</i> の果実、ウイキョウ <i>Foeniculum vulgare</i> の果実、セイヨウトグリスウ <i>Hypericum perforatum</i> の果実、 <i>Nigella sativa</i> の果実、パセリ <i>Petroselinum sativum</i> の果実、アニス <i>Pimpinella anisum</i> の果実、レモングラス <i>Cymbopogon citratus</i> の葉、セイヨウトネリコ <i>Fraxinus excelsior</i> の葉、ゲッケイジュ <i>Laurus nobilis</i> の葉、ニガハッカ <i>Marrubium vulgare</i> の葉、セージ <i>Salvia officinalis</i> の葉、

No.	成分名称	定義
	ロンニッケイ茎／カッコウチョロギ茎／ハチミツ) 発酵エキス	カッコウチョロギ <i>Stachys Officinalis</i> の葉、セイヨウカノコソウ <i>Valeriana officinals</i> の根、ショウガ <i>Zingiber Officinale</i> の根、セイロンニッケイ <i>Cinnamomum zeylanicum</i> の茎、カッコウチョロギ <i>Stachys Officinalis</i> の茎及びハチミツを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
188	サッカロミセス／チョウセンゴヨウ種子油発酵液	本品は、チョウセンゴヨウ種子油（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
189	サッカロミセス／テマリカタヒバ発酵液	本品は、テマリカタヒバ <i>Selaginella lepidophylla</i> の全草を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
190	サッカロミセス／デイリリー花発酵液	本品は、ホンカンゾウ <i>Hemerocallis fulva</i> の花を基質として酵母の一種 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
191	サッカロミセス／トウガラシ果実発酵液	本品は、トウガラシ <i>Capsicum annuum</i> の果実を基質として 酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる液である。
192	サッカロミセス／（トウミツ／キャベツ葉／ゴボウ根／ニンジン根／ハス根／ダイコン根）発酵液	本品は、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、ニンジン <i>Daucus carota</i> の根、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の根、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の根、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> の葉及びトウミツ（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
193	サッカロミセス／トックリイチゴ果実発酵液	本品は、トックリイチゴ <i>Rubus coreanus</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
194	サッカロミセス／ハス発酵エキス液	本品は、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の全草を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
195	サッカロミセス／（ハチミツ／酢／ワイン／ウィタニアソムニフェラ根）発酵液	本品は、ハチミツ、酢、ワイン及び <i>Withania somnifera</i> の根を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
196	サッカロミセス／ハチミツ発酵液	本品は、ハチミツを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
197	サッカロミセス／（ハチミツ／パイナップル果実／スクロース）発酵液	本品は、ハチミツ（＊）、パイナップル <i>Ananas sativus</i> の果実及びスクロース（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i>

No.	成分名称	定義
		により発酵した後、ろ過して得られる液である。
198	サッカロミセス／（ハトムギ種子／グルコース）発酵液	本品は、ハトムギ <i>Coix lachryma-jobi ma-yuen</i> の種子及びグルコース（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
199	サッカロミセス／ハトムギ種子発酵液	本品は、ハトムギ <i>Coix lachryma-jobi Ma-yuen</i> の種子を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。[<i>Coix lachryma-jobi Ma-yuen</i>]
200	サッカロミセス／（ハマスゲ根／ホオノキ樹皮／ボタン根／モモ核）発酵エキス液	本品は、ハマスゲ <i>Cyperus rotundus</i> の根、ボタン <i>Paeonia suffruticosa</i> の根、ホオノキ <i>Magnolia obovata</i> の樹皮及びモモ <i>Prunus persica</i> の核を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
201	サッカロミセス／（バクガ／コーン）発酵液	本品は、麦芽及びトウモロコシの種子を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
202	サッカロミセス／（パイナップル果実／スクロース）発酵液	本品は、パイナップル <i>Ananas sativus</i> の果実及びスクロース（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である
203	サッカロミセス／（パイナップル果汁／コラーゲン）発酵液	本品は、パイナップル果汁（＊）及びコラーゲン（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
204	サッカロミセス／ヒポファエラムノイデス果実発酵液	本品は、 <i>Hippophae rhamnoides</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
205	サッカロミセス／ブクリョウタケ菌核発酵エキス	本品は、ブクリョウタケ <i>Poria cocos</i> の菌核を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
206	サッカロミセス／ブドウ果実／種子／柄発酵エキス	本品は、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の果実、種子及び柄を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
207	サッカロミセス／（ブドウ果実／ユズ果実）発酵液	本品は、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の果実及びユズ <i>Citrus junos</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
208	サッカロミセス／ブドウ粕発酵液	本品は、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の全木の粕を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
209	サッカロミセス／ブドウ発酵エキ ス	本品は、ブドウを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発 酵して得られる発酵物のエキスである。
210	サッカロミセス／ボスウェリアセ ラタガム発酵エキ	本品は、 <i>Boswellia serrata</i> から得られるガムを基質として、 酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキ スである。
211	サッカロミセス／ポドフィルムペ ルタツム発酵液	本品は、 <i>Podophyllum peltatum</i> の全草を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ る。
212	サッカロミセス／ムラサキ根油発 酵液	本品は、ムラサキ根油(*)を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
213	サッカロミセス／ムレスズメ根発 酵エキ	本品は、ムレスズメ <i>Caragana sinica</i> の根を基質として、酵 母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるもののエキスで ある。
214	サッカロミセス／(メロン果実／イ チゴ果実／ブドウ果実／アケビ果 実／リンゴ果実／イチジク果実／ バナナ果実／スクロース) 発酵液	本品は、スクロース(*)、メロンの果実、イチゴの果実、ブ ドウの果実、アケビの果実、リンゴの果実、イチジクの果実、 バナナの果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発 酵した後、ろ過して得られる液である。
215	サッカロミセス／(メロン果実／ス クロース) 発酵液	本品は、メロン <i>Cucumis melo</i> の果実及びスクロースを基質 として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得 られる液である。
216	サッカロミセス／(メロン果実／フ ラガリアチロエンシス果実／ブド ウ果実／アケビ果実／リンゴ果実 ／イチジク果実／バナナ果実／ス クロース) 発酵液	本品は、スクロース(*)、メロン <i>Cucumis melo</i> の果実、 <i>Fragaria chiloensis</i> の果実、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の果 実、アケビ <i>Akebia quinata</i> の果実、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果 実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、バナナ <i>Musa paradisica</i> の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した 後、ろ過して得られる液である。
217	サッカロミセス／ユキツバキ木発 酵液	本品は、ユキツバキ <i>Camellia rusticana</i> の木部を基質とし て、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られ る液である。
218	サッカロミセス／ユズ果皮発酵液	本品は、ユズ <i>Citrus junos</i> の果皮を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ る。
219	サッカロミセス／ヨモギ葉発酵液	本品は、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の葉を基質として、酵 母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液で ある。
220	サッカロミセス／ヨロイグサ根発	本品は、ヨロイグサ <i>Angelica dahurica</i> の根を基質として、

No.	成分名称	定義
	酵母エキス	酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
221	サッカロミセス／ラベンダー花／葉／茎エキス発酵液	本品は、ラベンダー花／葉／茎エキス（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
222	サッカロミセス／（リンゴ果実／アズナギタ核／モモ核／ハトムギ種子／スクロース）発酵液	本品は、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、アズナギタ <i>Prunus armeniaca</i> の核、モモ <i>Prunus persica</i> の核、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子及びスクロースを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
223	サッカロミセス／（リンゴ果実／加水分解コンキオリンタンパク／スクロース）発酵液	本品は、リンゴ果実（＊）、加水分解コンキオリンタンパク及びスクロース（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
224	サッカロミセス／（リンゴ／スクロース）発酵液	本品は、リンゴ及びスクロースを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
225	サッカロミセス／（リンゴ果実／ハチミツ／オタネニンジン根／ローヤルゼリー／スクロース）発酵液	本品は、リンゴ果実（＊）、オタネニンジン（＊）、ローヤルゼリー（＊）及びスクロース（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
226	サッカロミセス／リンゴ果実発酵液	本品は、リンゴ <i>Pyrus malus</i> [<i>Malus pumila</i>] の果実を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
227	サッカロミセス／（リンゴ果実／メロン果実／スクロース）発酵液	本品は、リンゴ果実（＊）、メロンの果実及びスクロース（＊）を基質として酵母 <i>Saccharomyces</i> で発酵したものをろ過して得られる液である。
228	（サッカロミセス／レウコノストック）／（リンゴ果実／ニンジン根／ダイコン根／キャベツ葉／セロリ葉／キュウリ果実／バナナ果実／タマネギ根／ゴボウ根／ホウレンソウ葉／マンダリンオレンジ果皮／トマト果実／リョクトウ芽／ニホンカボチャ果実）エキス発酵液	本品は、リンゴ果実エキス（＊）、ニンジン根エキス（＊）、ダイコン根エキス（＊）、キャベツ葉エキス（＊）、セロリ <i>Apium graveolens</i> の葉のエキス、キュウリ果実エキス（＊）、バナナ果実エキス（＊）、タマネギ根エキス（＊）、ゴボウ根エキス（＊）、ホウレンソウ葉エキス（＊）、マンダリンオレンジ果皮エキス（＊）、トマト果実エキス（＊）、リョクトウ <i>Phaseolus radiatus</i> の芽のエキス及びニホンカボチャ <i>Cucurbita moschata</i> の果実のエキスを基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
229	サッカロミセス／ロジオラクレス ラタ根エキス発酵液	本品は、ロジオラクレスラタ根エキス（＊）を基質として、酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
230	サトウキビ発酵エキス	本品は、サトウキビ <i>Saccharum officinarum</i> を発酵して得られたもののエキスである。
231	（サピンヅスエマルジナツス果実 ／スクロース）発酵液	本品は、スクロースを <i>Sapindus emarginatus</i> の果実とともに自然発酵した後、ろ過して得られる液である。
232	酸化ゲットウ茎発酵液	本品は、ゲットウ <i>Alpinia speciosa</i> [<i>Alpinia zerumbet</i>] の茎を自然発酵して得られた酸化生成物をろ過して得られる液である。
233	シゾサッカロミセス／イチジク果 実発酵液	本品は、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実を基質として、酵母 <i>Schizosaccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
234	シゾサッカロミセス／（（トマト／ キュウリ／パイナップル／レモン ／リンゴ／セイヨウカボチャ／パ パイヤ／スイカ／メロン／アンズ ／モモ／イチジク／アケビ／カリ ン／イチゴ／ブドウ／アクチニジ アデリシオサ／ウメ／ビワ／スモ モ／トウガン）果実／（ダイコン／ キャベツ／ニンジン／キダチアロ エ／クマザサ／カキ／エゴマ）葉／ （ダイコン／ニンジン／ジャガイ モ／サツマイモ／サトイモ／ハス ／ゴボウ／ヤマノイモ／ショウガ） 根／（ダイズ／アズキ／ハトムギ／ アワ／キビ）種子／ツワブキ茎／ス ギナ／セリ／ミツバ／コメ／シイ タケ子実体／ワカメ）発酵液	本品は、トマト <i>Solanum lycopersicum</i> の果実、キュウリ <i>Cucumis sativus</i> の果実、パイナップル <i>Ananas comosus</i> の果実、レモン <i>Citrus limon</i> の果実、リンゴ <i>Pyrus malus</i> の果実、セイヨウカボチャ <i>Cucurbita maxima</i> の果実、パパイア <i>Carica papaya</i> の果実、スイカ <i>Citrullus lanatus</i> の果実、メロン <i>Cucumis melo</i> の果実、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の果実、 <i>Amygdalus persica</i> の果実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、アケビ <i>Akebia quinata</i> の果実、カリン <i>Chaenomeles sinensis</i> の果実、イチゴ <i>Fragaria annanassa</i> の果実、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の果実、 <i>Actinidia deliciosa</i> の果実、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の果実、スモモ <i>Prunus salicina</i> の果実、トウガン <i>Benincasa cerifera</i> の果実、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の葉、キャベツ <i>Brassica oleracea capitata</i> の葉、ニンジン <i>Daucus carota</i> の葉、キダチアロエ <i>Aloe arborescens</i> の葉、クマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、カキ <i>Diospyros kaki</i> の葉、エゴマ <i>Perilla frutescens</i> の葉、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の根、ニンジン <i>Daucus carota</i> の根、ジャガイモ <i>Solanum tuberosum</i> の根、サツマイモ <i>Ipomoea batatas</i> の根、サトイモ <i>Colocasia esculenta</i> の根、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の根、ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の根、ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> の根、ショウガ <i>Zingiber officinale</i> の根、ダイズ <i>Glycine max</i> の種子、アズキ <i>Vigna angularis</i> の種子、ハトムギ <i>Coix</i>

No.	成分名称	定義
		<i>lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子、アワ <i>Setaria italica</i> の種子、キビ <i>Panicum miliacelim</i> の種子、ツワブキ <i>Farfugium japonicum</i> の茎、スギナ <i>Equisetum arvense</i> の全草、セリ <i>Oenanthe javanica</i> の全草、ミツバ <i>Cryptotaenia japonica</i> の全草、イネ <i>Oryza sativa</i> 、シイタケ <i>Lentinus edodes</i> の子実体及び褐藻類の一種ワカメ <i>Undaria pinnatifida</i> を基質として、酵母の一種 <i>Schizosaccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
235	シズサッカロミセス発酵液	本品は、酵母 <i>Schizosaccharomyces</i> を発酵して得られる液である。
236	シズサッカロミセス発酵抽出液	本品は、酵母の一種 <i>Schizosaccharomyces</i> の発酵液のエキスをろ過して得られる液である。
237	シトルスジャバラ果皮発酵エキス	本品は、 <i>Citrus jabara</i> の果皮を自然発酵して得られるエキスである。
238	シノモナス／ヒアルロン酸発酵液	本品は、ヒアルロン酸（＊）を基質として、細菌 <i>Sinomonas</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
239	シュードアルテロモナス発酵エキス	本品は、細菌の一種 <i>Pseudoalteromonas</i> の発酵液のエキスである。
240	スエヒロタケ菌糸体／コメ発酵エキス液	本品は、コメを基質として、スエヒロタケ <i>Schizophyllum commune</i> で発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
241	（スギ／ヒノキ）幹発酵エキス	本品は、スギ <i>Cryptomeria japonica</i> 及びヒノキ <i>Chamaecyparis obtusa</i> の幹を自然発酵して得られる発酵物のエキスである。
242	ストレプトコッカスサーモフィルス／（シクロピアインテルメジア葉／茎エキス／乳糖／乾燥乳）発酵物	本品は、 <i>Cyclopia intermedia</i> の葉及び茎のエキス、乳糖（＊）及び乾燥乳（＊）を基質として、乳酸菌の一種 <i>Streptococcus thermophilus</i> により発酵して得られるものである。
243	（ストレプトコッカスサーモフィルス／乳酸桿菌／ビフィドバクテリウム）／ウラルカンゾウ根エキス発酵液	本品は、ウラルカンゾウ根エキス（＊）を基質として、乳酸菌の一種 <i>Streptococcus thermophilus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及びビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> で発酵して得られたものである。
244	セイヨウトチノキ果実発酵液	本品は、セイヨウトチノキ <i>Aesculus hippocastanum</i> の果実を真菌 <i>Endomyces magnusii</i> で発酵して得られる液である。
245	ソルビトール発酵多糖	本品は、ソルビトール（＊）をクレブシエラ属 <i>Klebsiella</i> の菌で発酵して得られる多糖である。
246	ダイズ発酵エキス	本品は、ダイズ <i>Glycine Soja</i> のたん白質をナットウ菌

No.	成分名称	定義
		<i>Bacillus natto</i> で発酵して得られるエキスである。
247	大豆ビフィズス菌発酵液	本品は、ダイズエキス（＊）を乳酸菌 <i>Bifidobacterium breve</i> で発酵して得られる培養液である。
248	チノリモ／亜鉛発酵液	本品は、亜鉛を含む培養液で紅藻類チノリモ <i>Porphyridium</i> を発酵して得られるエキスである。
249	豆乳発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine soja</i> の種子から得た豆乳を発酵して得られる培養液である。
250	トチノキ果実発酵液	本品は、トチノキ <i>Aesculus turbinata</i> の果実を真菌 <i>Endomyces magnusii</i> で発酵して得られる液である。
251	乳酸桿菌／アルンジンナリアギガンテア発酵液	本品は、 <i>Arundinaria gigantea</i> を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
252	乳酸桿菌／アカツメクサ花発酵エキス	本品は、アカツメクサ花（＊）を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
253	（乳酸桿菌／アスペルギルス）／ウメ果実発酵液	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> と真菌 <i>Aspergillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
254	乳酸桿菌／アセロラ葉発酵液	本品は、アセロラの葉を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
255	乳酸桿菌／アルゲエキス発酵液	本品は、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> によりアルゲエキス（＊）を発酵して得られるものである。
256	乳酸桿菌／アルニカ花発酵液	本品は、アルニカ <i>Arnica montana</i> の花を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
257	乳酸桿菌／アルンジンナリアギガンテア葉発酵液	本品は、 <i>Arundinaria gigantea</i> の葉を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
258	乳酸桿菌／アロエベラ発酵液	本品は、アロエベラ <i>Aloe barbadensis</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵液である。
259	乳酸桿菌／（アンペロシススマルチニ果実／ラベンダー花／カニナバラ果実／ローズマリー葉／セージ葉／タチジャコウソウ葉）エキス発酵液	本品は、 <i>Ampelocissus Martini</i> の果実、カニナバラ <i>Rosa canina</i> の果実、ラベンダー <i>Lavandula angustifolia</i> の花、ローズマリー <i>Rosmarinus officinalis</i> の葉、セージ <i>Salvia officinalis</i> の葉及びタチジャコウソウ <i>Thymus vulgaris</i> の葉のエキスを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
260	乳酸桿菌／ウメ花エキス発酵液	本品は、ウメ花エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ

No.	成分名称	定義
		る。
261	乳酸桿菌／ウンシュウミカンエキ ス発酵液	本品は、ウンシュウミカンエキス（＊）を基質として、乳酸 桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる 液である。
262	乳酸桿菌／エゴマ葉発酵エキス液	本品は、エゴマ <i>Perilla frutescens</i> の葉を基質として、乳 酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵したもののエキスをろ過 して得られる液である。
263	乳酸桿菌／エゾウコギ根エキス発 酵液	本品は、エゾウコギ根エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ る。
264	乳酸桿菌／エリオジクチオンカリ ホルニクム発酵エキス	本品は、 <i>Eriodictyon californicum</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。
265	乳酸桿菌／（オウゴン根／チャ葉／ ヨモギ葉／ドクダミ葉／ユズ果実） エキス発酵液	本品は、オウゴン <i>Scutellaria baicalensis</i> の根、チャノキ <i>Camellia Sinensis</i> の葉、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の葉、 ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の葉及びユズ <i>Citrus junos</i> の果実のエキスを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> に より発酵した後、ろ過して得られる液である。
266	乳酸桿菌／オオウキモ発酵液	本品は、オオウキモ（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ る。
267	乳酸桿菌／オタネニンジン根エキ ス発酵液	本品は、オタネニンジン根エキス（＊）を基質として、乳酸 桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる 液である。
268	乳酸桿菌／オタネニンジン根発酵 液	本品は、オタネニンジンの根を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる液である。
269	乳酸桿菌／オリーブ葉発酵エキス	本品は、オリーブ <i>Olea europaea</i> の葉を基質として、乳酸桿 菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。
270	乳酸桿菌／（オレンジ果皮／ニンジ ン根／（リンゴ／キュウリ／レモ ン）果実）エキス発酵液	本品は、リンゴ果実エキス（＊）、オレンジ果皮エキス（＊）、 キュウリ果実エキス（＊）、レモン果実エキス（＊）及びニン ジン根エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
271	乳酸桿菌／カカオ果実発酵液	本品は、カカオ <i>Theobroma cacao</i> の果実を基質として、乳酸 桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる 液である。
272	乳酸桿菌／加水分解コラーゲン発 酵液エキス	本品は、加水分解コラーゲン（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液のエ

No.	成分名称	定義
		キスである。
273	乳酸桿菌／加水分解（ハチミツ／サトウキビ／（タラノキ／スギナ／ツキミソウ／アマチャヅル／セイヨウニワトコ／アンゲリカフルシジュガ／チャ／チャ／クマザサ／ドクダミ／ビワ／クコ／カキ／ヨモギ）葉／レイシ子実体／ハトムギ種子）発酵エキス液	本品は、ハチミツ、サトウキビ、タラノキ <i>Aralia elata</i> の葉、スギナ <i>Equisetum arvense</i> の葉、ツキミソウ <i>Oenothera tetraptera</i> の葉、アマチャヅル <i>Gynostemma pentaphyllum</i> の葉、セイヨウニワトコ <i>Sambucus nigra</i> の葉、 <i>Angelica furcijuga</i> の葉、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> の葉、チャノキ <i>Thea sinensis</i> の葉、クマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の葉、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の葉、クコ <i>Lycium chinense</i> の葉、カキ <i>Diospyros kaki</i> の葉、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の葉、マンネンタケ <i>Ganoderma lucidum</i> の子実体及びハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子の加水分解物を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
274	乳酸桿菌／加水分解ハトムギ種子発酵液エキス	本品は、加水分解ハトムギ種子（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液のエキスである。
275	乳酸桿菌／加水分解ハトムギ胚／胚乳発酵液	本品は、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の胚及び胚乳の加水分解物を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
276	乳酸桿菌／カボチャ果実発酵液	本品は、カボチャの果実を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
277	乳酸桿菌／キノア発酵エキス液	本品は、キノア <i>Chenopodium quinoa</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> にて発酵して得られたもののエキスをろ過して得られる液である。
278	乳酸桿菌／クコ果実エキス発酵液	本品は、クコ果実エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。[<i>Lycium barbarum</i>]
279	乳酸桿菌／ケール葉発酵液	本品は、ケール <i>Brassica oleracea</i> var. <i>acephala</i> の葉を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
280	乳酸桿菌／コメヌカ発酵液	本品は、コメヌカを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
281	乳酸桿菌／コメ発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
282	乳酸桿菌／コメ発酵物	本品は、コメを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
283	乳酸桿菌／（コラーゲン／豆乳）発酵液	本品は、コラーゲン（*）及び豆乳（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
284	乳酸桿菌／コラーゲン発酵液	本品は、コラーゲン（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
285	（乳酸桿菌／サッカロミセス）／アサイヤシ果実エキス発酵液	本品は、アサイヤシ果実エキス（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
286	（乳酸桿菌／サッカロミセス）／カギクマバナルコユリ根茎発酵エキス	本品は、カギクマバナルコユリ <i>Polygonatum sibiricum</i> の根茎を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
287	（乳酸桿菌／サッカロミセス）／加水分解コメヌカ発酵液	本品は、加水分解コメヌカを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
288	（乳酸桿菌／サッカロミセス）／（コメヌカ／チャ葉エキス）発酵物	本品は、コメヌカ（*）を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵したものと、チャ葉エキス（*）を基質として酵母 <i>Saccharomyces</i> で発酵したものから得られるものである。
289	（乳酸桿菌／サッカロミセス）／ステビア葉／茎エキス発酵液	本品は、ステビア葉／茎エキス（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
290	（乳酸桿菌／サッカロミセス／ピチアアノマラ）／（チャ葉エキス／ハチミツ）発酵エキス液	本品は、チャ葉エキス（*）及びハチミツを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び酵母の一種 <i>Pichia anomala</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
291	（乳酸桿菌／サッカロミセス／ピチアアノマラ）／（チャ葉エキス／ヨモギ葉エキス／ハチミツ）発酵液	本品は、チャ葉エキス（*）、ヨモギ葉エキス（*）及びハチミツ（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び酵母の一種 <i>Pichia anomala</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
292	（乳酸桿菌／サッカロミセス／ロドシュードモナス）／（トウミツ／炭酸C a／酵母エキス）発酵液	本品は、酵母エキス（*）、炭酸C a（*）及びトウミツ（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Saccharomyces</i> 及び細菌 <i>Rhodopseudomonas</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
293	乳酸桿菌／サトウキビエキスイ酵液	本品は、サトウキビエキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
294	乳酸桿菌／ザクロ液汁発酵液	本品は、ザクロ果汁（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
295	乳酸桿菌／ザクロ果実発酵エキス	本品は、ザクロ <i>Punica granatum</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
296	乳酸桿菌／ザクロ果汁発酵液	本品は、ザクロ果汁（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
297	乳酸桿菌／シラカンバ樹液発酵物	本品は、シラカンバ樹液（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
298	乳酸桿菌／ジプテリクスオドラタ種子発酵液	本品は、 <i>Dipteryx odorata</i> の種子を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
299	乳酸桿菌／スイカ果実発酵エキス	本品は、スイカ <i>Citrullus vulgaris</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。[<i>Citrullus lanatus</i>]
300	乳酸桿菌／（スイカズラ花エキス／カンゾウ根エキス／マグワ根エキス／クズ根エキス／チョウセンゴミシ果実エキス／オウゴン根エキス／エンジュ花エキス）発酵液	本品は、スイカズラ花エキス（＊）、カンゾウ根エキス（＊）、マグワ根皮エキス（＊）、クズ <i>Pueraria lobata</i> の根のエキス、チョウセンゴミシ果実エキス（＊）、オウゴン根エキス（＊）及びエンジュ花エキス（＊）を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵して得られたものをろ過して得られる液である。
301	乳酸桿菌／スイカズラ花エキス発酵液	本品は、スイカズラ花エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
302	乳酸桿菌／スケルトネマ発酵物	本品は、珪藻類 <i>Skeletonema</i> を乳酸桿菌によって発酵して得られるものである。
303	（乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／（トウミツ／コメヌカ／（ユズ／イチジク／クコ／ヤマモモ／プルーン／ラビットアイブルーベリー／ハイブッシュブルーベリー）果実／（ヨモギ／ビワ／ラベンダー／メリッサ／カブ）葉	本品は、トウミツ、コメヌカ、ユズ <i>Citrus junos</i> の果実、イチジク <i>Ficus carica</i> の果実、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実、ヤマモモ <i>Myrica rubra</i> の果実、プルーン <i>Prunus domestica</i> の果実、ラビットアイブルーベリー <i>Vaccinium ashei</i> の果実、ハイブッシュブルーベリー <i>Vaccinium australe</i> の果実、ヨモギ <i>Artemisia princeps</i> の葉、ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の葉、ラベンダー <i>Lavandula</i>

No.	成分名称	定義
	／（メリッサ／ラベンダー／カブ） 茎／ヒメマツタケ／シイタケ／マイタケ／ヒジキ／マコンブ／ワカメ）発酵液	<i>angustifolia</i> の葉及び茎、コウスイハッカ <i>Melissa officinalis</i> の葉及び茎、カブ <i>Brassica rapa</i> の葉及び茎、ヒメマツタケ <i>Agaricus blazeii</i> 、シイタケ <i>Lentinus edodes</i> 、マイタケ <i>Grifola frondosa</i> 、褐藻類の一種 ヒジキ <i>Hizikia fusiforme</i> 、マコンブ <i>Laminaria japonica</i> 及びワカメ <i>Undaria pinnatifida</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、乳酸菌の一種 <i>Streptococcus thermophilus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
304	（乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／レピジウムメイエニ胚軸発酵液	本品は、 <i>Lepidium meyenii</i> の胚軸を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸菌の一種 <i>Streptococcus thermophilus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
305	乳酸桿菌／スベリヒユ発酵エキス	本品は、スベリヒユ <i>Portulaca oleracea</i> の全草を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
306	乳酸桿菌／セイヨウオトギリソウ花／葉／茎エキス発酵液	本品は、セイヨウオトギリソウ花／葉／茎エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
307	乳酸桿菌／セイヨウシロヤナギ樹皮発酵液	本品は、セイヨウシロヤナギ <i>Salix alba</i> の樹皮を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
308	乳酸桿菌／セイヨウナシ果汁発酵液	本品は、セイヨウナシ果汁を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
309	乳酸桿菌／センチフォリアバラ花エキス発酵液	本品は、センチフォリアバラ花エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
310	乳酸桿菌／ダイコン根発酵液	本品は、ダイコン <i>Raphanus sativus</i> の根を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
311	乳酸桿菌／ダイズエキス発酵液	本品は、ダイズエキスを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
312	乳酸桿菌／ダイズ種子発酵エキス液	本品は、ダイズ種子（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
313	乳酸桿菌／ダイズ発酵エキス	本品は、ダイズを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。

No.	成分名称	定義
314	乳酸桿菌／チノリモ発酵物	本品は、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> によりチノリモ <i>Porphyridium</i> を発酵して得られるものである。
315	乳酸桿菌／（チャカテキン／ゲリジウムクリナレ／マコンブ／ヒトエグサ／レスベラトロール）発酵液	本品は、レスベラトロール、チャノキ <i>Camellia sinensis</i> より得られるカテキン、紅藻の一種 <i>Gelidium crinale</i> 、褐藻の一種マコンブ <i>Laminaria japonica</i> 、緑藻の一種ヒトエグサ <i>Monostroma nitidum</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
316	乳酸桿菌／チャンバイギンセン発酵液	本品は、 <i>Changbai ginseng</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
317	乳酸桿菌／トウガラシ果実発酵エキス	本品は、トウガラシ <i>Capsicum Frutescens</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。[<i>Capsicum annuum</i>]
318	乳酸桿菌／トウキ発酵液	本品は、トウキ <i>Angelica actiloba</i> の全草を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
319	乳酸桿菌／トウキンセンカ花エキス発酵液	本品は、トウキンセンカ花エキス（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
320	乳酸桿菌／豆乳発酵液	本品は、豆乳（*）を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
321	乳酸桿菌／豆乳発酵物	本品は、豆乳（*）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
322	乳酸桿菌／（豆乳／ボタンボウフウ葉／茎）発酵液	本品は、豆乳（*）とボタンボウフウ <i>Peucedanum japonicum</i> の葉及び茎を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
323	乳酸桿菌／トマト果実発酵エキス	本品は、トマト <i>Solanum lycopersicum</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。[<i>Lycopersicon esculentum</i>]
324	乳酸桿菌／トマト発酵エキス	本品は、トマト <i>Solanum lycopersicum</i> を乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
325	乳酸桿菌／ナツメヤシ果実発酵エキス	本品は、ナツメヤシ <i>Phoenix dactylifera</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。
326	乳酸桿菌／（乳／Ca／リン／Mg	本品は、カルシウム、リン、マグネシウム及び亜鉛イオンの

No.	成分名称	定義
	／亜鉛）発酵物	存在下で、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> によって乳を発酵させて得られるものである。
327	乳酸桿菌／（乳固形物／ダイズ油） 発酵物	本品は、乳固形物とダイズ油を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
328	（乳酸桿菌／乳酸球菌／サッカロ ミセス）／豆乳発酵物	本品は、豆乳（＊）を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、 乳酸球菌 <i>Lactococcus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵 して得られるものである。
329	（乳酸桿菌／乳酸球菌）／ツノマタ 発酵液	本品は、紅藻類 ツノマタ <i>Chondrus ocellatus</i> を基質とし て、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸球菌 <i>Lactococcus</i> に より発酵した後、ろ過して得られる液である。
330	乳酸桿菌／乳発酵液	本品は、乳を基質として乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発 酵して得られる液である。
331	乳酸桿菌／ハイビスカス花発酵液	本品は、ハイビスカス <i>Hibiscus sabdariffa</i> の花を基質と して、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得ら れる液である。
332	乳酸桿菌／ハス種子発酵液	本品は、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の種子を基質として、乳酸 桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液で ある。 [<i>Nelumbium speciosum</i>] [<i>Nelumbium nelumbo</i>] [<i>Nymphaea nelumbo</i>]
333	乳酸桿菌／（ハチミツ／カミツレ 花）発酵液	本品は、カミツレ <i>Chamomilla recutita</i> [<i>Matricaria</i> <i>chamomilla</i>]の花及びハチミツ（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液であ る。
334	乳酸桿菌発酵液	本品は、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> の培養液をろ過したもの である。
335	乳酸桿菌／発芽ダイズ発酵液	本品は、発芽したダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、乳酸桿 菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液 である。
336	乳酸桿菌／（ハトムギ種子／ハス種 子／シロガラシ種子／ダイズ種子 ／発芽コメ）エキスを発酵液	本品は、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi ma-yuen</i> の種子、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の種子、シロガラシ <i>Sinapis alba</i> の種子、 ダイズ <i>Glycine max</i> の種子及び発芽コメ（＊）のエキスを基 質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過 して得られる液である。
337	乳酸桿菌／（ハナビラタケ子実体／ グルコース）発酵エキス	本品は、ハナビラタケ <i>Sparassis crispa</i> の子実体及びグル コース（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により 得られる発酵物のエキスである。

No.	成分名称	定義
338	乳酸桿菌／ハマナス果実発酵エキ ス液	本品は、ハマナス <i>Rosa rugosa</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
339	乳酸桿菌／（バンブサアルンジン ア液汁／スクロース）発酵液	本品は、バンブサアルンジンア液汁（＊）とスクロース（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
340	乳酸桿菌／パパイヤ果実発酵エキ ス	本品は、パパイヤ <i>Carica papaya</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
341	乳酸桿菌／パンプキン発酵エキ ス	本品は、ペポカボチャ <i>Cucurbita pepo</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
342	乳酸桿菌／ヒポファエラムノイデ ス発酵液	本品は、 <i>Hippophae rhamnoides</i> を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
343	乳酸桿菌／（ビーン種子エキス／グ ルタミン酸Na）発酵液	本品は、リョクトウ <i>Phaseolus radiatus</i> の種子から得られるエキス及びグルタミン酸Na（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
344	乳酸桿菌／ビチス（ビニフェラ／ラ ブルスカ）果実エキス発酵液	本品は、ビチス（ビニフェラ／ラブルスカ）果実エキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
345	（乳酸桿菌／ピチア／サッカロミ セス）／（コメヌカエキス／リシリ コンブエキス）発酵液	本品は、コメヌカエキス（＊）及びリシリコンブエキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Pichia</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
346	（乳酸桿菌／ピチア／サッカロミ セス）／コメヌカ発酵物	本品は、コメヌカ（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 、酵母 <i>Pichia</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵して得られるものである。
347	乳酸桿菌／ブドウ果汁発酵液	本品は、ブドウ果汁を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
348	乳酸桿菌／プエラリアミリフィカ 根発酵液	本品は、 <i>Pueraria mirifica</i> の根を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
349	乳酸桿菌／ペポカボチャ果実発酵 エキス	本品は、ペポカボチャ <i>Cucurbita pepo</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。

No.	成分名称	定義
350	乳酸桿菌／ペポカボチャ発酵エキス	本品は、ペポカボチャ <i>Cucurbita pepo</i> の果実を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
351	乳酸桿菌／ホエイ発酵物	本品は、ホエイを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
352	乳酸桿菌／ホテイアオイ発酵物	本品は、ホテイアオイ <i>Eichornia crassipes</i> を基質とし、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> によって発酵して得られるものである。
353	乳酸桿菌／マテチャ葉発酵液	本品は、マテチャ <i>Ilex paraguariensis</i> の葉を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
354	乳酸桿菌／マンゴスチン果皮発酵液	本品は、マンゴスチン <i>Garcinia mangostana</i> の果皮を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
355	乳酸桿菌／メマツヨイグサ種子発酵液	本品は、メマツヨイグサ種子（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
356	乳酸桿菌／（モウソウチク茎／ハチミツ）発酵液	本品は、モウソウチク <i>Phyllostachys pubescens</i> の茎及びハチミツを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
357	乳酸桿菌／モウソウチク茎発酵エキス	本品は、モウソウチク <i>Phyllostachys heterocycla</i> の茎を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
358	乳酸桿菌／ライムギ粉発酵物	本品は、ライムギの粉を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られるものである。
359	乳酸桿菌／リョクトウ種子発酵液	本品は、リョクトウ <i>Phaseolus radiatus</i> の種子を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
360	乳酸桿菌／リンゴ果汁発酵液	本品は、リンゴ果汁（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
361	乳酸桿菌／（レイシエキス／シイタケエキス）発酵液	本品は、レイシ <i>Ganoderma lucidum</i> のエキスとシイタケエキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵して得られる発酵液である。
362	乳酸桿菌／（レイシ子実体／クコ果実／葉／トチュウ葉／クマザサ	本品は、マンネンタケ <i>Ganoderma lucidum</i> の子実体、クコ <i>Lycium chinense</i> の果実及び葉、トチュウ <i>Eucommia</i>

No.	成分名称	定義
	葉／ドクダミ葉／茎／エゾウコギ根／キキョウ根）エキス／ハチミツ）発酵液	<i>ulmoides</i> の葉、クマザサ <i>Sasa veitchii</i> の葉、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の葉及び茎、エゾウコギ <i>Acanthopanax senticosus</i> の根[<i>Eleutherococcus senticosus</i>] 及びキキョウ <i>Platycodon grandiflorus</i> の根のエキス及びハチミツを基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
363	乳酸桿菌／レモン果皮発酵エキス	本品は、レモン果皮（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られるもののエキスである。
364	乳酸桿菌／ローヤルゼリー発酵液	本品は、ローヤルゼリー（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
365	乳酸桿菌／ワインエキス発酵液	本品は、ワインエキス（＊）を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
366	乳酸桿菌／ワサビ根発酵エキス	本品は、ワサビ <i>Wasabia Japonica</i> の根を基質として、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により得られる発酵液のエキスである。
367	乳酸球菌／乳発酵溶解質	本品は、乳を基質として、乳酸球菌の一種 <i>Lactococcus lactis</i> により発酵して得られる溶解物である。
368	乳酸球菌／ヒアルロン酸発酵液	本品は、ヒアルロン酸（＊）を基質として、乳酸球菌 <i>Lactococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
369	乳酸球菌／ブドウ果汁発酵液	本品は、ブドウ果汁（＊）を基質として、乳酸球菌 <i>Lactococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
370	（乳酸菌ケフィリ／カンジタケフィル）／乳発酵液	本品は、生乳又は脱脂粉乳を基質とし、乳酸菌 <i>Lactobacillus kefir</i> 及び酵母 <i>Candida kefyr</i> の培養液をろ過したものである。
371	ノカルジオイデス／フィトステロールズ発酵エキス	本品は、フィトステロールズ（＊）を基質として、細菌 <i>Nocardioideis</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
372	バチルス／（アカマツ葉／ゴヨウマツ葉／クロマツ葉／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 、アカマツ <i>Pinus densiflora</i> の葉、ゴヨウマツ <i>Pinus parviflora</i> の葉及びクロマツ <i>Pinus thunbergii</i> の葉を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
373	バチルス／アズキ種子発酵液	本品は、アズキ <i>Vigna Angularis</i> の種子を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
374	バチルス／（アフアニゾメノンフロサクエ／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及び藍藻類の一種 <i>Aphanizomenon flos-aquae</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> に

No.	成分名称	定義
		より発酵した後、ろ過して得られる液である。
375	バチルス／（アミガサタケ／ダイズ）発酵液	本品は、アミガサタケ <i>Morchella Esculenta</i> 及びダイズ を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
376	バチルス／（アンズ種子／ホソバニンジンエキス／アズキ種子／ダイズ種子／コムギフスマ／オナモミ果実エキス）発酵エキス	本品は、ホソバニンジンエキス（*）、コムギフスマ（*）、オナモミ果実エキス（*）、アンズ <i>Prunus armeniaca</i> の種子、アズキ <i>Phaseolus angularis</i> の種子及びダイズ <i>Glycine soja</i> の種子を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
377	バチルス／（イチジク果実／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びイチジク <i>Ficus carica</i> の果実を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
378	バチルス／（ウコン根／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びウコン根（*）を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
379	バチルス／ウメ果実エキス発酵液	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実のエキスを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
380	バチルス／ウンシュウミカン果皮エキス発酵液	本品は、ウンシュウミカン果皮エキス（*）を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
381	バチルス／（オキナワモズク／ダイズ）発酵液	本品は、褐藻類の一種 オキナワモズク <i>Cladosiphon okamuranus</i> 及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
382	バチルス／（カキ葉／ダイズ）発酵エキス液	本品は、カキ <i>Diospyros kaki</i> の葉及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、枯草菌の一種 <i>Bacillus subtilis</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
383	バチルス／（クローバー花／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びアカツメクサ <i>Trifolium pratense</i> の花を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
384	バチルス／グルタミン酸発酵液	本品は、グルタミン酸（*）を基質として、細菌の一種 <i>Bacillus natto</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
385	バチルス／（コウオウソウ花／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びコウオウソウ <i>Tagetes patula</i> の花を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
386	（バチルス／コマモナス／リシニ	本品は、スキムミルク（*）とタイの鱗の加水分解物を基質

No.	成分名称	定義
	バチルス / (スキムミルク/加水分解タイウロコ) 発酵液	として、細菌 <i>Bacillus</i> 、 <i>Comamonas</i> 及び <i>Lysinibacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
387	バチルス / (コメヌカエキス/ダイズエキス) 発酵液	本品は、コメヌカエキス (*) 及びダイズエキス (*) を細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
388	バチルス / (コメヌカ/ハチミツ) 発酵物	本品は、コメヌカ (*) とハチミツ (*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵して得られるものである。
389	バチルス / ダイズ発酵エキス	本品は、ダイズを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
390	バチルス / (ダイズ/葉酸) 発酵エキス	本品は、ダイズ <i>Glycine soja</i> 及び葉酸 (*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。[<i>Glycine max</i>]
391	バチルス / (ツバキ種子/ダイズ) 発酵エキス	本品は、ツバキ <i>Camellia japonica</i> の種子とダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、枯草菌 <i>Bacillus subtilis</i> により得られる発酵物のエキスである。
392	(バチルス/乳酸桿菌/サッカロミセス) / コメヌカ発酵液	本品は、コメヌカ (*) を基質とし、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
393	(バチルス/乳酸桿菌/サッカロミセス) / (コロイド性金/ヒアルロン酸/コメヌカ) 発酵液	本品は、コロイド性金 (*) 中でヒアルロン酸 (*) 及びコメヌカ (*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
394	(バチルス/乳酸桿菌) / ステビア茎エキス発酵液	本品は、ステビア <i>Stevia rebaudiana</i> の茎のエキスを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> と乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
395	(バチルス/乳酸桿菌/ストレプトコッカスサーモフィルス) / ゲットウ葉エキス発酵液	本品は、ゲットウ葉エキス (*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸菌 <i>Streptococcus thermophilus</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
396	(バチルス/乳酸桿菌/ベニコウジ菌) / (コメヌカエキス/ダイズエキス) 発酵液	本品は、コメヌカエキス (*) 及びダイズ <i>Glycine soja</i> の全草のエキスを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus purpureus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
397	バチルス / ハス葉エキス発酵液	本品は、ハス <i>Nelumbo nucifera</i> の葉のエキスを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
398	バチルス発酵物	本品は、細菌 <i>Bacillus</i> の発酵によって得られる物質である。
399	バチルス / (ハトムギ種子/ダイ	本品は、ハトムギ <i>Coix lacryma-jobi Ma-yuen</i> 及びダイズ

No.	成分名称	定義
	ズ) 発酵液	<i>Glycine max</i> の種子を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
400	バチルス／(バラ花／ダイズ) 発酵液	本品は、バラ <i>Rosa spp.</i> の花及びダイズ <i>Glycine soja</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。[<i>Glycine max</i>]
401	バチルス／ヒポファエラムノイデス果実発酵エキス	本品は、 <i>Hippophae rhamnoides</i> の果実を基質として、細菌の一種 <i>Bacillus subtilis</i> により得られる発酵物のエキスである。
402	バチルス／(フユムシナツクサタケエキス／レイシエエキス／イノノツスオブリクウスエキス／シイタケエキス／メシマコブエキス／スエヒロタケエキス／マツタケエキス) 発酵液	本品は、フユムシナツクサタケエキス(※)、レイシエエキス(※)、イノノツスオブリクウスエキス(※)、シイタケエキス(※)、メシマコブエキス(※)、スエヒロタケ <i>Schizophyllum commune</i> のエキス及びマツタケエキス(※)を基質として、枯草菌 <i>Bacillus subtilis</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
403	(バチルス／ベニコウジ菌)／(アカメガシワ葉／ダイズ) 発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びアカメガシワ <i>Mallotus japonicus</i> の葉を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
404	(バチルス／ベニコウジ菌)／(ウツボグサ花／葉／ダイズ) 発酵液	本品は、ウツボグサ <i>Prunella vulgaris</i> の花、葉及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
405	(バチルス／ベニコウジ菌)／(ウド根／ダイズ) 発酵液	本品は、ウド <i>Aralia cordata</i> の根及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
406	(バチルス／ベニコウジ菌)／(エゾウコギ根／ダイズ) 発酵液	本品は、エゾウコギ <i>Acanthopanax senticosus</i> の根及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
407	(バチルス／ベニコウジ菌)／(オクラ芽／コメヌカ) 発酵液	本品は、オクラ <i>Abelmoschus esculentus</i> の芽及びコメヌカ(※)を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
408	(バチルス／ベニコウジ菌)／(キャビア／コメヌカ) 発酵液	本品は、キャビア及びコメヌカ(※)を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
409	(バチルス／ベニコウジ菌)／(クリル／ダイズ) 発酵液	本品は、ダイズ及びナンキョクオキアミ <i>Euphausia superba</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i>

No.	成分名称	定義
		により発酵した後、ろ過して得られる液である。
410	(バチルス／ベニコウジ菌) / (コメヌカ／マンジュギク芽) 発酵液	本品は、コメヌカ(*) 及びマンジュギク <i>Tagetes erecta</i> の芽を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
411	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ゴマ種子／ダイズ) 発酵液	本品は、ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の種子及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
412	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ザクロ果実／ダイズ) 発酵液	本品は、ザクロ <i>Punica granatum</i> の果実及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
413	(バチルス／ベニコウジ菌) / (シソ芽／コメヌカ) 発酵液	本品は、シソ <i>Perilla ocymoides</i> の芽及びコメヌカを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
414	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ドクダミ葉／コメヌカ) 発酵液	本品は、ドクダミ <i>Houttuynia cordata</i> の葉及びコメヌカを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
415	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ナズナ葉／コメヌカ) 発酵液	本品は、ナズナ <i>Capsella bursa-pastoris</i> の葉及びコメヌカ(*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
416	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ナツメ果実／ダイズ) 発酵液	本品は、ナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の果実及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
417	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ヒメガマ花／ダイズ) 発酵液	本品は、ヒメガマ <i>Typha angustifolia</i> の花及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
418	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ピスタチオ果実／ダイズ) 発酵液	本品は、ピスタチオ <i>Pistacia vera</i> の果実及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
419	(バチルス／ベニコウジ菌) / (ブドウ芽／コメヌカ) 発酵液	本品は、ブドウ <i>Vitis vinifera</i> の芽及びコメヌカを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
420	(バチルス／ベニコウジ菌) / (プルケネチアボルビリス種子／コメヌカ) 発酵液	本品は、 <i>Plukenetia volubilis</i> の種子及びコメヌカ(*) を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
421	(バチルス／ベニコウジ菌) / (マルキンカン果実／ダイズ) 発酵液	本品は、マルキンカン <i>Fortunella japonica</i> の果実及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
		ウジ菌の一種 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
422	(バチルス／ベニコウジ菌)／(ユスラウメ果実／ダイズ) 発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びユスラウメ <i>Prunus tomentosa</i> の果実を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である
423	(バチルス／ベニコウジ菌)／(ラベンダー芽／コメヌカ) 発酵液	本品は、ラベンダー <i>Lavandula angustifolia</i> の芽及びコメヌカ(*)を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
424	(バチルス／ベニコウジ菌)／(ルリジサ種子／ダイズ) 発酵液	本品は、ルリジサ <i>Borago officinalis</i> の種子及びダイズ <i>Glycine max</i> を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> 及びベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
425	バチルス／マコモ発酵液	本品は、マコモ <i>Zizania latifolia</i> の全草を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
426	バチルス／マコモ葉発酵エキス	本品は、マコモ <i>Zizania latifolia</i> の葉を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により得られる発酵物のエキスである。
427	バチルス／(ムラサキ根／ダイズ) 発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びムラサキ <i>Lithospermum erythrorhizon</i> の根を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
428	バチルス／(ラレアメキシカナ／ダイズ) 発酵液	本品は、 <i>Larrea mexicana</i> の全草及びダイズ <i>Glycine soja</i> の種子 [<i>Glycine max</i>] を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
429	バチルス／(リュウガン果実／ダイズ) 発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びリュウガン <i>Dimocarpus Longan</i> の果実を基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
430	バチルス／(ローズマリー葉／ダイズ) 発酵エキス液	本品は、ローズマリー <i>Rosemarinus officinalis</i> の葉及びダイズ <i>Glycine soja</i> を基質として、枯草菌 <i>Bacillus subtilis</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。 [<i>Glycine max</i>]
431	バチルス／(ローヤルゼリー／ダイズ) 発酵液エキス	本品は、ローヤルゼリー(*)及びダイズを基質として、細菌 <i>Bacillus</i> により発酵した後、ろ過して得られる発酵液のエキスである。
432	バレイショ発酵物	本品は、ジャガイモ <i>Solanum tuberosum</i> の根の抽出物を発酵させたものである。
433	パエシロミセスジャポニカ菌糸体／オタネニンジン根発酵エキス液	本品は、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根を基質として、 <i>Paecilomyces japonica</i> の菌糸体により発酵したもののエ

No.	成分名称	定義
		キスをろ過して得られる液である。
434	パエシロミセスジャポニカ／サウスレアインボルクラタ発酵エキス液	本品は、 <i>Saussurea involucrata</i> を基質として、 <i>Paecilomyces japonica</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
435	パエシロミセスジャポニカ／シカ角発酵エキス液	本品は、シカの角を基質として、真菌の一種 <i>Paecilomyces japonica</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
436	パントエアアグロメランス／コムギ粉発酵エキス	本品は、小麦粉を基質として、細菌の一種 <i>Pantoea agglomerans</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
437	パントエア／コメヌカ発酵エキス液	本品は、コメヌカ（＊）を基質として、細菌 <i>Pantoea</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
438	パントエアバガンス／エリンギウムマリチムムカルス発酵エキス液	本品は、 <i>Eryngium maritimum</i> のカルスを基質として、細菌の一種 <i>Pantoea vagans</i> により発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
439	パントエアバガンス／（リンゴ液汁／ウメ果実）発酵エキス液	本品は、ウメ <i>Prunus mume</i> の果実及びリンゴ <i>Malus pumila</i> [<i>Pyrus malus</i>] の液汁を基質として、細菌の一種 <i>Pantoea vagans</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
440	（ビフィズス菌／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／（豆乳／脱脂乳）発酵エキス	本品は、豆乳（＊）又は脱脂乳を基質とし、ビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> 、 <i>Enterococcus faecium</i> 、 <i>Lactobacillus thermophilus</i> 及び <i>Streptococcus thermophilus</i> により得られる発酵液のエキスである。
441	（ビフィズス菌／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／（豆乳／脱脂乳）発酵物	本品は、豆乳（＊）又は脱脂乳を基質としビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> 、 <i>Enterococcus faecium</i> 、 <i>Lactobacillus thermophilus</i> 及び <i>Streptococcus thermophilus</i> により発酵して得られる固形分である。
442	（ビフィズス菌／エンテロコッカスファエシウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカスサーモフィルス）／豆乳発酵カード	本品は、豆乳（＊）を基質として、ビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> 、細菌の一種 <i>Enterococcus faecium</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸菌の一種 <i>Streptococcus thermophilus</i> により発酵して得られる固形分である。
443	ビフィズス菌／ダイズエキス発酵物	本品は、ダイズエキス（＊）を基質として、ビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> により発酵して得られるものである。
444	ビフィズス菌発酵液	本品は、ビフィズス菌 <i>Bifida</i> の発酵物をろ過して得られる液である。

No.	成分名称	定義
445	ビフィズス菌発酵エキス	本品は、ビフィズス菌の一種 <i>Bifidobacterium longum</i> の培養物のエキスである。
446	(ビフィドバクテリウム／乳酸桿菌／ストレプトコッカス)／サンシチニンジン根茎／根エキス発酵液	本品は、サンシチニンジン <i>Panax notoginseng</i> の根茎及び根を基質として、ビフィズス菌 <i>Bifidobacterium</i> 、乳酸桿菌 <i>Lactobacillus</i> 及び乳酸菌 <i>Streptococcus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
447	ピチア／オタネニンジン根発酵液	本品は、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根を基質として、酵母 <i>Pichia</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
448	ピチア／ベニバナ花発酵液	本品は、ベニバナ <i>Carthamus tinctorius</i> の花を基質として、酵母 <i>Pichia</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
449	ピチア／レスベラトロール発酵エキス	本品は、レスベラトロール（＊）を基質として、酵母 <i>Pichia</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである
450	フェリヌスバウミイ菌糸体／オタネニンジン根発酵エキス液	本品は、オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> の根を基質として、真菌の一種 <i>Phellinus baumii</i> の菌糸体で発酵したもののエキスをろ過して得られる液である。
451	ブドウ果汁発酵粕油	本品は、ブドウ果汁（＊）の発酵粕から得られる精油である。
452	プセウドジマエピコラ／アルガニアスピノサ核油発酵液	<i>epicola</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
453	セウドジマエピコラ／（アンズ核油／オリーブ果実油／アーモンド油／ヒマワリ種子油／カンゾウ根エキス）発酵エキス液	本品は、アンズ核油（＊）、オリーブ果実油（＊）、アーモンド油（＊）、ヒマワリ種子油（＊）及びカンゾウ根エキス（＊）を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
454	プセウドジマエピコラ／（アンズ核油／オリーブ果実油／アーモンド油／ヒマワリ種子油／ヨモギエキス）発酵エキス液	本品は、アンズ核油（＊）、オリーブ果実油（＊）、アーモンド油（＊）、ヒマワリ種子油（＊）及びヨモギエキス（＊）を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
455	ウドジマエピコラ／（アンズ核油／オリーブ果実油／ヒマワリ種子油／アーモンド油／オタネニンジン根エキス）発酵エキス液	本品は、アンズ核油（＊）、オリーブ果実油（＊）、ヒマワリ種子油（＊）、アーモンド油（＊）及びオタネニンジン根エキス（＊）を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
456	プセウドジマエピコラ／（アンズ核油／オリーブ果実油／ヒマワリ種子油／アーモンド油／オニノダケ根エキス）発酵エキス液	本品は、アンズ核油（＊）、オリーブ果実油（＊）、ヒマワリ種子油（＊）、アーモンド油（＊）及びオニノダケ根エキス（＊）を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
457	プセウドジマエピコラ／（アンズ核	本品は、アンズ核油（＊）、オリーブ果実油（＊）、ヒマワリ

No.	成分名称	定義
	油／オリーブ果実油／ヒマワリ種子油／アーモンド油／ハンゲショウエキス) 発酵エキス液	種子油(＊)、アーモンド油(＊) 及びハンゲショウエキス(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
458	プセウドジマエピコラ／(アンズ核油／オリーブ果実油／ヒマワリ種子油／アーモンド油／ヤクモソウエキス) 発酵エキス液	本品は、アンズ核油(＊)、オリーブ果実油(＊)、ヒマワリ種子油(＊)、アーモンド油(＊) 及びヤクモソウエキス(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
459	プセウドジマエピコラ／オリーブ果実油発酵液	本品は、オリーブ果実油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
460	プセウドジマエピコラ／(ダイズ粉／アルガニアスピノサ核油) 発酵液	本品は、アルガニアスピノサ核油(＊) 及びダイズ粉(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma Epicola</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
461	プセウドジマエピコラ／(ダイズ粉／オリーブ果実油) 発酵液	本品は、オリーブ果実油(＊) 及びダイズ粉(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> で発酵した後、ろ過して得られる液である。
462	プセウドジマエピコラ／(チャ種子油／グルコース／ダイズ粉／バクガエキス／酵母エキス) 発酵液	本品は、チャ種子油(＊)、グルコース(＊)、ダイズの粉、バクガエキス(＊) 及び酵母エキス(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
463	プセウドジマエピコラ／チャ種子油発酵エキス液	本品は、チャ種子油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
464	プセウドジマエピコラ／ツバキ種子油発酵エキス液	本品は、ツバキ種子油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
465	プセウドジマエピコラ／ヒマワリ種子油発酵エキス液	本品は、ヒマワリ種子油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
466	プセウドジマエピコラ／ベニバナ種子油発酵エキス液	本品は、ベニバナ種子油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である
467	プセウドジマエピコラ／マカデミア種子油発酵エキス液	本品は、マカデミア種子油(＊) を基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
468	プセウドジマエピコラ／メドウフ	本品は、メドウフォーム種子油(＊) を基質として、酵母の

No.	成分名称	定義
	オーム種子油発酵エキス液	一種 <i>Pseudozyma epicola</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
469	プセウドジマツクバエンシス／（オリーブ油／グリセリン／ダイズタンパク）発酵物	本品は、オリーブ油、グリセリン及びダイズタンパクを基質として、酵母の一種 <i>Pseudozyma tsukubaensis</i> により発酵して得られるものである。
470	（プルット果実／スクロース）発酵液	本品は、スクロースをプルット <i>Citrus hystrix</i> の果実とともに自然発酵した後、ろ過して得られる液である。
471	ベニコウジ菌／（アサイヤシ果実／コチョウラン花／コメヌカ）発酵液	本品は、アサイヤシ <i>Euterpe oleracea</i> の果実、コチョウラン <i>Phalaenopsis amabilis</i> の花及びコメヌカ（*）を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
472	ベニコウジ菌／（アサイヤシ果実／コメヌカ）発酵液	本品は、コメヌカ（*）及びアサイヤシ <i>Euterpe oleracea</i> の果実を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
473	ベニコウジ菌／（アシタバ葉／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> 及びアシタバ <i>Angelica keiskei</i> の葉を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
474	ベニコウジ菌／アルガニアスピノサ油粕発酵油	本品は、 <i>Argania spinosa</i> の油粕を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵して得られる油である。
475	ベニコウジ菌／（ウコン根／コメヌカ）発酵エキス液	本品は、ベニコウジ菌／（ウコン根／コメヌカ）発酵物（*）のエキスをろ過して得られる液である。
476	ベニコウジ菌／（ウコン根／コメヌカ）発酵物	本品は、ウコン根（*）及びコメヌカ（*）をベニコウジ菌 <i>Monascus</i> で発酵したものである。
477	ベニコウジ菌／ウコン発酵物エキス	本品は、ウコンベニコウジ菌発酵物（*）のエキスである。
478	ベニコウジ菌／コメ発酵液	本品は、コメを基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus purpureus</i> により発酵して得られるものである。
479	ベニコウジ菌／コメ発酵エキス	本品は、コメを基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により得られる発酵物のエキスである。
480	ベニコウジ菌／（サンシュユ果実／コメヌカ）発酵液	本品は、コメヌカ（*）及びサンシュユ <i>Cornus officinalis</i> の果実を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
481	ベニコウジ菌／（フウラン花／コメヌカ）発酵液	本品は、コメヌカ（*）及びフウラン <i>Neofinetia falcata</i> の花を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
482	ベニコウジ菌／（ボタン花／コメヌカ）発酵液	本品は、ボタン <i>Paeonia suffruticosa</i> の花及びコメヌカを

No.	成分名称	定義
	カ) 発酵液	基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
483	ベニコウジ菌／（メコノプシスホリデュラ花／コメヌカ）発酵液	本品は、 <i>Meconopsis Horridula</i> の花及びコメヌカを基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
484	ベニコウジ菌／（ラベンダー花／コメヌカ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> とレタス <i>Lactuca sativa</i> の根を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
485	ベニコウジ菌／（レタス根／ダイズ）発酵液	本品は、ダイズ <i>Glycine max</i> とレタス <i>Lactuca sativa</i> の根を基質として、ベニコウジ菌 <i>Monascus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
486	ホウロクタケ／ヒアルロン酸Na発酵液	本品は、ヒアルロン酸Na（＊）を基質として、真菌類の一種 ホウロクタケ <i>Daedalea dickinsii</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
487	マイタケ／ヒロハハナヤスリエキス発酵液	本品は、ヒロハハナヤスリエキス（＊）をマイタケ <i>Grifola frondosa</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
488	メシマコブ／イノノツスオブリクウスエキス発酵液	本品は、イノノツスオブリクウスエキス（＊）をメシマコブ <i>Phellinus linteus</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
489	メシマコブ／コメ発酵エキス	本品は、コメを基質として、メシマコブ <i>Phellinus linteus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。
490	モウソウチク発酵液	本品は、モウソウチク <i>Phyllostachys heterocycla</i> の全草を発酵して得られる液である。
491	ユーグレナ／オレイン酸発酵物	本品は、オレイン酸（＊）を基質として、ヒメミドリムシ <i>Euglena gracilis</i> により発酵して得られるものである。
492	ラカンセア／加水分解コメ発酵液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）の加水分解物を基質として、酵母 <i>Lachancea</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である
493	ラカンセア／加水分解発芽コメ発酵溶解質液	本品は、発芽コメ（＊）の加水分解物を基質として、酵母 <i>Lachancea</i> により発酵して得られる溶解物をろ過して得られる液である。
494	ラネラ／ダイズタンパク発酵物	本品は、ダイズタンパク（＊）を細菌 <i>Rahnella</i> で発酵して得られるものである。
495	リゾプス／コメ発酵エキス	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子（コメ）を基質として、真菌 <i>Rhizopus</i> により発酵して得られる発酵物のエキスである。

No.	成分名称	定義
496	リゾプス／コメ発酵エキス液	本品は、イネ <i>Oryza sativa</i> の種子を基質として、真菌 <i>Rhizopus</i> により発酵して得られるもののエキスをろ過して得られる液である。
497	リゾプス／コメ発酵物	本品は、コメを基質として、真菌 <i>Rhizopus</i> により発酵して得られるものである。
498	(リゾプス／サッカロミセス)／コラーゲン発酵液	本品は、コラーゲンを基質として、真菌 <i>Rhizopus</i> 及び酵母 <i>Saccharomyces</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
499	リゾプス／ダイズ発酵エキス液	本品は、真菌の一種 <i>Rhizopus</i> によりダイズを発酵して得られるもののエキスのろ液である。
500	レウコノストック／(アロエベラ葉／セイヨウナナカマド果実)発酵液	本品は、セイヨウナナカマド <i>Sorbus aucuparia</i> の果実及びアロエベラ <i>Aloe barbadensis</i> の葉を基質として、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
501	レウコノストック／コメ発酵液エキス	本品は、コメを基質として、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液のエキスである。
502	レウコノストック／ダイコン根発酵液	本品は、ダイコン <i>Raphanus Sativus</i> の根を基質として 乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> で発酵した物をろ過して得られる液である。
503	レウコノストック／ブドウ果汁発酵液	本品は、ブドウ果汁(*)を基質として、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である。
504	レウコノストック／ヘチマ茎液発酵液	本品は、ヘチマ <i>Luffa cylindrica</i> の茎から流出してくる液を基質として、乳酸菌 <i>Leuconostoc</i> により発酵した後、ろ過して得られる液である
505	ロドシュードモナス／PABA発酵物	本品は、パラアミノ安息香酸(PABA(*))を細菌の一種 <i>Rhodopseudomonas sphaeroides</i> により発酵して得られるものである。

[出典：日本化粧品工業連合会]

カ M&A の状況

(1) M&A の概要

年	企業名	エリア				M&A の主な目的			
		日本	アジア	欧米ほか	国名	資本提携	業務提携	買収売却	M&A の狙い (契約企業) ● : 提携、買収・売却 ▲ : 提携解消
2011 年	ポーラ・オルビス		●		オーストラリア			●	子会社化、販売拠点拡大 (Jurlique International Pty)
2014 年	コーセー		●		米国			●	子会社化、海外事業強化 (Tarte, Inc.)
2015 年	ドクターシーラボ		●		タイ		●		代理店契約 (森友通商)
2016 年	山田養蜂場	●			●			●	子会社化、販路拡大 (pdc)
	資生堂			●	フランス			●	譲渡 (PUIG, S.L.)
	資生堂			●	イタリア		●		ライセンス契約 (DOLCE&GABBANA S.R.L.)
	資生堂			●	米国			●	買収、海外事業強化 (Gurwitch Products, LLC)
	大正製薬	●			日本			●	子会社化、通販強化 (ドクタープログラム)
2017 年	コーセー	●			日本	●	●		新会社設立 (ミルボン)
	花王			●	米国			●	買収、海外事業強化 (Oribi Hair Care)
	資生堂			●	米国			●	買収、AI 技術活用 (Giaran Inc.)
2018 年	資生堂		●		香港		●		共同開発、販路拡大 (ワトソンズグループ)
	資生堂			●	米国			●	買収、セカンドスキン技術 (Olivo)
	マンダム		●		マレーシア			●	買収、海外事業強化 (ACG INTERNATIONAL SDN. BHD)

年	企業名	エリア				M&A の主な目的			
		日本	アジア	欧米ほか	国名	資本提携	業務提携	買収売却	M&A の狙い（契約企業） ●：提携、買収・売却 ▲：提携解消
2018 年	ヤーマン	●			日本			●	買収、商品力強化（ディーフィット）
	シーズ・ホールディングス			●	米国			●	売却（ジョンソン・エンド・ジョンソンによる買収）
	ビューティガレージ		●		台湾			●	買収、事業強化（千冠莉）
2019 年	ポーラ・オルビス		●		中国		●		越境 EC での拡販（Tmall Global）
	資生堂			●	米国			●	買収、事業拡大（Drunk Elephant Holdings, LLC）
	資生堂			●	米国		●		ライセンス提携（Tory Burch LLC）
	資生堂		●		中国		●		EC 強化（Alibaba Group Holding Limited）
	ナリス化粧品	●			日本			●	合併、販売強化（ナリスアップコスメティクス）
	ファンケル	●			日本	●			事業強化（麒麟ホールディングスが株式取得）
2021 年	資生堂	●			日本			●	日用品事業売却（予定）

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

（2）主な内容

企業名	主な内容
ポーラ・オルビスホールディングス	2011 年 11 月、ポーラ・オルビスホールディングスは Jurlique International Pty の株式を取得し、完全子会社化した。Jurlique 社は無農薬有機農法により自社農園で栽培した天然植物のオーガニック原料にこだわるメーカーで、世界 20 カ所の国・地域に子会社や代理店を通じて事業を展開している。Jurlique 社を子会社化することでエイジング・ホワイトニングといった機能性の高い製品とのシナジー創出を狙う。
ポーラ・オルビスホールディングス	オルビスは、日本初の肌トクホサプリメント「オルビス ディフェンセラ」について、中国のアリババグループが運営する越境 EC プラットフォーム「天猫国際（Tmall Global）」と戦略提携し、2019 年 2 月から販売を開始した。

企業名	主な内容
コーセー	2014 年、コーセーは Tarte, Inc. の株式を取得し、子会社化した。Tarte 社は米国を中心に天然由来成分配合のスキンケアおよびメイクアップ製品を展開している。同社の子会社化によって、主にアジア・アセアンを中心に行ってきた海外展開を今後は成長市場や未進出の国の展開を視野に入れ、グループ化を加速していく。
コーセー	2017 年 1 月、ミルボンはコーセーと資本業務提携を締結し、コーセーミルボンコスメティクス株式会社を同年 7 月に設立した。
山田養蜂場	2016 年 12 月、山田養蜂場はポーラ・オルビスホールディングスの子会社 pdc の全株式を譲り受けた。pdc はドラッグストア向けにスキンケア用品「ピュアナチュラル」を提供している。山田養蜂場は PDC の子会社化により、ドラッグストアやスーパーなどへの販路拡大を見込む。
花王	2017 年 12 月、米国の子会社である花王 USA Inc. を通じて、ヘアサロン向けヘアケア製品のスーパープレミアムブランド Oribe Hair Care を譲受した。花王グループのヘアケア事業の今後のグローバル成長のための布石と位置づけている。
資生堂	資生堂は、2016 年 1 月、資生堂子会社が持つ Jean Paul GAULTIER のフレグランスに関する知的財産権をフランスの PUIG, S.L. へ譲渡した。
資生堂	2016 年、イタリアのラグジュアリーファッションブランドを展開する DOLCE&GABBANA S.R.L. (ドルチェ&ガッバーナ) とフレグランス、メーキャップ、スキンケア商品の開発、生産および販売に関する独占グローバルライセンス契約を締結した。
資生堂	2016 年、資生堂は米国の連結子会社 Shiseido Americas Corporation を通じてプレステージ市場においてメーキャップおよびスキンケアブランドをグローバルで展開する Gurwitch Products, LLC (ガーウィッチ) を買収した。
資生堂	2017 年 11 月、資生堂は米国の連結子会社 Shiseido Americas Corporation を通じて米国のベンチャー企業 Giaran Inc. を譲受した。Giaran 社は AI 技術を活用してディープラーニング、データマイニング、予測モデリングの新しいアルゴリズムを開発している。この技術を活用し、顧客一人ひとりに最適な情報を提供し、新しい消費者体験を生み出す意向である。
資生堂	2018 年 1 月、資生堂は米国の連結子会社 Shiseido Americas Corporation を通じて米国のベンチャー企業 Olivo Laboratories を譲受した。これにより Olivo 社のもつ XPLTM (架橋ポリマーフィルム) 技術を応用したセカンドスキンおよび関連事業を取得した。
資生堂	H&B 分野で世界最大のドラッグチェーンであるワトソンズグループ (中国香港) と、敏感肌向けブランド「d プログラム」の「アーバンダメージケア」シリーズを共同で開発し、ワトソンズの店舗と EC サイトで限定販売した。同シリーズは 2018 年 10 月からのタイと台湾での販売に続き、2019 年 7 月に中国でも発売した。

企業名	主な内容
資生堂	2019 年 10 月、アメリカ地域本社 Shiseido Americas Corporation（米国デラウェア州）を通じて、米国市場を中心に急成長を続けるブランド「DRUNK ELEPHANT（ドラunk エレファント）」を所有する Drunk Elephant Holdings, LLC の全株式を 900 億円（約 8 億 4500 万米ドル、約 905 億円）で取得すると発表した。
資生堂	2019 年 8 月、アメリカ地域本社 Shiseido Americas Corporation（米国デラウェア州）を通じて、Tory Burch LLC とグローバル独占ライセンス契約を締結した。
資生堂	資生堂（中国）投資有限公司を通じて、2019 年 3 月に世界最大手 E コマース企業の Alibaba Group Holding Limited（中国杭州）と強固な戦略的パートナーシップの実現を目的に戦略業務提携を締結した。資生堂の研究開発力と、アリババグループの持つビッグデータと消費者インサイトを融合することにより、商品開発、ブランドマーケティング、E コマース、CRM 等の幅広い領域を強化する。
資生堂	2021 年 1 月、資生堂は 2021 年上半期をめどにヘアケアやスキンケアなどを手掛ける日用品事業を欧州系投資ファンドの CVC キャピタル・パートナーズに売却する方向で検討していると発表した。
マンダム	2018 年 11 月、マンダムは ACG INTERNATIONAL SDN. BHD の株式を取得し、完全子会社化した。ACG インターナショナル社はマレーシアを中心に若年層の女性向けメイクアップブランド「SILKYGIRL」の企画・販売を展開している。ACG 社を完全子会社化することで、今後、東南アジアにおけるグループの存在感を高めていく。
ナリス化粧品	2019 年 4 月、ナリス化粧品は子会社のナリスアップコスメティクスと合併した。訪問販売を主力とするナリスとセルフコスメ市場を強みとするナリスアップコスメティクスが合併することで、販売促進力やイベント展開力などの経営資源を効率的に活用し、顧客満足度の高い製品開発やサービス提供を行うことでナリスブランドを向上させる。
ヤーマン	2018 年 9 月、美容・健康機器メーカーのヤーマンがディーフィットの発行済株式 100% を取得し、子会社化した。ディーフィットは、金沢の金箔製造業を発祥とする和コスメブランド「まかないこすめ」を展開している。ヤーマンは「Beauty secret from Japan」というディーフィットの商品展開コンセプトを活かし、中国などの海外での Made in Japan としてのブランド価値の向上とシナジー効果を見込んでいる。
ファンケル	2019 年 8 月、キリンホールディングスは健康領域で両社の強みを生かすため化粧品・健康食品メーカーのファンケルと資本提携すると発表した。キリンHDは、ファンケルの発行済み株式の 30.3%（議決権割合で 33%）を 1,293 億円で取得する。
大正製薬	2016 年 12 月、大正製薬はキョーリン製薬ホールディングスの連結子会社ドクタープログラム全株式を取得し、完全子会社化した。ドクタープログラムはスキンケア「トリニティーライン」を主軸に通信販売での展開を行っている。子会社化によってスキンケアの拡充と通信販売の強化を図っていく。

企業名	主な内容
シーズ・ホールディングス	2018 年、米国ジョンソン・エンド・ジョンソンが「ドクターシーラボ」を展開するシーズ・ホールディングスに対して TOB を発表した。2019 年 1 月、シーズ・ホールディングスに対する総額約 2,300 億円の買収を完了した。
ビューティガレージ	2018 年 8 月、美容サロン用の化粧品などを販売する台湾千冠莉は、プロ向け美容品の通販を行うビューティガレージへ株式譲渡を行い子会社となった。

出典：各社 HP、各種オープンデータより富士経済作成

世界の化粧品市場規模

～ユーロモニターインターナショナルのデータを用いて～

ユーロモニターインターナショナルのデータデータを用いて、小売価格ベースで世界及び上位 15 カ国における市場規模の集計を行った。

1. 用いたデータについて

(1) 利用データ

ユーロモニターインターナショナルの Beauty and Personal Care のうち、サブカテゴリー「Skin Care」、「Sun Care」、「Colour Cosmetics」、「Fragrances」、「Deodorants」、「Hair Care」、「Men's Grooming」を使用し、これらの合計を化粧品の合計とした。また、サブカテゴリーを以下のカテゴリーで分類し、カテゴリーごとの集計を行った。

スキンケア : 「Skin Care」+「Sun Care」

メイクアップ : 「Colour Cosmetics」

フレグランス : 「Fragrances」+「Deodorants」

ヘアケア : 「Hair Care」

メンズ : 「Men's Grooming」

※以下この区分をカテゴリーという。

(2) データのタイプ

小売価格 (Retail Value RSP) ベース

(3) 通貨単位

USD (US ドル)

(4) 過年度 (2005 年～2018 年) の補正

各年のインフレ率を加味、各年の為替で算出

(5) 対象国

World 世界、USA 米国、China 中国、Japan 日本、Brazil ブラジル、Germany ドイツ、United Kingdom 英国、France フランス、South Korea 韓国、India インド、Mexico メキシコ、Italy イタリア、Russia ロシア、Spain スペイン、Taiwan 台湾、Hong Kong, China 香港

※世界及び、日本、韓国、台湾を⇒2019 年ベースの上位 15 カ国

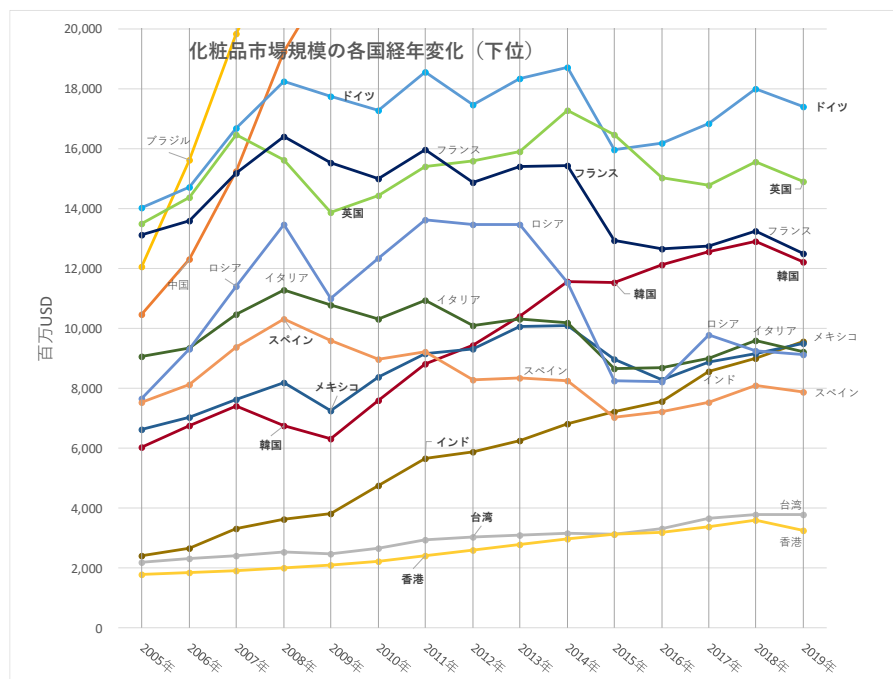
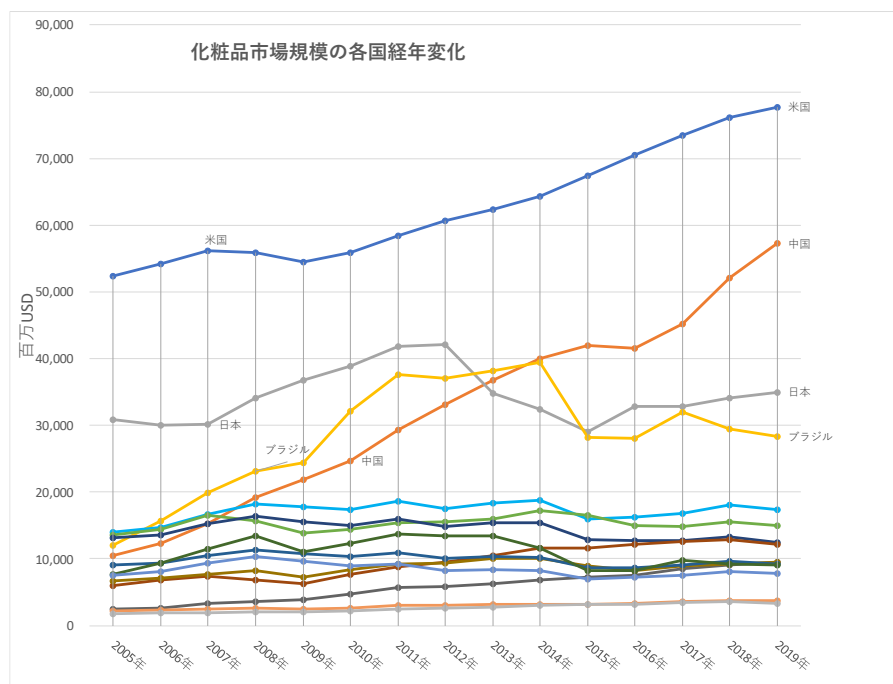
2. 世界及び各国の化粧品市場規模

2-1. 世界

世界の化粧品市場規模経年推移

Country	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
世界	257,641	276,544	309,223	336,379	331,109	356,750	391,467	397,256	405,271	410,535	380,273	385,270	406,225	422,503	426,301
米国	52,317	54,232	56,117	55,842	54,553	55,915	58,500	60,661	62,397	64,354	67,380	70,549	73,433	76,106	77,702
中国	10,493	12,325	15,250	19,255	21,859	24,685	29,342	33,096	36,841	39,940	41,908	41,567	45,152	52,140	57,244
日本	30,850	30,026	30,165	34,111	36,800	38,878	41,853	42,086	34,785	32,398	29,035	32,862	32,785	34,071	35,004
ブラジル	12,083	15,642	19,869	23,098	24,412	32,204	37,679	36,990	38,242	39,453	28,249	28,009	31,970	29,404	28,314
ドイツ	14,046	14,718	16,690	18,260	17,775	17,308	18,583	17,483	18,343	18,738	15,993	16,193	16,840	18,004	17,409
英国	13,506	14,381	16,467	15,633	13,880	14,445	15,402	15,591	15,921	17,298	16,484	15,032	14,784	15,571	14,918
フランス	13,150	13,593	15,197	16,417	15,555	15,016	15,982	14,888	15,412	15,456	12,937	12,668	12,771	13,274	12,499
韓国	6,044	6,757	7,418	6,771	6,317	7,604	8,829	9,444	10,411	11,568	11,552	12,144	12,573	12,929	12,223
インド	2,417	2,649	3,323	3,635	3,830	4,758	5,651	5,869	6,252	6,831	7,222	7,580	8,577	9,007	9,562
メキシコ	6,641	7,054	7,645	8,183	7,272	8,382	9,162	9,328	10,065	10,106	8,964	8,288	8,872	9,168	9,511
イタリア	9,070	9,356	10,468	11,307	10,779	10,330	10,952	10,100	10,318	10,211	8,672	8,697	9,023	9,602	9,231
ロシア	7,677	9,307	11,411	13,471	11,013	12,366	13,644	13,491	13,482	11,538	8,250	8,237	9,789	9,254	9,134
スペイン	7,528	8,133	9,396	10,329	9,611	8,968	9,218	8,285	8,343	8,271	7,030	7,220	7,537	8,091	7,874
台湾	2,210	2,310	2,402	2,537	2,476	2,674	2,957	3,035	3,110	3,149	3,129	3,318	3,658	3,782	3,785
香港	1,787	1,853	1,929	2,020	2,110	2,230	2,416	2,594	2,785	2,988	3,146	3,198	3,386	3,605	3,246

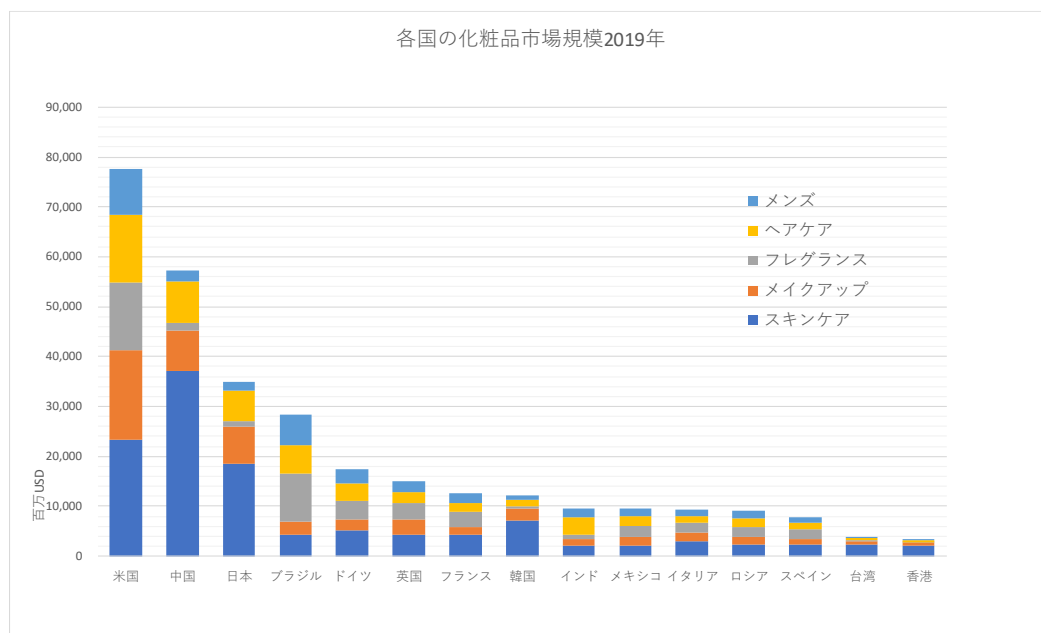
(百万 USD)



各国のカテゴリー別市場規模(2019 年)

	米国	中国	日本	ブラジル	ドイツ	英国	フランス	韓国	インド	メキシコ	イタリア	ロシア	スペイン	台湾	香港	その他	世界
スキンケア	23,237	37,177	18,598	4,355	5,142	4,292	4,215	7,030	2,153	2,185	3,035	2,331	2,218	2,266	2,119	31,392	151,744
メイクアップ	18,002	7,989	7,249	2,552	2,241	2,977	1,580	2,470	1,230	1,636	1,771	1,444	1,155	722	538	18,689	72,245
フレグランス	13,663	1,582	1,189	9,703	3,592	3,446	3,152	571	1,002	2,214	1,906	1,979	2,056	200	193	26,509	72,954
ヘアケア	13,452	8,233	6,034	5,588	3,528	2,009	1,759	1,193	3,497	1,924	1,350	1,883	1,297	455	293	25,513	78,010
メンズ	9,348	2,264	1,934	6,117	2,906	2,194	1,793	959	1,680	1,552	1,168	1,498	1,148	142	103	16,544	51,349
合計	77,702	57,244	35,004	28,314	17,409	14,918	12,499	12,223	9,562	9,511	9,231	9,134	7,874	3,785	3,246	118,646	426,301

(百万 USD)



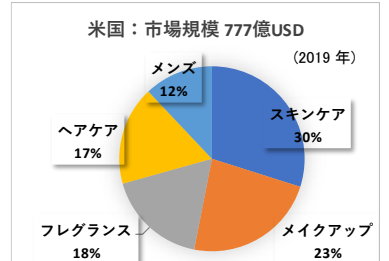
2-2. 米国

カテゴリー別市場規模の経年変化

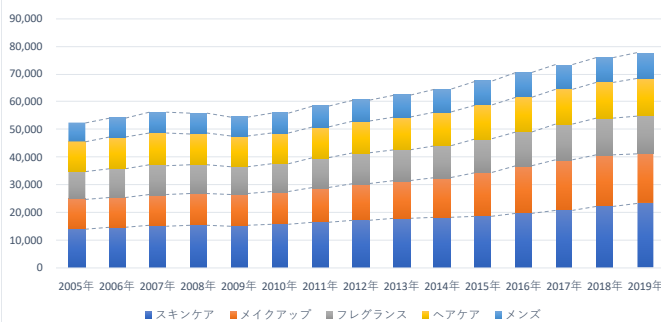
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	13,983	14,503	15,222	15,454	15,275	15,728	16,448	17,160	17,692	18,011	18,688	19,713	20,781	22,259	23,237
メイクアップ	10,671	10,801	11,196	11,395	11,363	11,735	12,359	13,114	13,718	14,473	15,699	17,020	18,177	18,424	18,002
フレグランス	10,114	10,560	10,904	10,516	10,012	10,266	10,771	11,143	11,308	11,615	12,083	12,479	12,897	13,307	13,663
ヘアケア	10,830	11,232	11,514	11,254	10,827	10,919	11,195	11,443	11,654	11,961	12,392	12,529	12,655	12,999	13,452
メンズ	6,719	7,137	7,283	7,224	7,076	7,268	7,726	7,800	8,025	8,294	8,517	8,809	8,922	9,116	9,348
合計 (百万 USD)	52,317	54,232	56,117	55,842	54,553	55,915	58,500	60,661	62,397	64,354	67,380	70,549	73,433	76,106	77,702

カテゴリー別割合の経年変化

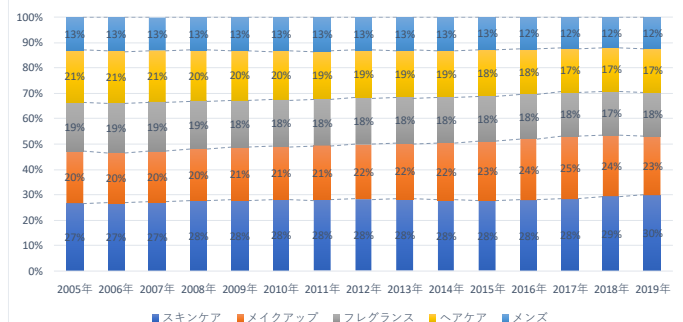
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	27%	27%	27%	28%	28%	28%	28%	28%	28%	28%	28%	28%	28%	29%	30%
メイクアップ	20%	20%	20%	20%	21%	21%	21%	22%	22%	22%	23%	24%	25%	24%	23%
フレグランス	19%	19%	19%	19%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	17%	18%
ヘアケア	21%	21%	21%	20%	20%	20%	19%	19%	19%	19%	18%	18%	17%	17%	17%
メンズ	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	12%	12%	12%	12%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



米国：カテゴリー別市場規模の経年変化



米国：カテゴリー割合の経年変化



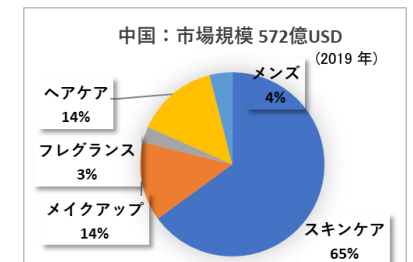
2-3. 中国

カテゴリー別市場規模の経年変化

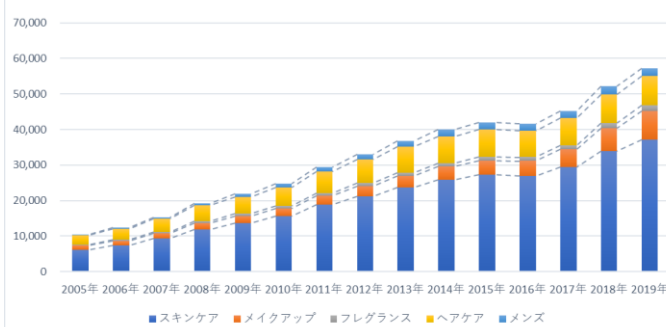
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	6,207	7,404	9,291	11,857	13,733	15,671	18,793	21,226	23,651	25,860	27,215	26,961	29,340	33,896	37,177
メイクアップ	1,090	1,241	1,502	1,849	1,974	2,180	2,573	2,873	3,314	3,698	4,065	4,283	5,114	6,548	7,989
フレグランス	270	332	422	529	591	642	755	843	922	993	1,009	965	1,096	1,339	1,582
ヘアケア	2,656	3,031	3,624	4,397	4,773	5,240	6,011	6,688	7,268	7,564	7,713	7,474	7,614	8,168	8,233
メンズ	271	317	411	623	789	952	1,210	1,466	1,685	1,825	1,907	1,884	1,988	2,189	2,264
合計(百万 USD)	10,493	12,325	15,250	19,255	21,859	24,685	29,342	33,096	36,841	39,940	41,908	41,567	45,152	52,140	57,244

カテゴリー別割合の経年変化

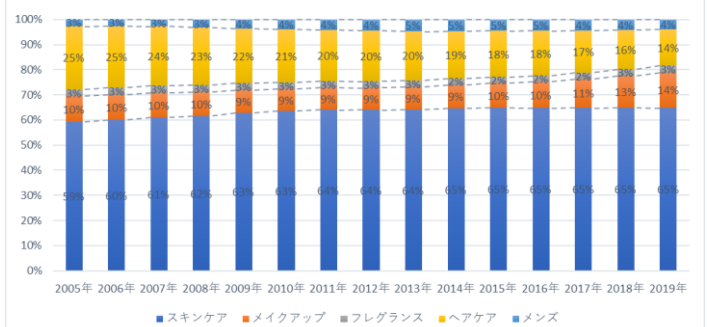
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	59%	60%	61%	62%	63%	63%	64%	64%	64%	65%	65%	65%	65%	65%	65%
メイクアップ	10%	10%	10%	10%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	10%	10%	11%	13%	14%
フレグランス	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	2%	2%	2%	2%	3%	3%
ヘアケア	25%	25%	24%	23%	22%	21%	20%	20%	20%	19%	18%	18%	17%	16%	14%
メンズ	3%	3%	3%	3%	4%	4%	4%	4%	5%	5%	5%	5%	4%	4%	4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



中国：カテゴリー別市場規模の経年変化



中国：カテゴリー割合の経年変化



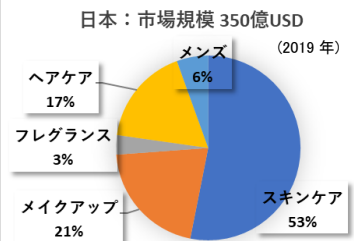
2-4. 日本

カテゴリー別市場規模の経年変化

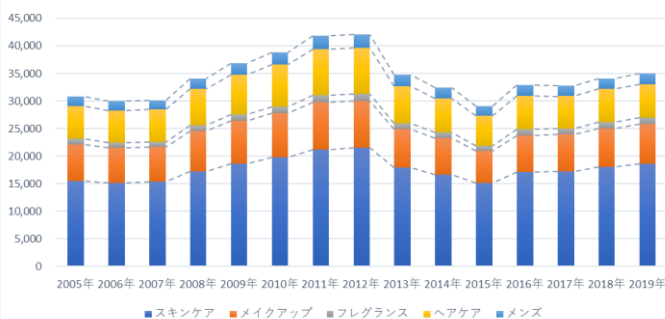
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	15,511	15,184	15,340	17,280	18,669	19,730	21,189	21,525	17,921	16,703	15,101	17,056	17,194	17,983	18,598
メイクアップ	6,625	6,291	6,320	7,212	7,698	8,020	8,525	8,439	6,917	6,513	5,849	6,728	6,744	7,074	7,249
フレグランス	997	948	966	1,092	1,176	1,256	1,370	1,371	1,132	1,064	973	1,100	1,108	1,167	1,189
ヘアケア	5,964	5,877	5,821	6,589	7,166	7,618	8,272	8,254	6,747	6,194	5,407	6,055	5,857	5,936	6,034
メンズ	1,753	1,726	1,718	1,938	2,091	2,255	2,497	2,496	2,067	1,925	1,705	1,922	1,882	1,912	1,934
合計 (百万 USD)	30,850	30,026	30,165	34,111	36,800	38,878	41,853	42,086	34,785	32,398	29,035	32,862	32,785	34,071	35,004

カテゴリー別割合の経年変化

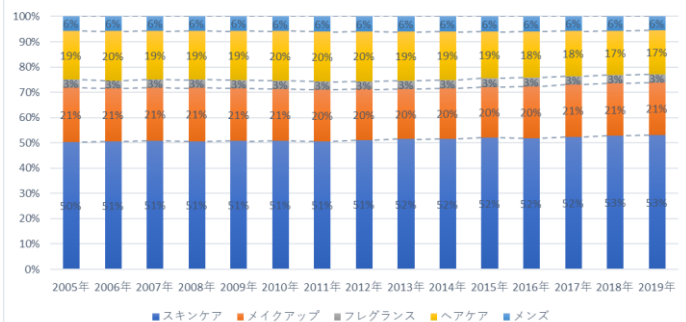
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	50%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	52%	52%	52%	52%	52%	53%	53%
メイクアップ	21%	21%	21%	21%	21%	21%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	21%	21%	21%
フレグランス	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%
ヘアケア	19%	20%	19%	19%	19%	20%	20%	19%	19%	19%	18%	18%	17%	17%	17%
メンズ	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%	6%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



日本：カテゴリー別市場規模の経年変化



日本：カテゴリー割合の経年変化



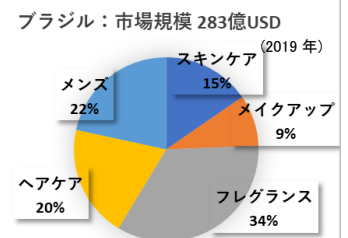
2-5. ブラジル

カテゴリー別市場規模の経年変化

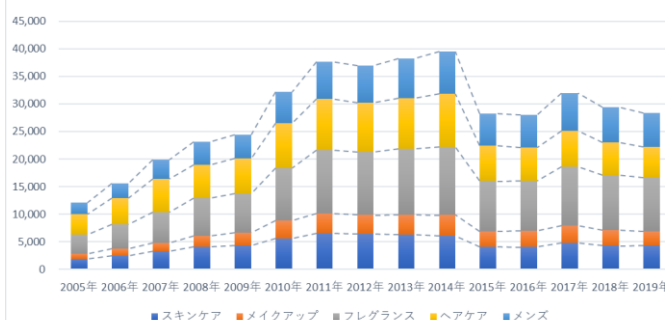
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	1,861	2,466	3,216	4,098	4,353	5,598	6,490	6,367	6,314	6,112	4,104	4,099	4,772	4,332	4,355
メイクアップ	989	1,294	1,596	1,982	2,251	3,211	3,648	3,573	3,636	3,774	2,779	2,860	3,186	2,786	2,552
フレグランス	3,390	4,383	5,601	6,878	7,158	9,547	11,428	11,354	11,906	12,368	9,141	9,098	10,631	10,005	9,703
ヘアケア	3,788	4,795	5,938	5,967	6,320	8,171	9,340	8,967	9,188	9,589	6,367	6,017	6,536	5,915	5,588
メンズ	2,056	2,705	3,518	4,174	4,330	5,677	6,773	6,728	7,199	7,610	5,857	5,935	6,844	6,365	6,117
合計 (百万 USD)	12,083	15,642	19,869	23,098	24,412	32,204	37,679	36,990	38,242	39,453	28,249	28,009	31,970	29,404	28,314

カテゴリー別割合の経年変化

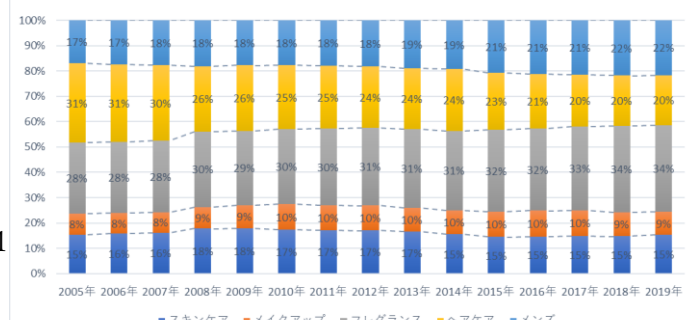
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	15%	16%	16%	18%	18%	17%	17%	17%	17%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
メイクアップ	8%	8%	8%	9%	9%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	9%	9%	9%
フレグランス	28%	28%	28%	30%	29%	30%	30%	31%	31%	31%	32%	32%	33%	34%	34%
ヘアケア	31%	31%	30%	26%	26%	25%	25%	24%	24%	23%	21%	20%	20%	20%	20%
メンズ	17%	17%	18%	18%	18%	18%	18%	19%	19%	21%	21%	21%	22%	22%	22%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



ブラジル：カテゴリー別市場規模の経年変化



ブラジル：カテゴリー割合の経年変化



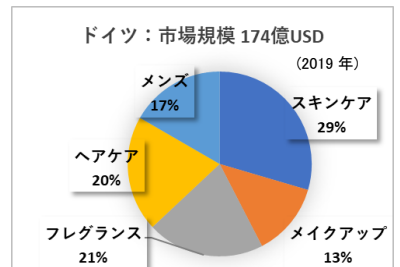
2-6. ドイツ

カテゴリー別市場規模の経年変化

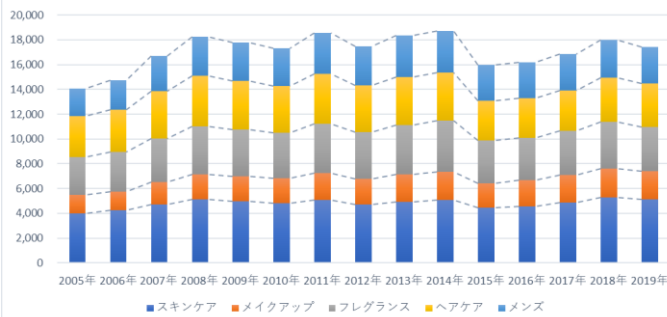
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	4,015	4,233	4,723	5,151	4,977	4,843	5,096	4,729	4,923	5,085	4,438	4,572	4,866	5,265	5,142
メイクアップ	1,493	1,514	1,782	2,021	2,029	1,982	2,145	2,058	2,200	2,285	1,993	2,092	2,225	2,350	2,241
フレグランス	3,044	3,184	3,557	3,871	3,762	3,669	3,993	3,791	4,001	4,091	3,446	3,453	3,561	3,758	3,592
ヘアケア	3,305	3,410	3,824	4,074	3,908	3,771	4,030	3,739	3,873	3,878	3,215	3,189	3,252	3,569	3,528
メンズ	2,190	2,377	2,804	3,143	3,099	3,043	3,320	3,166	3,346	3,399	2,902	2,887	2,937	3,062	2,906
合計 (百万 USD)	14,046	14,718	16,690	18,260	17,775	17,308	18,583	17,483	18,343	18,738	15,993	16,193	16,840	18,004	17,409

カテゴリー別割合の経年変化

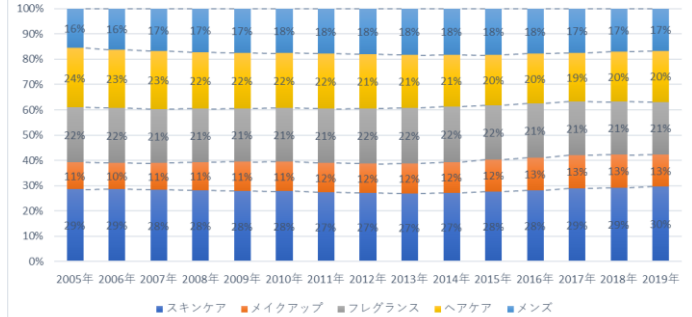
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	29%	29%	28%	28%	28%	28%	27%	27%	27%	27%	28%	28%	29%	29%	30%
メイクアップ	11%	10%	11%	11%	11%	11%	12%	12%	12%	12%	12%	13%	13%	13%	13%
フレグランス	22%	22%	21%	21%	21%	21%	21%	22%	22%	22%	22%	21%	21%	21%	21%
ヘアケア	24%	23%	23%	22%	22%	22%	22%	21%	21%	21%	20%	20%	19%	20%	20%
メンズ	16%	16%	17%	17%	17%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	18%	17%	17%	17%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



ドイツ：カテゴリー別市場規模の経年変化



ドイツ：カテゴリー割合の経年変化



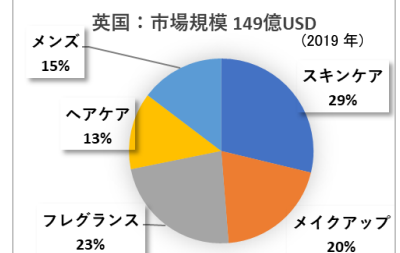
2-7. 英国

カテゴリー別市場規模の経年変化

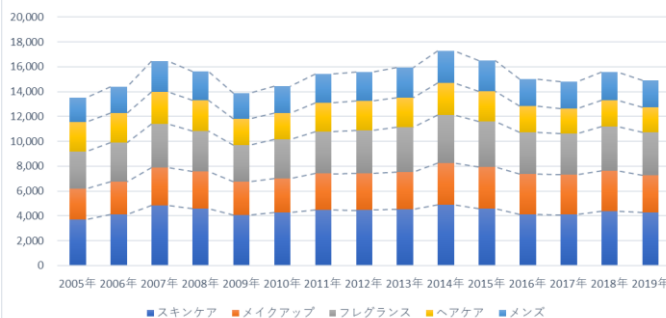
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	3,694	4,095	4,821	4,600	4,093	4,261	4,486	4,480	4,530	4,881	4,597	4,137	4,108	4,379	4,292
メイクアップ	2,507	2,664	3,078	2,954	2,642	2,752	2,919	2,936	3,007	3,347	3,329	3,210	3,199	3,256	2,977
フレグランス	2,976	3,121	3,482	3,302	2,971	3,140	3,391	3,484	3,606	3,895	3,698	3,372	3,336	3,573	3,446
ヘアケア	2,358	2,405	2,624	2,427	2,103	2,139	2,302	2,348	2,393	2,585	2,418	2,099	1,978	2,084	2,009
メンズ	1,971	2,097	2,462	2,350	2,072	2,152	2,305	2,344	2,385	2,591	2,443	2,214	2,163	2,279	2,194
合計 (百万 USD)	13,506	14,381	16,467	15,633	13,880	14,445	15,402	15,591	15,921	17,298	16,484	15,032	14,784	15,571	14,918

カテゴリー別割合の経年変化

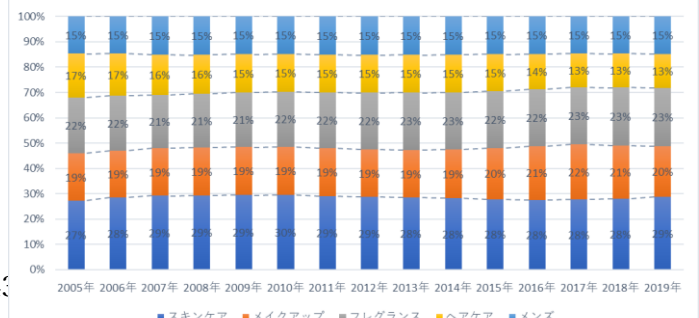
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	27%	28%	29%	29%	29%	30%	29%	29%	28%	28%	28%	28%	28%	29%	29%
メイクアップ	19%	19%	19%	19%	19%	19%	19%	19%	19%	20%	21%	22%	21%	20%	20%
フレグランス	22%	22%	21%	21%	21%	22%	22%	22%	23%	23%	22%	22%	23%	23%	23%
ヘアケア	17%	17%	16%	16%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	14%	13%	13%	13%	13%
メンズ	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



英国：カテゴリー別市場規模の経年変化



英国：カテゴリー割合の経年変化



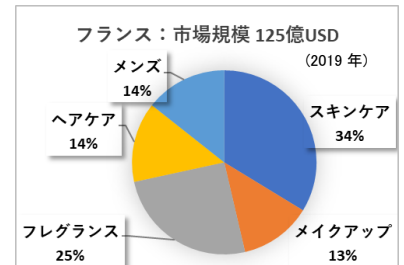
2-8. フランス

カテゴリー別市場規模の経年変化

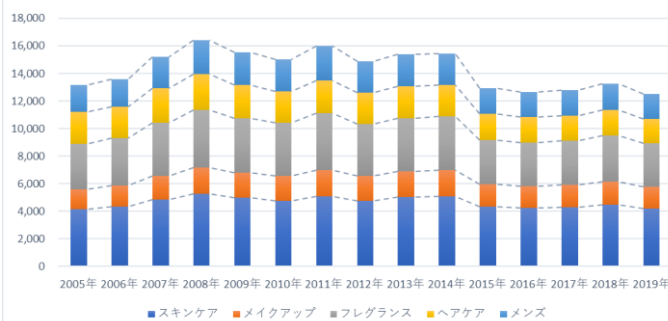
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	4,142	4,355	4,854	5,263	4,964	4,774	5,070	4,757	5,010	5,077	4,334	4,225	4,270	4,452	4,215
メイクアップ	1,457	1,509	1,709	1,894	1,841	1,803	1,924	1,798	1,873	1,899	1,611	1,610	1,643	1,695	1,580
フレグランス	3,302	3,430	3,879	4,183	3,965	3,843	4,116	3,795	3,885	3,888	3,225	3,169	3,219	3,351	3,152
ヘアケア	2,310	2,295	2,487	2,613	2,400	2,267	2,383	2,253	2,323	2,304	1,881	1,820	1,799	1,870	1,759
メンズ	1,940	2,004	2,268	2,465	2,386	2,328	2,489	2,286	2,321	2,288	1,887	1,844	1,841	1,905	1,793
合計 (百万 USD)	13,150	13,593	15,197	16,417	15,555	15,016	15,982	14,888	15,412	15,456	12,937	12,668	12,771	13,274	12,499

カテゴリー別割合の経年変化

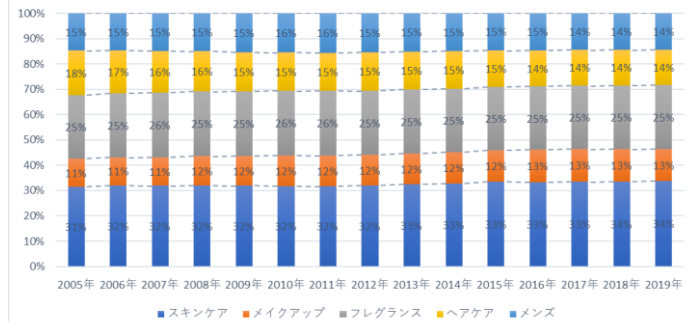
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	31%	32%	32%	32%	32%	32%	32%	32%	33%	33%	33%	33%	33%	34%	34%
メイクアップ	11%	11%	11%	12%	12%	12%	12%	12%	12%	12%	12%	13%	13%	13%	13%
フレグランス	25%	25%	26%	25%	25%	26%	26%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%
ヘアケア	18%	17%	16%	16%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	14%	14%	14%	14%	14%
メンズ	15%	15%	15%	15%	15%	16%	15%	15%	15%	15%	15%	14%	14%	14%	14%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



フランス：カテゴリー別市場規模の経年変化



フランス：カテゴリー割合の経年変化

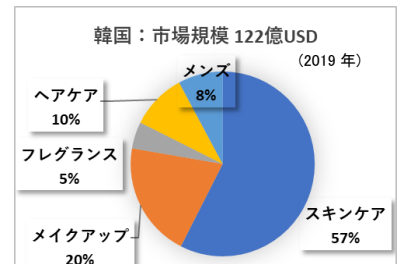


2-9. 韓国

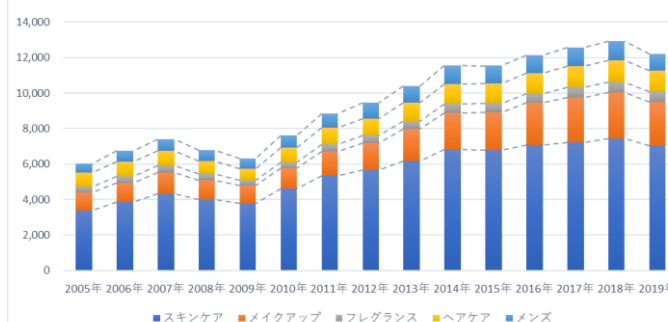
カテゴリー別市場規模の経年変化

カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	3,389	3,858	4,342	4,021	3,794	4,602	5,347	5,675	6,179	6,834	6,804	7,081	7,229	7,422	7,030
メイクアップ	1,009	1,085	1,189	1,081	993	1,165	1,384	1,518	1,786	2,060	2,128	2,381	2,533	2,613	2,470
フレグランス	322	356	381	336	301	342	381	408	445	494	492	513	557	591	571
ヘアケア	790	842	845	726	665	807	922	966	1,037	1,125	1,110	1,132	1,190	1,223	1,193
メンズ	533	616	660	607	564	688	795	876	965	1,056	1,018	1,036	1,065	1,080	959
合計 (百万 USD)	6,044	6,757	7,418	6,771	6,317	7,604	8,829	9,444	10,411	11,568	11,552	12,144	12,573	12,929	12,223

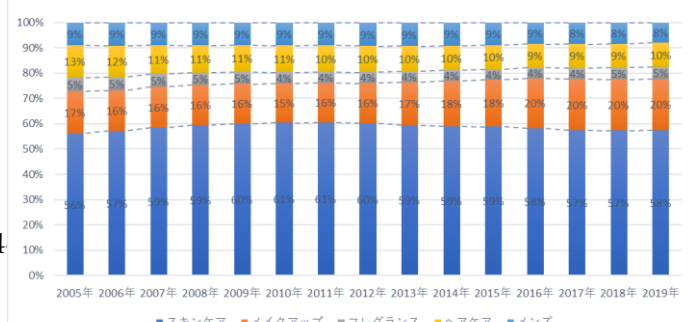
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	56%	57%	59%	59%	60%	61%	61%	60%	59%	59%	59%	58%	57%	57%	58%
メイクアップ	17%	16%	16%	16%	16%	15%	16%	16%	17%	18%	18%	20%	20%	20%	20%
フレグランス	5%	5%	5%	5%	5%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	5%	5%
ヘアケア	13%	12%	11%	11%	11%	11%	10%	10%	10%	10%	9%	9%	9%	9%	10%
メンズ	9%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	9%	8%	8%	8%	8%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



韓国：カテゴリー別市場規模の経年変化



韓国：カテゴリー割合の経年変化



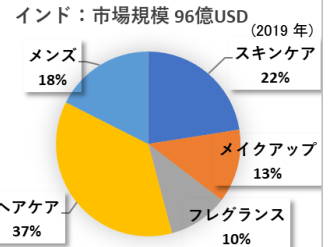
2-10. インド

カテゴリ別市場規模の経年変化

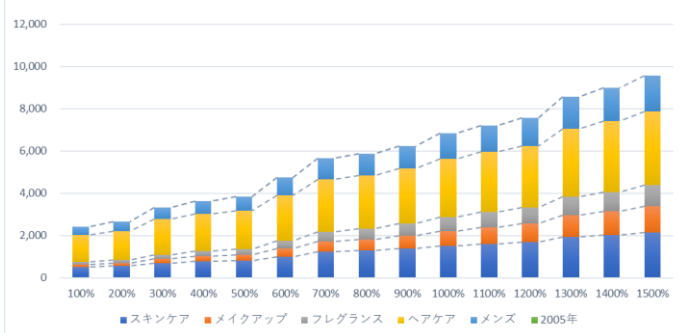
カテゴリ	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	514	558	691	770	799	1,007	1,229	1,291	1,383	1,515	1,615	1,701	1,931	2,026	2,153
メイクアップ	114	144	204	248	283	378	480	532	610	706	789	868	1,019	1,109	1,230
フレグランス	138	156	205	240	275	369	467	514	575	658	718	772	879	934	1,002
ヘアケア	1,252	1,363	1,670	1,771	1,809	2,161	2,484	2,504	2,598	2,752	2,831	2,905	3,235	3,354	3,497
メンズ	399	429	554	605	664	843	990	1,029	1,086	1,201	1,269	1,334	1,513	1,583	1,680
合計 (百万 USD)	2,417	2,649	3,323	3,635	3,830	4,758	5,651	5,869	6,252	6,831	7,222	7,580	8,577	9,007	9,562

カテゴリ別割合の経年変化

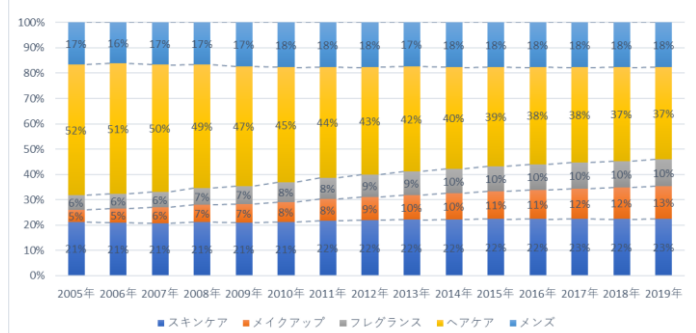
カテゴリ	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	21%	21%	21%	21%	21%	21%	22%	22%	22%	22%	22%	22%	23%	22%	23%
メイクアップ	5%	5%	6%	7%	7%	8%	8%	9%	10%	10%	11%	11%	12%	12%	13%
フレグランス	6%	6%	6%	7%	7%	8%	8%	9%	9%	10%	10%	10%	10%	10%	10%
ヘアケア	52%	51%	50%	49%	47%	45%	44%	43%	42%	40%	39%	38%	38%	37%	37%
メンズ	17%	16%	17%	17%	17%	18%	18%	18%	17%	18%	18%	18%	18%	18%	18%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



インド：カテゴリ別市場規模の経年変化



インド：カテゴリ割合の経年変化



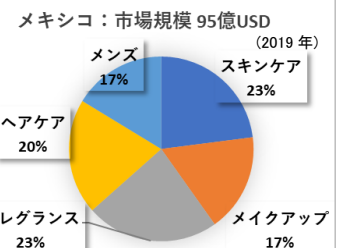
2-11. メキシコ

カテゴリ別市場規模の経年変化

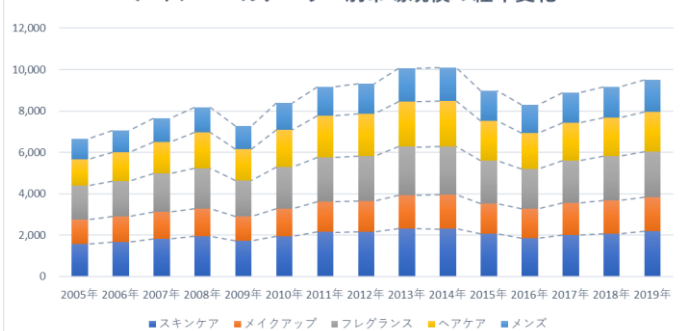
カテゴリ	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	1,574	1,659	1,818	1,931	1,725	1,958	2,152	2,171	2,329	2,326	2,054	1,865	2,000	2,071	2,185
メイクアップ	1,180	1,234	1,306	1,356	1,178	1,334	1,461	1,481	1,605	1,638	1,456	1,418	1,557	1,611	1,636
フレグランス	1,632	1,724	1,860	1,952	1,734	1,993	2,140	2,179	2,335	2,314	2,075	1,902	2,046	2,127	2,214
ヘアケア	1,261	1,381	1,526	1,723	1,531	1,815	2,004	2,024	2,173	2,197	1,921	1,737	1,821	1,854	1,924
メンズ	993	1,057	1,135	1,221	1,105	1,282	1,405	1,473	1,623	1,631	1,457	1,365	1,449	1,506	1,552
合計 (百万 USD)	6,641	7,054	7,645	8,183	7,272	8,382	9,162	9,328	10,065	10,106	8,964	8,288	8,872	9,168	9,511

カテゴリ別割合の経年変化

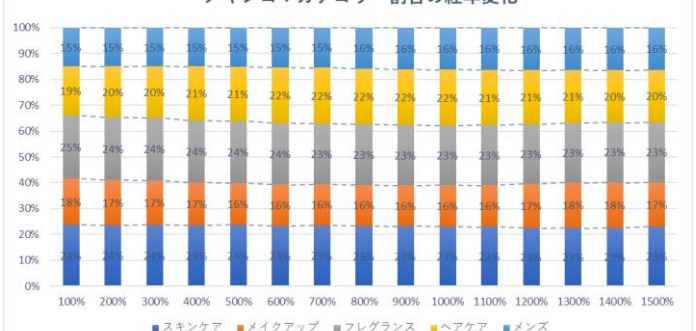
カテゴリ	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	33%	33%	34%	33%	33%	33%	33%	32%	32%	32%	32%	32%	33%	33%	33%
メイクアップ	16%	16%	15%	16%	16%	16%	16%	17%	18%	18%	19%	19%	19%	19%	19%
フレグランス	19%	19%	19%	19%	19%	20%	20%	19%	19%	20%	20%	20%	20%	20%	21%
ヘアケア	18%	18%	17%	17%	18%	17%	17%	17%	17%	16%	16%	15%	15%	15%	15%
メンズ	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	13%	13%	13%	13%	13%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



メキシコ：カテゴリ別市場規模の経年変化



メキシコ：カテゴリ割合の経年変化



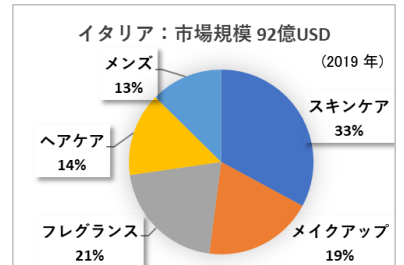
2-12. イタリア

カテゴリー別市場規模の経年変化

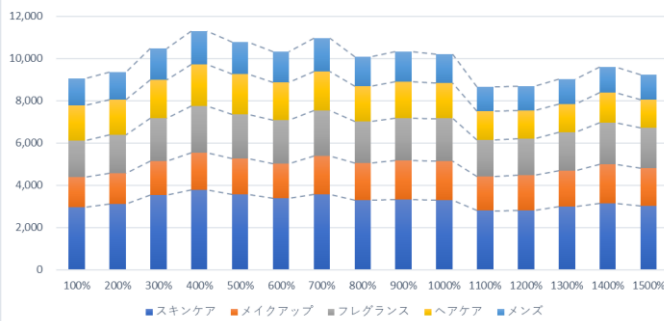
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	2,970	3,124	3,528	3,783	3,558	3,383	3,585	3,295	3,338	3,309	2,817	2,825	2,990	3,159	3,035
メイクアップ	1,415	1,460	1,609	1,767	1,711	1,651	1,800	1,754	1,844	1,838	1,598	1,642	1,712	1,839	1,771
フレグランス	1,733	1,801	2,036	2,204	2,095	2,042	2,162	1,965	2,009	2,016	1,727	1,748	1,796	1,954	1,906
ヘアケア	1,668	1,668	1,826	1,967	1,904	1,786	1,854	1,683	1,711	1,668	1,378	1,330	1,357	1,423	1,350
メンズ	1,283	1,303	1,468	1,585	1,511	1,468	1,551	1,404	1,417	1,380	1,153	1,153	1,168	1,227	1,168
合計 (百万 USD)	9,070	9,356	10,468	11,307	10,779	10,330	10,952	10,100	10,318	10,211	8,672	8,697	9,023	9,602	9,231

カテゴリー別割合の経年変化

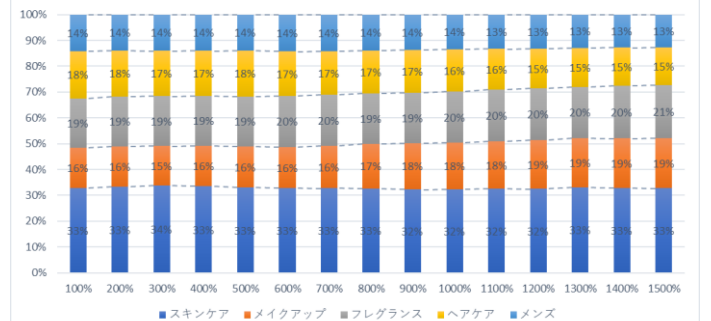
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	33%	33%	34%	33%	33%	33%	33%	33%	32%	32%	32%	32%	33%	33%	33%
メイクアップ	16%	16%	15%	16%	16%	16%	16%	17%	18%	18%	18%	19%	19%	19%	19%
フレグランス	19%	19%	19%	19%	19%	20%	20%	19%	19%	20%	20%	20%	20%	20%	21%
ヘアケア	18%	18%	17%	17%	18%	17%	17%	17%	17%	16%	15%	15%	15%	15%	15%
メンズ	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	13%	13%	13%	13%	13%	13%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



イタリア：カテゴリー別市場規模の経年変化



イタリア：カテゴリー割合の経年変化



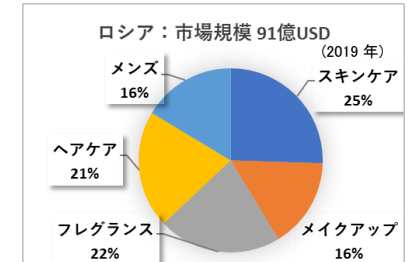
2-13. ロシア

カテゴリー別市場規模の経年変化

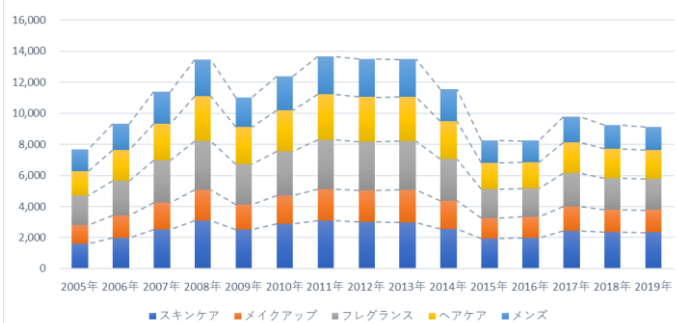
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	1,597	1,994	2,528	3,085	2,522	2,882	3,076	2,995	2,982	2,554	1,948	1,986	2,423	2,337	2,331
メイクアップ	1,201	1,414	1,712	1,974	1,590	1,818	2,057	2,056	2,093	1,821	1,321	1,349	1,591	1,464	1,444
フレグランス	1,904	2,240	2,749	3,132	2,612	2,871	3,174	3,136	3,135	2,686	1,829	1,803	2,126	2,015	1,979
ヘアケア	1,574	1,974	2,355	2,921	2,380	2,635	2,910	2,878	2,856	2,446	1,726	1,701	2,009	1,903	1,883
メンズ	1,401	1,684	2,067	2,358	1,909	2,161	2,429	2,427	2,417	2,031	1,425	1,398	1,640	1,536	1,498
合計 (百万 USD)	7,677	9,307	11,411	13,471	11,013	12,366	13,644	13,491	13,482	11,538	8,250	8,237	9,789	9,254	9,134

カテゴリー別割合の経年変化

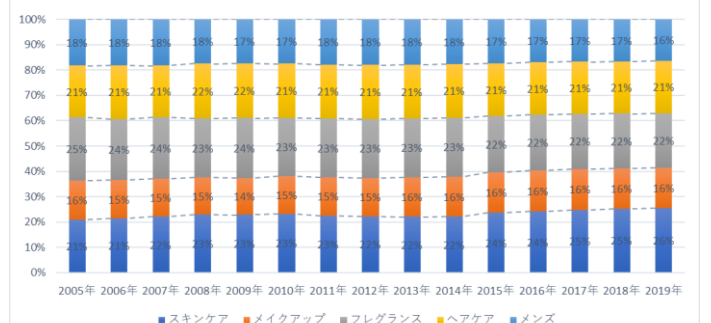
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	21%	21%	22%	23%	23%	23%	23%	22%	22%	22%	24%	24%	25%	25%	26%
メイクアップ	16%	15%	15%	15%	14%	15%	15%	15%	16%	16%	16%	16%	16%	16%	16%
フレグランス	25%	24%	24%	23%	24%	23%	23%	23%	23%	23%	22%	22%	22%	22%	22%
ヘアケア	21%	21%	21%	22%	22%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	21%
メンズ	18%	18%	18%	18%	17%	17%	18%	18%	18%	18%	17%	17%	17%	17%	16%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



ロシア：カテゴリー別市場規模の経年変化



ロシア：カテゴリー割合の経年変化



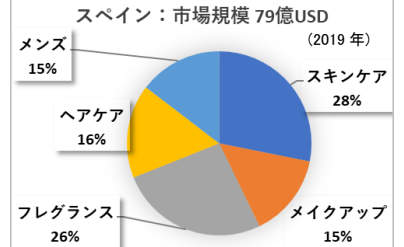
2-14. スペイン

カテゴリー別市場規模の経年変化

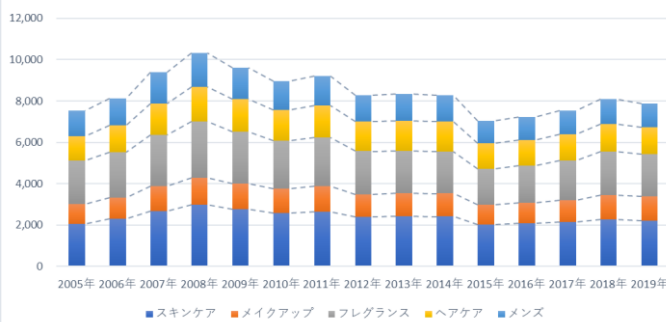
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	2,058	2,303	2,686	2,978	2,768	2,579	2,656	2,397	2,419	2,416	2,026	2,071	2,142	2,286	2,218
メイクアップ	952	1,025	1,188	1,317	1,240	1,178	1,226	1,096	1,122	1,119	963	1,010	1,065	1,169	1,155
フレグランス	2,098	2,204	2,498	2,714	2,506	2,316	2,354	2,085	2,055	2,018	1,734	1,806	1,920	2,087	2,056
ヘアケア	1,184	1,283	1,512	1,668	1,583	1,494	1,542	1,425	1,460	1,461	1,240	1,239	1,274	1,350	1,297
メンズ	1,236	1,318	1,512	1,653	1,514	1,401	1,441	1,281	1,287	1,257	1,067	1,095	1,135	1,199	1,148
合計 (百万 USD)	7,528	8,133	9,396	10,329	9,611	8,968	9,218	8,285	8,343	8,271	7,030	7,220	7,537	8,091	7,874

カテゴリー別割合の経年変化

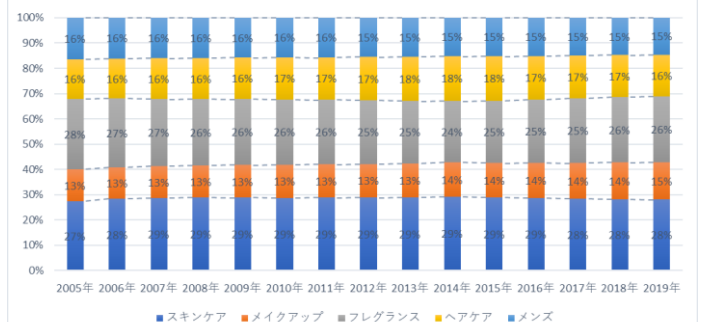
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	27%	28%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	29%	28%	28%	28%
メイクアップ	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	14%	14%	14%	14%	14%	15%
フレグランス	28%	27%	27%	26%	26%	26%	26%	25%	25%	24%	25%	25%	25%	26%	26%
ヘアケア	16%	16%	16%	16%	16%	17%	17%	17%	18%	18%	17%	17%	17%	17%	16%
メンズ	16%	16%	16%	16%	16%	16%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



スペイン：カテゴリー別市場規模の経年変化



スペイン：カテゴリー割合の経年変化



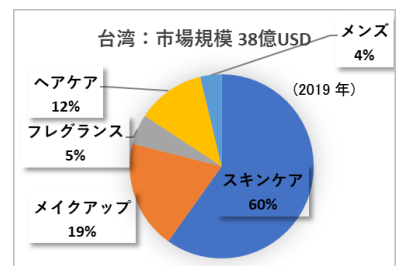
2-15. 台湾

カテゴリー別市場規模の経年変化

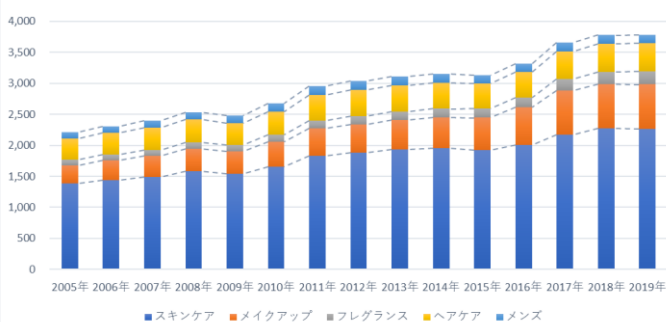
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	1,383	1,440	1,493	1,580	1,543	1,655	1,829	1,884	1,939	1,952	1,918	2,003	2,167	2,271	2,266
メイクアップ	297	317	334	362	361	403	443	457	472	501	533	610	717	719	722
フレグランス	93	95	97	104	101	110	123	129	135	141	143	160	183	192	200
ヘアケア	339	353	366	371	352	377	418	422	419	412	399	411	450	458	455
メンズ	99	106	113	121	119	129	144	144	145	143	135	134	141	141	142
合計 (百万 USD)	2,210	2,310	2,402	2,537	2,476	2,674	2,957	3,035	3,110	3,149	3,129	3,318	3,658	3,782	3,785

カテゴリー別割合の経年変化

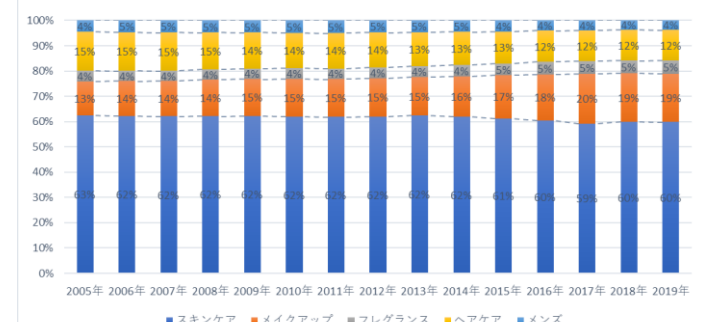
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	63%	62%	62%	62%	62%	62%	62%	62%	62%	62%	61%	60%	59%	60%	60%
メイクアップ	13%	14%	14%	14%	15%	15%	15%	15%	15%	16%	17%	18%	20%	19%	19%
フレグランス	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	5%	5%	5%	5%	5%
ヘアケア	15%	15%	15%	15%	14%	14%	14%	14%	13%	13%	13%	12%	12%	12%	12%
メンズ	4%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	4%	4%	4%	4%	4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



台湾：カテゴリー別市場規模の経年変化



台湾：カテゴリー割合の経年変化



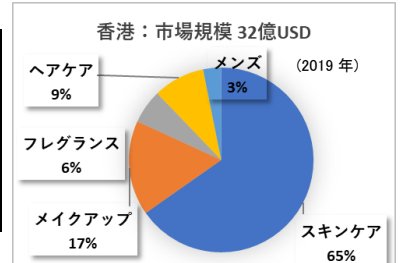
2-16. 香港

カテゴリー別市場規模の経年変化

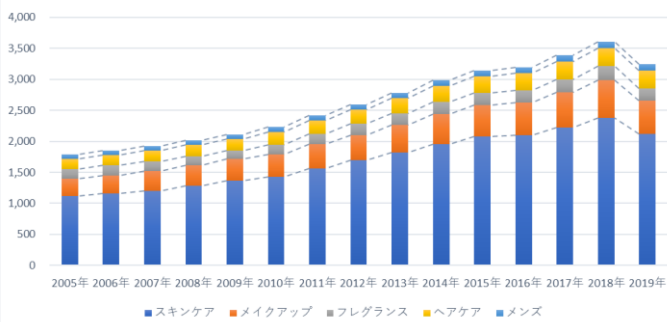
カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	1,120	1,159	1,198	1,281	1,362	1,430	1,566	1,693	1,822	1,958	2,074	2,099	2,225	2,373	2,119
メイクアップ	282	295	318	334	350	360	384	411	444	480	509	525	566	614	538
フレグランス	150	155	160	147	134	151	165	176	189	203	200	200	210	222	193
ヘアケア	167	174	180	187	193	214	221	229	240	252	265	273	282	289	293
メンズ	69	71	73	72	71	76	80	85	90	96	99	101	103	107	103
合計 (百万 USD)	1,787	1,853	1,929	2,020	2,110	2,230	2,416	2,594	2,785	2,988	3,146	3,198	3,386	3,605	3,246

カテゴリー別割合の経年変化

カテゴリー	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
スキンケア	63%	63%	62%	63%	65%	64%	65%	65%	65%	66%	66%	66%	66%	66%	65%
メイクアップ	16%	16%	16%	17%	17%	16%	16%	16%	16%	16%	16%	16%	17%	17%	17%
フレグランス	8%	8%	8%	7%	6%	7%	7%	7%	7%	7%	6%	6%	6%	6%	6%
ヘアケア	9%	9%	9%	9%	9%	10%	9%	9%	9%	8%	9%	8%	8%	8%	9%
メンズ	4%	4%	4%	4%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



香港：カテゴリー別市場規模の経年変化



香港：カテゴリー割合の経年変化

